

異文化間教育

担当者：佐藤 千瀬

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現在、日本の保育所・幼稚園・小学校等において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション・多文化共生保育等の理論と実践について概説する。さらに、外国人の子どもたち・家族とコミュニケーションをとる上で必要となる、世界の保育・教育に関する情報を収集し、発表する。

英語や多言語による授業、映像を用いた授業、海外の遊びや歌、ロールプレイ等参加型の授業を行う。

カリキュラム上の位置づけ：

4年次に「海外実習（SAINTS）」の履修を希望する者は、本講義を履修することが望ましい。また、保育士資格取得のための選択必修科目である。

2.学びの意義と目標

・世界の子どもたちと家族の現状を知り、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。

・適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表を行う。

準備学習(予習)

人数が多い場合は、グループワークとグループ発表を行う。

人数が少ない場合は、個人で調べた上で、発表を行う。

そのため、発表準備が必要となる。

準備学習(復習)

授業で視聴した映像についての考察や、事例分析等をまとめ、提出する。

発表後のフィードバックをもとに、最終レポートをまとめる。

授業計画

- 1.オリエンテーション 異文化間教育
- 2.異文化適応
- 3.コミュニケーション・ギャップ
- 4.バイリンガル教育
- 5.異文化間コミュニケーション
- 6.異文化間トレーニング
- 7.多文化共生保育
- 8.多文化共生保育（事例検討）
- 9.世界の保育・教育と子どもたち 発表準備
- 10.世界の保育・教育と子どもたち（発表・補足講義）
- 11.世界の保育・教育と子どもたち（発表・補足講義）
- 12.世界の保育・教育と子どもたち（発表・補足講義）
- 13.ひょうたん島問題
- 14.海外の手遊び・遊び・歌
- 15.日本における外国人の子ども保育・教育の実践 まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:50%:出席点ではない。(2)発表:25% (3)レポート:25%

英語圏児童文学講読

担当者：松本 祐子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、英語圏の優れた児童文学作品を取り上げ、訳読する。今回は、アメリカの作家ベバリー・クリアリーの『がんばれ、ヘンリーくん』を読む。

2.学びの意義と目標

日本の英語教育は、現在、コミュニケーション力が重視されているが、文法の知識なしに正しく英語を読み書きすることはできない。また、英文を日本語に置き換えることで、英語と日本語の構造の根本的な違いがわかり、文化や思考方法の違いも見えてくる。作品に描かれる文化的背景についても学びながら、英語で物語を読む達成感を味わってほしい。

準備学習(予習)

毎回、テキスト3～5ページの予習をしてこよう。

準備学習(復習)

授業で確認した新しい文法事項、構文などをよく見直しておくこと。

授業計画

1. 英文和訳のポイント説明
2. 訳読と解説
3. 訳読と解説
4. 訳読と解説
5. 訳読と解説
6. 訳読と解説
7. 訳読と解説
8. 訳読と解説
9. 訳読と解説
10. 訳読と解説
11. 訳読と解説
12. 訳読と解説
13. 訳読と解説
14. 訳読と解説
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)予習状況と出席:70% (2)期末試験:30%

英米児童文学

担当者：松本 祐子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。

2.学びの意義と目標

長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。

準備学習(予習)

最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。

準備学習(復習)

授業時のノートを整理しておくこと。

授業計画

1. 授業説明
2. 伝承文芸:昔話(1)
3. 伝承文芸:昔話(2)
4. 伝承文芸:イギリスの妖精(1)
5. 伝承文芸:イギリスの妖精(2)
6. 伝承文芸:マザーグース(1)
7. 伝承文芸:マザーグース(2)
8. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類
9. 近代ファンタジー:ルイス・キャロル(1)
10. 近代ファンタジー:ルイス・キャロル(2)
11. 家庭小説:オルコット
12. 家庭小説:バーネット(1)
13. 家庭小説:バーネット(2)
14. 動物ファンタジー:ベアトリクス・ポター
15. 動物ファンタジー:マイケル・ボンド、A. A. ミルン
16. エヴリディ・マジックの世界:ネズビット
17. エヴリディ・マジックの世界:トラヴァース
18. エヴリディ・マジックの世界:メアリ・ノートン(1)
19. エヴリディ・マジックの世界:メアリ・ノートン(2)
20. ハイ・ファンタジー:C. S. ルイス
21. ハイ・ファンタジー:トールキン
22. ハイ・ファンタジー:ル・グウィン
23. ハイ・ファンタジー:フィリップ・ブルマン
24. 現代のリアリズム児童文学:カニグズバーグ
25. 人形 の物語:ゴッデン
26. 人形 の物語:シルヴィア・ウォー
27. 現代の魔法:ローリング
28. 現代の魔法:ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
29. 魔法と現実の間:ルイス・サッカー
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)期末試験:40% (2)学期末レポート:30% (3)課題レポート:20% (4)出席:10%

絵本文化論

担当者：上原 里佳

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どもが出会う物語世界の入口にある絵本との出会いは、大人との共同作業によって用意されることから、大人をもう一度、人間の原点である<子ども>世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かを探りつつ、優れた絵本から、子どもの世界の文法、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。

カリキュラム上の位置づけ：

児童学科専門科目群「児童文化系統」の選択科目。幼稚園教諭免許状資格科目（選択）、保育士資格科目（選択）としても指定されている。絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。

2.学びの意義と目標

児童学科専門科目群「児童文化系統」の選択科目。幼稚園教諭免許状資格科目（選択）、保育士資格科目（選択）としても指定されており、絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。

子どもが「描かれた世界」をどう受けとめ、どのように心を養っていくのか、そこに「絵本」という媒体や大人はどう関わるのか、保育・教育現場で用いることも考慮しつつ絵本が作り出す<場>の意味と可能性を学んでほしい。

準備学習(予習)

日ごろから、図書館・書店等を利用し積極的に絵本に触れる機会をつくること。特に図書館はリクエストをかければ古い絵本も見ることができますので、上手に活用しましょう。

準備学習(復習)

授業で取り上げた絵本を、実際に図書館・書店などで、自ら手にしてみる。実際に子どもに接する機会がある人は、読み聞かせをして彼らの反応を観察すること。

授業計画

1. イントロダクション・アンケート
2. 子どもと絵本の出会い・赤ちゃん絵本
3. 絵本の誕生・イギリス編
4. 子どもの生活に関する絵本
5. 言葉の絵本
6. 文字なし絵本 1
7. 文字なし絵本 2
8. 写真絵本
9. 数の絵本
10. 時間・比較の絵本
11. 絵本に登場する老人たち
12. 絵本の歴史・日本編
13. 絵本から学ぶ「友達」
14. 総括、復習
15. テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

復習、期末テストで必要となるので、講義中にノートをとること。

おもちゃ論

担当者：是澤 優子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

おもちゃは、子どもの遊びと深くかかわっている。おもちゃを基軸に自身の成長過程を振り返りながら、子どもの世界とおもちゃの関係を探る。さらに、伝統的玩具から現代まで、おもちゃの流れを概観しながら時代や社会を映すおもちゃの特質を読み解いていく。

2.学びの意義と目標

講義と合わせて討論・報告を行いながら授業を進める。子どもとおもちゃについて考えることに加え、「人間の生活に、なぜおもちゃが必要なのか」について、受講生が自分の考えを明確に表現できることを目標とする。

準備学習(予習)

玩具売り場やおもちゃ美術館などを利用して、玩具に触れておく。

準備学習(復習)

授業で取り上げたおもちゃを、上記の場を使って実際に手にしてみることを。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもと玩具(1):おもちゃに関する自身の記憶をたどる
3. 子どもと玩具(2):おもちゃと遊びの関連
4. 子どもと玩具(3):子どもにとっておもちゃとは何か
5. 子どもの発達とおもちゃ
6. 玩具小史(1):「持ち遊びもの」の時代
7. 玩具小史(2):「教育玩具」の誕生とその背景
8. 玩具小史(3):戦後の玩具事情
9. 玩具小史(4):玩具の現状
10. 情報化と玩具
11. 玩具の安全性
12. 発表：子どもに薦めたい玩具(第1回)
13. 発表：子どもに薦めたい玩具(第2回)
14. 討論：伝統的玩具と現代的玩具に内在する要因について
15. まとめ：子どもの文化財としての玩具 - 不変性と流行性

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業参加態度:20% (2)授業内提出物:40% (3)課題レポート:40%

音楽・合奏指導 A

担当者：山田 裕治, 東海 千浪, 村山 良介

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

オーケストラ(管弦楽)、ブラスバンド(吹奏楽)で主たる、弦楽器、管楽器、打楽器の実技習得を中心に、15回の授業でどのように演奏技術が蓄積されていくか、選曲した楽曲の音楽作りが成されていくかを学ぶ。合奏の編成は、それぞれの楽器群(弦楽器、管楽器、打楽器)に分かれたアンサンブル(小編成器楽合奏)を軸に、オーケストラ(全体合奏)も演奏する。

16回目に行われる演奏会形式公開試験(発表)に向かって、演奏会(試験)当日の準備や段取りも含め、その一連の事柄に対応する柔軟さを、経験を通して学ぶ。

2.学びの意義と目標

幼稚園、保育園、特に小学校の教育現場からの合奏指導の要望に応える為に、オーケストラ(弦楽器、管楽器、打楽器)や小編成の楽器群(前述)のアンサンブルを中心に、楽器奏法と、他人(ひと)といかに音や心を合奏の中で合わせるかを学ぶ。さらに、一つの演奏会が創られていく過程と意味を学ぶ。

準備学習(予習)

楽譜を読めるように努力してくること。
テキストとして渡された譜面を読んでくこと。

準備学習(復習)

自分の得手、不得手を把握して、次の授業に繋げること。

授業計画

1. 沢山の種類の楽器の中から、担当の楽器を決める。
2. 弦、管、打楽器に分かれて、楽器の扱いを覚える。
3. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(1)
4. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(2)
5. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(3)
6. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(4)
7. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(1)
8. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(2)
9. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(3)
10. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(4)
11. 各曲の音楽作りを深める。(1)
12. 各曲の音楽作りを深める。(2)
13. 各曲の音楽作りを深める。(3)
14. 各曲の音楽作りを深める。(4)
15. 管弦楽曲を全体で合わせ、練習する。

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:75% (2)試験点:25%

音楽・合奏指導 B

担当者：山田 裕治, 東海 千浪, 村山 良介

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

オーケストラ(管弦楽)、ブラスバンド(吹奏楽)の主たる、弦楽器、管楽器、打楽器の中から担当する楽器を選び、15回の授業でどのように演奏技術が習得されていくか、課題として選曲した楽曲の音楽作りがいかに成されていくかを学ぶ。

合奏の編成はオーケストラ(弦楽器、管楽器、打楽器)と、それぞれの楽器群(前述)に分かれたアンサンブル(小編成器楽合奏)で演奏する。16回目に行われる演奏会形式公開試験(発表)に向かって演奏会(試験)当日の準備や段取りも含め、その一連の事柄に対応する柔軟さを、経験を通して学ぶ。

2.学びの意義と目標

幼稚園、保育園、特に小学校の教育現場からの要望に応える為に、それぞれの合奏編成(オーケストラ、アンサンブル)を中心に、楽器奏法と、他人(ひと)といかに音や心を合奏の中で合わせるかを学ぶ。さらに、一つの演奏会が創られていく過程と意味を学ぶ。

準備学習(予習)

楽譜を読めるように努力してこること。
テキストとして渡された譜面を読んでこること。

準備学習(復習)

自分の得手不得手を把握して、次の授業に繋げること。

授業計画

1. 沢山の種類の楽器の中から、担当の楽器を決める。
2. 弦、管、打楽器に分かれて、楽器の扱いを覚える。
3. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(1)
4. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(2)
5. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(3)
6. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(4)
7. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(1)
8. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(2)
9. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(3)
10. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(4)
11. 各曲の音楽作りを深める。(1)
12. 各曲の音楽作りを深める。(2)
13. 各曲の音楽作りを深める。(3)
14. 各曲の音楽作りを深める。(4)
15. 管弦楽曲を全体合奏で練習する。

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:75% (2)試験点:25%

音楽・器楽 A

担当者：池上 真理子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切でかけがえのないものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操ることのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。それに際して必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より、学生自身が音楽の喜び、楽しさを身をもって体験し、それを子供たちに伝えることができるような教員になれるようにすることが、本授業でピアノを学ぶ最も大切な目標である。

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかり練習すること。

授業計画

1. レベル・チェック、目標設定、課題決定
2. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
3. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
4. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
5. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
6. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
7. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
8. 前半のまとめ
9. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

教科書

授業の中で指示する
各学生のレベル、目的に即した課題を指示する

評価方法

- (1)発表:70%:最後の授業内で、仕上げた課題を発表する
- (2)平常点・出席:30%:出席は重視する

音楽・器楽 A

担当者：阪 まどか

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。
この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。

準備学習(復習)

授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス (レベルチェック、曲決め等)
2. ピアノ演奏の実践 (個々の進度に合わせたレッスンを行う)
3. ピアノ演奏の実践 (以下同じ)
4. ピアノ演奏の実践
5. ピアノ演奏の実践
6. ピアノ演奏の実践
7. ピアノ演奏の実践
8. ピアノ演奏の実践
9. ピアノ演奏の実践
10. ピアノ演奏の実践
11. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲選定)
12. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲の練習)
13. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲の練習)
14. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲の練習)
15. まとめ (発表)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・学習態度:50% (2)発表:50%
出席点について：毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。
ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

音楽・器楽A

担当者：渋谷 みどり

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業ではピアノによる音楽表現の技能習得と音楽性の向上を目指す。

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること

授業計画

- 1.ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
- 2.ピアノ演奏の基礎(1) 曲の中でのいろいろな音符の弾き方
- 3.ピアノ演奏の基礎(2) 曲の中でのいろいろな音符の弾き方
- 4.ピアノ演奏の基礎(3) 曲の中でのいろいろな音符の弾き方
- 5.ピアノ演奏の基礎(4) ペダルの使い方
- 6.ピアノ演奏の実践(1) 曲の構成や音楽用語について
- 7.ピアノ演奏の実践(2) 曲の構成や音楽用語について
- 8.ピアノ演奏の実践(3) 自分がイメージする演奏表現を考える
- 9.ピアノ演奏の実践(4) 自分がイメージする演奏表現を考える
- 10.ピアノ演奏のまとめ(1) まとめでの発表の曲を決める
- 11.ピアノ演奏のまとめ(2) 譜みの確認
- 12.ピアノ演奏のまとめ(3) 演奏の表現 曲の構成や音楽用語
- 13.ピアノ演奏のまとめ(4) 演奏の表現 どのように弾きたいか考える
- 14.ピアノ演奏のまとめ(5) 曲の仕上げ
- 15.まとめ クラスメイトの前で演奏する

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点と出席点:50% (2)まとめと発表:50%
出席点について：毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。

音楽・器楽A

担当者：島崎 美知子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

授業計画

1. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
2. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。
3. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
4. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
5. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(3)
6. 読符力がついたか、リズム感がついたか、手の形などチェックしながら、さらに幅広く課題をこなして行く。(1)
7. 読符力がついたか、リズム感がついたか、手の形などチェックしながら、さらに幅広く課題をこなして行く。(2)
8. 読符力がついたか、リズム感がついたか、手の形などチェックしながら、さらに幅広く課題をこなして行く。(3)
9. 伴奏に必要なコードの知識やアンサンブルも交えながら課題をこなして行く。(1)
10. 伴奏に必要なコードの知識やアンサンブルも交えながら課題をこなして行く。(2)
11. 伴奏に必要なコードの知識やアンサンブルも交えながら課題をこなして行く。(3)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)毎回のレッスンに望む姿勢と準備:60%:注意に対する改善
 - (2)最後の発表:30%:人前で出せる実力
 - (3)音楽的知識:10%:興味を持って吸収したか
- 欠席は減点の対象になる

音楽・器楽A

担当者：塚原 晴美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な弾き歌いの基礎的技術を習得する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。
ピアノ伴奏による弾き歌いの技術を学ぶ。

準備学習(予習)

与えられた課題曲の練習

準備学習(復習)

注意された箇所の修正練習

授業計画

- 1.各学生のレベル調査・テキストの指示
- 2.基礎理論 音程と音階
- 3.基礎理論 コードネームの概要
- 4.根音・メジャーコードによる弾き歌い
- 5.根音・メジャーコードによる弾き歌い
- 6.マイナーコード、及びピアノソロ演奏のレッスンを随時追加
- 7.セブンスコード
- 8.セブンスコード
- 9.セブンスコード
- 10.スリーコードのつけ方
- 11.スリーコードのつけ方
- 12.その他のコード
- 13.その他のコード
- 14.その他のコード
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)努力度:30% (3)習熟度:30%

音楽・器楽A

担当者：矢持 真希子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

保育および教育の現場におけるピアノ活用の基礎、応用。それぞれの進度に応じて、弾き歌い、移調奏、初見奏、アレンジなどの課題にも取り組んでもらいます。小学校教諭を目指す学生には楽典の課題も出します。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

現場に出た時に、個々に可能な最大限のピアノ活用の手段を一緒に考え、目標を設定します。

準備学習(予習)

授業の中で指示します。

準備学習(復習)

授業の中で指示します。

授業計画

1. 一例：希望進路の確認・課題曲の選択
2. 1曲目レッスン
3. 1曲目レッスンおよび2曲目指示
4. 1曲目の弾き歌いの訓練
5. 1曲目仕上げ・2曲目練習方法の助言
6. 2曲目レッスン
7. 2曲目レッスンおよび3曲目指示
8. 2曲目弾き歌いの訓練・移調奏の説明
9. 2曲目移調奏の訓練
10. 2曲目移調奏の訓練および3曲目指示
11. 2曲目移調奏の訓練
12. 2曲目仕上げ・3曲目練習方法の助言
13. 3曲目レッスン
14. 3曲目レッスンおよび1曲目、2曲目の復讐
15. 全3曲の仕上げ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)授業に取り組む姿勢:60%

音楽・器楽B

担当者：池上 真理子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切でかけがえのないものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。それに際して必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より、学生自身が音楽の喜び、楽しさを身をもって体験し、それを子供たちに伝えることができるような教員になれるようにすることが、本授業でピアノを学ぶ最も大切な目標である。

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかり練習すること。

授業計画

1. レベル・チェック、目標設定、課題決定
2. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
3. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
4. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
5. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
6. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
7. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
8. 前半のまとめ
9. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

教科書

授業の中で指示する
各学生のレベル、目的に即した課題を指示する

評価方法

- (1)発表:70%:最後の授業内で、仕上げた課題を発表する
- (2)平常点・出席:30%:出席は重視する

音楽・器楽B

担当者：笠井 かほる

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

音楽活動を通し、感性豊かな表現活動が、子どもたちと楽しくできる保育者、小学校教員をめざし、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。ピアノ演奏の習得とともに、音楽に関する基礎知識、読譜、現場で役立つコードによる歌唱伴奏法を学ぶ。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノの初心者、経験者に差なく学習でき、幼児教育、小学校の教材の伴奏のみならずポップスなどの弾き歌いに発展できる。演習を通して音楽を学生自身が楽しむことの大切さ、表現の楽しさを、感じ取ることを目標とする。

準備学習(予習)

コードネームによる伴奏は演奏能力に見合った即興、応用ができるが、基本をマスターするまでに、一定の練習が必要であり、楽曲演奏能力を高めるためにも、学生自身が自覚をもった練習をして、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

保育・教職現場などでのレポーターになるよう復讐を心掛けてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ
2. 幼児の音楽的な表現活動について、幼児の発達と音楽
3. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色について
4. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌 1
5. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌 2
6. コードネームの復習と楽曲演習
7. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について 1
8. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について 2
9. 中間小テスト
10. 7とコードネームの関連と演習
11. 就職試験などに適した楽曲の演奏 1
12. 就職試験などに適した楽曲の演奏 2
13. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用 1
14. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用 2
15. 総まとめ、授業内テスト

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)平常点:10% (3)中間テスト:15% (4)期末テスト:30% (5)学習量:15%

音楽・器楽B

担当者：阪 まどか

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。
基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、
その中でピアノは大きな役割を果たしている。
その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。
この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。

準備学習(復習)

授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。
一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス (レベルチェック、曲決め等)
2. ピアノ演奏の実践 (個々の進度に合わせたレッスンを行う)
3. ピアノ演奏の実践 (以下同じ)
4. ピアノ演奏の実践
5. ピアノ演奏の実践
6. ピアノ演奏の実践
7. ピアノ演奏の実践
8. ピアノ演奏の実践
9. ピアノ演奏の実践
10. ピアノ演奏の実践
11. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲選定)
12. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲の練習)
13. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲の練習)
14. ピアノ演奏の実践 (発表に向けての課題曲の練習)
15. まとめ (発表)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・学習態度:50% (2)発表:50%
出席点について：毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。
ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

音楽・器楽B

担当者：渋谷 みどり

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

音楽・器楽Aを受講していない場合は、器楽Aと同じ。
器楽Aを受講済の場合は、授業計画の中のピアノ演奏の基礎は確認程度にして実践を中心に進める。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能習得と音楽性の向上を目指す。

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に出ること
弾けない場合は、何がわからないのかを明確にしておくこと

準備学習(復習)

授業時に注意したところを練習して、次回までに弾けるようにすること

授業計画

- 1.ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
- 2.ピアノ演奏の基礎(1)曲の中でのいろいろな音符の弾き方
- 3.ピアノ演奏の基礎(2)曲の中でのいろいろな音符の弾き方
- 4.ピアノ演奏の基礎(3)曲の中でのいろいろな音符の弾き方
- 5.ピアノ演奏の基礎(4)ペダルの使い方
- 6.ピアノ演奏の実践(1)曲の構成や音楽用語について
- 7.ピアノ演奏の実践(2)曲の構成や音楽用語について
- 8.ピアノ演奏の実践(3)自分がイメージしている演奏表現を考える
- 9.ピアノ演奏の実践(4)自分がイメージしている演奏表現を考える
- 10.ピアノ演奏のまとめ(1)まとめでの発表の曲を決める
- 11.ピアノ演奏のまとめ(2)譜みの確認
- 12.ピアノ演奏のまとめ(3)演奏の表現 曲の構成と音楽用語
- 13.ピアノ演奏のまとめ(4)演奏の表現 どのように弾きたいか考える
- 14.ピアノ演奏のまとめ(5)曲の仕上げ
- 15.まとめ クラスメイトの前で演奏する

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点と出席点:50% (2)まとめと発表:50%
出席点について：毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。

音楽・器楽B

担当者：島崎 美知子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

授業計画

1. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
2. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。
3. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
4. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
5. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(3)
6. 読符力がついたか、リズム感がついたか、手の形などチェックしながら、さらに幅広く課題をこなして行く。(1)
7. 読符力がついたか、リズム感がついたか、手の形などチェックしながら、さらに幅広く課題をこなして行く。(2)
8. 読符力がついたか、リズム感がついたか、手の形などチェックしながら、さらに幅広く課題をこなして行く。(3)
9. 伴奏に必要なコードの知識やアンサンブルも交えながら課題をこなして行く。(1)
10. 伴奏に必要なコードの知識やアンサンブルも交えながら課題をこなして行く。(2)
11. 伴奏に必要なコードの知識やアンサンブルも交えながら課題をこなして行く。(3)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)毎回のレッスンに望む姿勢と準備:60%:注意に対する改善
 - (2)最後の発表:30%:人前で出せる実力
 - (3)音楽的知識:10%:興味を持って吸収したか
- 欠席は減点の対象になる

音楽・器楽B

担当者：塚原 晴美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な弾き歌いの基礎的技術を習得する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。
ピアノ伴奏による弾き歌いの技術を学ぶ。

準備学習(予習)

与えられた課題曲の練習

準備学習(復習)

注意された箇所の修正練習

授業計画

- 1.各学生のレベル調査・テキストの指示
- 2.基礎理論 音程と音階
- 3.基礎理論 コードネームの概要
- 4.根音・メジャーコードによる弾き歌い
- 5.根音・メジャーコードによる弾き歌い
- 6.マイナーコード、及びピアノソロ演奏のレッスンを随時追加
- 7.セブンスコード
- 8.セブンスコード
- 9.セブンスコード
- 10.スリーコードのつけ方
- 11.スリーコードのつけ方
- 12.その他のコード
- 13.その他のコード
- 14.その他のコード
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)努力度:30% (3)習熟度:30%

音楽・器楽B

担当者：矢持 真希子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

保育および教育の現場におけるピアノ活用の基礎、応用。それぞれの進度に応じて、弾き歌い、移調奏、初見奏、アレンジなどの課題にも取り組んでもらいます。小学校教諭を目指す学生には楽典の課題も出します。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

現場に出た時に、個々に可能な最大限のピアノ活用の手段を一緒に考え、目標を設定します。

準備学習(予習)

授業の中で指示します。

準備学習(復習)

授業の中で指示します。

授業計画

1. 一例：希望進路の確認・課題曲の選択
2. 1曲目レッスン
3. 1曲目レッスンおよび2曲目指示
4. 1曲目の弾き歌いの訓練
5. 1曲目仕上げ・2曲目練習方法の助言
6. 2曲目レッスン
7. 2曲目レッスンおよび3曲目指示
8. 2曲目弾き歌いの訓練・移調奏の説明
9. 2曲目移調奏の訓練
10. 2曲目移調奏の訓練および3曲目指示
11. 2曲目移調奏の訓練
12. 2曲目仕上げ・3曲目練習方法の助言
13. 3曲目レッスン
14. 3曲目レッスンおよび1曲目、2曲目の復讐
15. 全3曲の仕上げ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)授業に取り組む姿勢:60%

音楽・声楽

担当者：藤田 明

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業は小学校や幼稚園、保育所についての知識を学びながらこどもの歌を取り上げて詩の内容を深く理解しながら歌えるように、歌唱表現の基本を学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：
声を使った表現（歌唱、朗読、発声についての知識など）全般について研究する。
保育士資格取得のための選択科目である。

2.学びの意義と目標

こどもに歌を歌ってあげたり、こどもと一緒に歌うことは、音楽教育の中で最も大切な要素である。こどもに良い影響を及ぼすような歌唱技術とセンスを学ぶ。

準備学習(予習)

与えられた歌唱のための曲や詩の朗読は、前もって練習しておくことが大切である。

準備学習(復習)

歌唱や詩の朗読で注意された個所を繰り返し復習することによってより良い表現となるので、必ず復習をやること。

授業計画

1. 授業の進め方について。
2. 発声の仕組みについて（1）
3. 発声の仕組みについて（2）
4. 「かぜさんだって」の歌詞の朗読
5. 歌詞の内容に合った導入文の作成
6. 導入文の朗読
7. 導入文の朗読と歌唱
8. 「あめふりくまの子」の歌詞の朗読
9. 歌詞の内容に合った導入文の作成
10. 導入文の朗読
11. 導入文の朗読と歌唱
12. [ブンブンブンはちが飛ぶ]をドイツ語と日本語の歌詞を発音し、発声の違いを考える（1）
13. [ブンブンブンはちが飛ぶ]（2）
14. 総合的な発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:40% (2)発表:40% (3)出席:20%

音楽・ハンドベルE

担当者：本田 晃

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。
この授業の目的の一つである。

また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。
その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。

ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、深く学ぶ。

2.学びの意義と目標

本講義では、実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学び、ハンドベルの基礎的な技術指導を自ら体験し、会得する事を目標とする。

準備学習(予習)

月間讃美歌プリントと手袋を忘れないで持参する事。

準備学習(復習)

授業で得た知識、実技のポイントなどを確認しておく事。

授業計画

- 1.ハンドベル入門 基礎知識1
- 2.ハンドベル入門 基礎知識2
- 3.ハンドベルの基本的な演奏法を学ぶ 基本演奏法1
- 4.基本演奏法2(楽曲を使って)
- 5.基本演奏法3
- 6.基本演奏法4
- 7.基本演奏法5
- 8.基本演奏法6
- 9.ハンドベルの基本・展開(速度や音量の変化)合奏1
- 10.合奏2
- 11.合奏3
- 12.合奏4
- 13.合奏5
- 14.合奏6
- 15.合奏7(まとめ)

教科書

授業の中で指示する
必要なものは随時プリントを配布する。

評価方法

(1)出席:35% (2)授業態度・関心・意欲:35% (3)学期末テスト:30%
実技を伴うので、欠席しない事。積極的に授業に参加する事。学期に一度、全学礼拝での讃美奉鐘を行う予定。

音楽・ハンドベルF

担当者：本田 晃

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。
この授業の目的の一つである。

また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。
その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。

ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、より一層深く学ぶ。

2.学びの意義と目標

本講義では、実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学びながら、ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、指導技術を会得する事を目標とする。

準備学習(予習)

月間讃美歌のプリントと手袋を忘れないで、持参する事。

準備学習(復習)

授業で得た知識、技術的な内容を確認しておく事。

授業計画

- 1.ハンドベル入門 基礎知識(構造と歴史)1
- 2.基礎知識2
- 3.基礎演奏法1
- 4.基礎演奏法2
- 5.基礎演奏法3(合奏1)
- 6.基礎演奏法4(合奏2)
- 7.基礎演奏法5(合奏3)
- 8.基礎演奏法6(合奏4)
- 9.基礎演奏法7(合奏5)
- 10.基礎演奏法8(合奏6)
- 11.基礎演奏法9(合奏7)
- 12.基礎演奏法10(合奏8)
- 13.基礎演奏法11(合奏9)
- 14.基礎演奏法12(合奏10)
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する
必要に応じて随時プリントも配布する。

評価方法

(1)出席:35% (2)授業態度・関心・意欲:35% (3)学期末テスト:30%
実技を伴うので欠席しない事。積極的に参加する事。学期に一度、全学礼拝での讃美奉鐘をする予定。

音楽 A

担当者：山田 裕治

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

小学校、幼稚園、保育園などでの音楽表現活動に必要な基本的な知識と技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏するのに必要な知識を項目別に習得する。

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目である。

2. 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術を持っていなければならない。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取る知識が必要となる。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけるを目標にする。さらに小学校一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得するためにも基礎的な知識と演奏技術が必要であり、この授業ではそれらを習得する。

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って実践する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

授業計画

1. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け
2. ピアノ演奏の基礎(1)・音部記号と譜表
3. ピアノ演奏の基礎(2)・音名と変化記号
4. ピアノ演奏の基礎(3)・音符と休符
5. ピアノ演奏の基礎(4)・拍子
6. ピアノ演奏の実践(1)・さまざまなリズム
7. ピアノ演奏の実践(2)・反復記号と発想記号
8. ピアノ演奏の実践(3)・小テスト
9. ピアノ演奏の実践(4)・音程
10. ピアノ演奏の実践(5)・長音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・短音階
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・関係調
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・三和音
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・コードネームとカデンツ
15. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)ピアノ演奏:50% (2)期末試験:30% (3)小テスト:10% (4)平常点:10%
平常点は出席、授業時の提出物などによる

音楽 B

担当者：藤田 明, 星野 直子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

子どもの発達について学ぶとともに、主に声を使った音楽表現のための知識と技術を習得していく。特に小学校、幼稚園、保育所で行われる音楽活動に対応出来るように、音楽表現のための最も基本となる読譜力を高めるソルフェージュを中心に行う。

また、子どもにとって音楽的に良い環境を整えてあげるためには、静かな音楽や楽しい音楽など、多くの音楽に接することも大切であるので、音楽鑑賞も取り入れる。

カリキュラムの位置づけ：

小学校教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目である。音楽表現入門的な位置づけであり、音楽表現のための最も大切な基礎能力を養うものである。

2.学びの意義と目標

保育の内容を理解し、子どもがあそびながらにして音楽的な感性が養われるように、援助者に必要な知識や技術を習得する。

また、小学生に対する知識と学習要領を理解し、音楽教育の為に必要な技能を習得する。

準備学習(予習)

最初から音符が読める学生は少ないので、復習が中心となるが、慣れてきた段階から毎回出される課題の予習は必ずやること。

準備学習(復習)

毎回授業で行った課題が身に付くには何回も繰り返し復習することが大切である。

授業計画

1. 授業の進め方について説明する。
2. ソルフェージュ(リズム1)
3. ソルフェージュ(リズム2)
4. ソルフェージュ(リズム3)とリズムあそび(1)
5. ソルフェージュ(リズム4)とリズムあそび(2)
6. ソルフェージュ(メロディー1)
7. ソルフェージュ(メロディー2)
8. ソルフェージュの実践と音楽鑑賞(1)
9. ソルフェージュの実践と音楽鑑賞(2)
10. ソルフェージュの実践と音楽鑑賞(3)
11. 歌唱表現について
12. 歌唱表現の実践(1)
13. 歌唱表現の実践(2)
14. 発表
15. まとめ。

教科書

フランツ ヴェルナー, 鶴木 欽作, 高木 卓 『全訳コールユープンゲン(1)』(全音楽譜出版社)

評価方法

(1)試験:60% (2)授業における積極性:20% (3)出席:20%

音楽科教育法

担当者：笠井 かほる

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

基本的な音楽理論、歌唱、器楽、観賞の指導法を学び、各学年の教科書の内容を演習する。小学校学習指導要領に沿った小学校音楽科教育を演習を通じて学ぶ。

2.学びの意義と目標

小学校学習指導要領の音楽科の目標及び内容を理解し、指導できる能力を身につける。音楽を通して「表現する」楽しさをこどもたちと共有できる授業が行えることを目標とする。

準備学習(予習)

共通教材の弾き歌い

準備学習(復習)

授業範囲の教科書熟読

授業計画

1. オリエンテーション音楽の授業の振り返り
2. 小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容の理解
3. 音楽理論の理解
4. 1年教科書内容・共通教材
5. 2年教科書内容・共通教材
6. 3年教科書内容・共通教材
7. 中間テスト
8. リコーダーの指導と演習
9. 鑑賞教材の指導・演奏形態
10. 鑑賞
11. 指導案
12. 模擬授業4年共通教材
13. 模擬授業5年共通教材
14. 模擬授業6年共通教材
15. 期末テスト・まとめ

教科書

初等科音楽教育研究会、初等科音楽教育研究会『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』(音楽之友社)

評価方法

- (1)出席状況:15% (2)平常点:5% (3)中間・期末テスト:45%
(4)指導案作成:15% (5)模擬授業:20%

介護等体験及び事前事後指導

担当者：山口 圭, 高山 法子, 吉田 昌義

開講期：通年集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。

事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。

2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。

2. 学びの意義と目標

< 学びの意義 >

1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拓け、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。

2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。

< 目標 >

介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。

教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。

準備学習(予習)

事前に教科書を読み、内容の理解に努めること

また、介護等体験に行く前から、教員(社会人)として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。

準備学習(復習)

介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。」

授業計画

1. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」(高山)
2. コミュニケーション(高山)
3. 事例を通して考える(受容と共感)(高山)
4. 事例を通して考える(個別性)(高山)
5. 社会福祉施設の目的及び原則(高山)
6. 福祉施設利用者の理解(高山)
7. 高齢者疑似体験(高山)
8. 基本介護技術(移動・食事・着脱)(高山)
9. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの(吉田)
10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容(吉田)
11. 知的障害の理解と指導(吉田)
12. 自閉症の理解と指導(吉田)
13. 通常の学級における障害児への配慮(吉田)
14. 人権について 介護等体験に行くに当たって(吉田)
15. 介護等体験の振り返り、事後指導(9月)

教科書

全国特別支援学校長会 『フィリア』(ジヤース教育新社)
全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』(全国社会福祉協議会出版部)

評価方法

(1)出席状況・コメント・受講態度:50% (2)実習態度・実習記録:50%

介護等体験及び事前事後指導

担当者：山口 圭, 高山 法子, 吉田 昌義

開講期：通年集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。

事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。

2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。

2. 学びの意義と目標

< 学びの意義 >

1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拓け、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。

2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。

< 目標 >

介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。

教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。

準備学習(予習)

事前に教科書を読み、内容の理解に努めること

また、介護等体験に行く前から、教員(社会人)として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。

準備学習(復習)

介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。

授業計画

1. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」(高山)
2. コミュニケーション(高山)
3. 事例を通して考える(受容と共感)(高山)
4. 事例を通して考える(個別性)(高山)
5. 社会福祉施設の目的及び原則(高山)
6. 福祉施設利用者の理解(高山)
7. 高齢者疑似体験(高山)
8. 基本介護技術(移動・食事・着脱)(高山)
9. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの(吉田)
10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容(吉田)
11. 知的障害の理解と指導(吉田)
12. 自閉症の理解と指導(吉田)
13. 通常の学級における障害児への配慮(吉田)
14. 人権について 介護等体験に行くに当たって(吉田)
15. 介護等体験の振り返り、事後指導(9月)

教科書

全国特別支援学校長会 『フィリア』(ジヤース教育新社)
全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』(全国社会福祉協議会出版部)

評価方法

(1)出席状況・コメント・受講態度:50% (2)実習態度・実習記録:50%

学習指導と学校図書館

担当者：米谷 茂則

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。
司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

2.学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集・選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

準備学習(予習)

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。

授業計画

1. 「学習指導と学校図書館」科目の学習内容ガイダンス
2. 教育課程の展開と学校図書館
3. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
4. 情報活用能力の育成、その計画と方法
5. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程
6. 小学校における調べ学習の実践例および体験の発表
7. 中学・高校における調べ学習の実践例および体験の発表
8. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
9. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 情報サービス / 読書学習の課題
11. 学校図書館機能と司書教諭の創造性
12. 学習指導案の検討会 1回目
13. 学習指導案の検討会 2回目
14. マンガ読書からマンガ読書学習へ
15. 講義全体のまとめ、学習指導案の提出

教科書

プリントを配布する

必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

評価方法

(1)発表等:20% (2)振り返り記録:20% (3)学習指導案:60%
遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。

学校経営と学校図書館

担当者：小川 三和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

2.学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

準備学習(予習)

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として理解したこと、今後とも考察していくべきこととを明確にする。

授業計画

1. 学校図書館の意義と理念、役割
2. 学校図書館の歴史
3. 学校図書館の国際的な動向
4. 教育行政と学校図書館
5. 図書館ネットワーク
6. 学校図書館経営
7. 学校図書館経営
8. 学校図書館の施設・設備
9. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

教科書

「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校経営と学校図書館(シリーズ学校図書館学第1巻)』(全国学校図書館協議会)

評価方法

- (1)提出物:60%
- (2)評価テスト:40%: 14回目に行い、最終回に解説をする。
出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。

学校図書館メディアの構成

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。

2.カリキュラム上の位置づけ

学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目

2.学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

準備学習(予習)

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

与えられた課題をきちんとやってくること。

授業計画

- 1.学校図書館メディアの種類
- 2.メディアの選択と収集
- 3.開架式と配列
- 4.分類(1)NDCの構成と特徴
- 5.分類(2)補助表とその働き-1
- 6.分類(3)補助表とその働き-2
- 7.分類(4)分類規程
- 8.図書記号と別置記号
- 9.件名標目表
- 10.目録(1)目録の歴史と種類
- 11.目録(2)アクセスポイント
- 12.目録(3)NCRと記述の実際
- 13.機械化と標準化
- 14.書誌ユーティリティとネットワーク
- 15.まとめと総合演習

教科書

『シリーズ学校図書館学』編集委員会『学校図書館メディアの構成(シリーズ学校図書館学第2巻)』(全国学校図書館協議会)

評価方法

(1)試験:40%:試験に代わるレポートになる場合もあり(2)小課題:30%(3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

家庭

担当者：馬場 由子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通し、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サステナブルクッキング」等の授業実践も紹介する。主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。

2.学びの意義と目標

家庭科の学びを通して未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てる。家庭科教育の基本理念を理解し、指導案作成や模擬授業を通し、実践力を養う。

準備学習(予習)

- ・指導要領と家庭科の教科書を精読し、特徴をつかんでおく。
- ・家庭科で育てたい力を日々の生活の中で探しておく。
- ・裁縫用具、調理実習用エプロンと三角巾を準備しておく。

準備学習(復習)

- ・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオ作成すること。
- ・講義で出された課題は次週に提出すること。

授業計画

1. 授業ガイダンス、家庭科教育の基本理念
2. 学校教育における家庭科の位置と意義
3. 選ぶ目を育てる（D身近な消費生活と環境）
4. C 快適な衣服と住まいの指導内容
5. 裁縫実習（針刺し制作）
6. B 日常の食事と調理の基礎の指導内容
7. サステナブルクッキング
8. 調理実習（ご飯炊き）
9. サステナブルライフ（A家庭生活と家族）
10. 指導案の作成方法と評価
11. 模擬授業 グループ毎にテーマ設定と教材研究
12. 模擬授業 指導案作成
13. 模擬授業 授業実践
14. これからの家庭科教育の課題と展望
15. まとめと試験

教科書

桜井 純子 『小学校わたしたちの家庭科(5・6)』(開隆堂出版)
文部科学省,文科省= 『小学校学習指導要領解説 家庭編』(東洋館出版社)
馬場 由子 『新版「身近な消費生活と環境」教師用』(地域教材社)

評価方法

(1)出席:15% (2)リアクションペーパー:30% (3)提出物:15%
(4)模擬授業:20% (5)試験:20%
毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。生活レポート（B4用紙1枚）を書き、1人1回発表予定。

家庭科教育法

担当者：馬場 由子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の指導内容を関連させて学びをつくり、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てる。自分の考えや判断を生かして主体的に生きるための作る手を育てるとともに、実践力育成のための題材開発や模擬授業も行う。

2.学びの意義と目標

指導要領に理念の共有が謳われた生きる力を家庭科は実践的に育むことができる。生きる力には思考力と判断力、それを実行する知恵と技が不可欠。消費者基本法で選択する権利を保障されても、自分で作ることが出来なければ買うしかない。未来の担う自立した生活者として生きる力という車の両輪である選ぶ目と作る手を育てる。

準備学習(予習)

- ・指導要領と教科書を精読し、特徴をつかむこと
- ・運針、ボタン付け、ミシンの扱い等裁縫関連の練習をすること
- ・野菜や果物の皮むき等包丁使いの練習をすること

準備学習(復習)

- ・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオを作成すること
- ・講義で出された課題は次週に提出すること

授業計画

1. 学習指導要領と教科書の検討
2. 生きる力を育てる年間指導計画作成
3. 作る手を育てる (りんごの皮むきコンクール)
4. 選ぶ目を育てる (エシカルファッション)
5. 作る手を育てる (ミシン実習)
6. 選ぶ目を育てる (我が家のだし新聞)
7. 作る手を育てる (みそ汁作り)
8. 作る手を育てる (プリン実習)
9. 選ぶ目を育てる (情報を読む)
10. 生きる力を育てるオリジナル題材開発
11. 模擬授業 テーマ設定と教材研究
12. 模擬授業 指導案作成
13. 模擬授業 授業実践
14. 家庭科教育と今日的課題
15. まとめと試験

教科書

桜井 純子 『小学校わたしたちの家庭科(5・6)』(開隆堂)
文部科学省 『小学校学習指導要領家庭編』(東洋館出版)
馬場 由子 『新版「身近な消費生活と環境」教師用』(地域教材社)

評価方法

(1)出席:15% (2)リアクションペーパー:30% (3)提出物:15%
(4)模擬授業:20% (5)試験:20%
毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。

家庭支援論

担当者：佐藤 千瀬

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について概説する。また、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：

本講義は、保育士資格取得のための必修科目である。

2.学びの意義と目標

- (1) 家庭の意義とその機能について理解する。
- (2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。
- (3) 子育て家庭の支援体制について理解する。
- (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

準備学習(予習)

- ・課題に取り組むこと

準備学習(復習)

- ・授業で視聴した事例の分析をすること
- ・グループワークのまとめをすること
- ・小テストの準備をすること
- ・子育てマップを作成すること

授業計画

1. オリエンテーション 家庭の意義と機能
2. 家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理
3. 家庭生活を取り巻く社会的状況1
4. 家庭生活を取り巻く社会的状況2
5. 家庭生活を取り巻く社会的状況3
6. 子育て家庭の支援体制1
7. 子育て家庭の支援体制2
8. 保育所入所児童の家庭への支援
9. 子育て支援サービスの実践例
10. 子育て支援サービスの実践例
11. 子育て支援サービスの概要
12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 関係機関との連携
13. 地域の子育て家庭への支援
14. 地域の子育て家庭への支援
15. 子育て支援サービスの課題

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30%:出席点ではない。(2)出席票・課題:20%
(3)小テスト:25% (4)レポート:25%
毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。

基礎実習

担当者：相川 徳孝, 市村 和子, 佐治 由美子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

この授業では実際の保育現場での観察実習が中心となる。幼稚園での子どもの姿を観察することにより子どもの発達の様子や保育者が遊びや発達を支えるためにどのような援助をしているのかを自分なりに考えることを中心に進める

2. 学びの意義と目標

子どもの行為や行動、また保育者の援助行為の意味を自分なりに捉え、それを文章として第三者に伝えることと子ども理解を深めることと保育者（教師）となるための自己課題を各自が見出すこと。

準備学習(予習)

授業や実習に行く前に実習ハンドブックを熟読し、日誌の記録等についてのポイントを把握しておくこと。

準備学習(復習)

授業時におこなった子どもの観察記録や日誌の記入について、指摘されたことは次回の授業までに訂正しておくこと。

授業計画

1. 幼稚園の役割
2. 幼稚園教育要領について
3. 遊びを通した学びについて
4. 実習オリエンテーション
5. 見学すること・観察することの意味
6. 子どもの活動記録と考察について
7. 実習日誌の記入方法(1)
8. 実習日誌の記入方法(2)
9. 実習日誌の記入方法(3)
10. 実習生として求められるマナー(1)
11. 実習生として求められるマナー(2)
12. 事後指導(1)
13. 事後指導(2)
14. 実習の振り返りと自己課題
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)実習評価:70% (2)事後指導:15% (3)レポート:15%
実習の前の事前指導、実習後の事後指導をすべて受けていることが前提である。またレポートや日誌を期日までに提出することが求められる。

教育・保育課程論

担当者：浅見 均

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

保育の基本と計画、指導計画の種類と役割、保育における計画の史の変遷から、教育・保育の課程の見直し及び、年齢に応じた具体的な指導計画の立て方などについて学んでいく。

2.学びの意義と目標

1、保育内容の充実、質の向上に資する保育の計画と評価の理解。
2、教育・保育の課程の編成、指導計画の作成の具体的理解。
3、計画、実践、省察・評価、改善のプロセスの全体構造を捉え、理解する。

準備学習(予習)

前時の学習内容を基に、グループ討議、報告を実施することがある。

準備学習(復習)

授業後、教科書・プリント等で学習内容について振り返っておく。

授業計画

1. 保育の基本と計画
2. 指導計画の種類と役割
3. 保育における計画の考え方(0, 1, 2歳)
4. 保育における計画の考え方(3, 4, 5歳)
5. 小学校における計画との関係(発達の連続性)
6. 保育における計画の史の変遷
7. 日案から週案の作成(幼稚園4歳児)
8. 日案から週案の作成(保育所3歳児)
9. 教育課程の見直しについて
10. 保育課程の見直しについて
11. 指導計画の実際(0歳~2歳 保育所)
12. 指導計画の実際(3歳児 幼稚園)
13. 指導計画の実際(4歳児 保育所)
14. 指導計画の実際(5歳児 幼稚園)
15. まとめ

教科書

柴崎正行 他編 『保育課程・教育課程総論』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席・参加態度:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%
出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合は、減点対象。上記を基準に総合的に判断する。

教育課程論

担当者：川瀬 敏行

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学習指導要領の改訂、教育課程の基本及び編成と実施、各教科等に共通する指導計画・指導案の作成と内容、教師の資質と役割、学級経営の基本、課題等について学ぶ。

2.学びの意義と目標

学校教育では、教職員が協力して適切に教育課程の編成・実施をしていくことによって学校の教育目標の実現が図られている。「教育課程論」は、教員の資格取得及び教職を目指す人にとって基本となるものであり、重要である。教育課程の基本とその中心的な役割を担っていく教員の資質についての理解を目標とする。

準備学習(予習)

前時の学習内容を基に、グループ協議、報告を実施することがある。

準備学習(復習)

授業後、教科書・プリント等で学習内容について確認をしておく。

授業計画

- 1.教育課程の基本について
- 2.学習指導要領の改訂について
- 3.学習指導要領改訂の経過と特色について
- 4.教育課程に関する法令について
- 5.教育課程の編成及び実施について(1)
- 6.教育課程の編成及び実施について(2)
- 7.授業時数等の決定と日課表の作成について
- 8.教育課程実施上の配慮事項について
- 9.教育課程編成の手順と評価について
- 10.各教科等の指導計画の作成と内容の取扱いについて
- 11.教育課程の実施と教員に求められる資質・能力(1)
- 12.教員に求められる資質・能力(2)「私が目指す教師像」
- 13.よりよい授業の創造と各教科等に共通する学習指導案の作成
- 14.学級経営と教師の役割、地域・保護者との連携について
- 15.まとめ

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』(東洋館出版)

評価方法

(1)出席・参加態度:40%(2)レポート:10%(3)試験:50%
出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合は、減点対象。上記を基準に総合的に判断します。

教育原理

担当者：寺崎 恵子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たちの生き方への問いである。

この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。

2.学びの意義と目標

複雑に見える教育論議の状況を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培うことを、学びの目標とする。教育に関する議論は、現代に特有な課題を取り上げているが、実は、教育の歴史のなかに深く根差している。この学びの意義は、その根をたどって課題の内実を理解することにある。

準備学習(予習)

教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。

準備学習(復習)

ノートの整理をしながら、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典(教科書)などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。

授業計画

- 1.教育の原義(1)
- 2.教育の原義(2)
- 3.「人になる」ということ イニシエーションについて
- 4.ライフサイクル論と発達観
- 5.「教え」の関係構造(1)
- 6.「教え」の関係構造(2)
- 7.教育主体と学習主体
- 8.観察というまなざし
- 9.「子どもの理性」について
- 10.直観教授について
- 11.教材の内実
- 12.学校の時間の特性
- 13.学習集団と競争意識
- 14.個人的な学びと協同的な学び
- 15.教育の可能性

教科書

広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)小レポート:75%:各回5点×15回(2)期末課題:15%:初回に出題する。
(3)ノート:10%
小レポートの記述状況によっては、書き直しを求められることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。

教育社会学

担当者：小川 洋

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになる。学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。

2.カリキュラム上の位置づけ:教育に関する幅広い視野をもつための教職課程科目。児童学科の幼稚園教諭・小学校教諭の課程においては必修、中学校・高校の教職課程においては、選択必修である。

2.学びの意義と目標

将来、子どもの保育あるいは教育に携わる学生たちには、社会の見方をしっかり身に付けてほしい。一般的な常識とは異なる内容もあるはずだが、自分の見方に拘らず、広い視野に立つように授業を役立ててもらいたい。

準備学習(予習)

各テーマで2,3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

授業計画

- 1.ガイダンス(教員としての素養としての教育社会学)
- 2.教育の見方(1) - 経済学と社会学
- 3.教育の見方(2) - 社会学の理論
- 4.学歴と階層移動(1) - 努力の報われる社会か
- 5.学歴と階層移動(2) - エリート教育
- 6.逸脱行為(1) - 逸脱の理論
- 7.逸脱行為(2) - 統計の見方(少年非行を中心に)
- 8.教育家族(1) - 家族とはなにか
- 9.教育家族(2) - 戦前から戦後へ
- 10.教育家族(3) - 教育とジェンダー
- 11.貧困と子どもの教育(1)
- 12.貧困と子どもの教育(2)
- 13.貧困と子どもの教育(3)
- 14.学校選択と地域社会
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)通常の学習活動:40%:出席、授業中の作業など
- (2)レポート:30%:授業中に説明する1本のレポート
- (3)期末テスト:30%

教育心理学

担当者：鎌原 雅彦

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

2.学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分を見るなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.記憶のメカニズム
- 3.知識の獲得としての学習
- 4.学習の基礎的原理
- 5.行動変容としての学習
- 6.動機づけと学習意欲
- 7.内発的動機づけ
- 8.遺伝と環境
- 9.母子相互作用と初期学習
- 10.知的能力の発達
- 11.パーソナリティの発達
- 12.発達障害
- 13.個人差とパーソナリティ
- 14.カウンセリングの基礎
- 15.総括と試験

教科書

鎌原雅彦・竹網誠一郎 『やさしい教育心理学』(有斐閣)

評価方法

(1)試験:70% (2)出席と小レポート:30%

教育心理学

担当者：小山 義徳

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。

授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまっている場合があります。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。

2.学びの意義と目標

教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、仕事に就いてから数年経てば、自らが後輩に仕事を教える立場になります。そのため、すべて人にとって有用な学問です。本講義は、受講者が自らの学びや他者に教えることに関する知識を獲得することを、目標とします。

準備学習(予習)

講義内容に関する資料を配布する。その内容を読んだ上で、講師が設定した問いや、疑問に感じた点、よくわからない点を小レポートとして事前に提出してもらう。

準備学習(復習)

主に口頭で説明した内容について、複数回の小テストを実施する。

授業計画

1. ガイダンス:教育心理学とは
2. 記憶のメカニズム
3. 動機づけの基本的な考え方
4. 内発的動機づけと外発的動機づけ
5. 学習者から見た学習動機
6. 動機づけの認知理論と学習意欲
7. 学習行動の基礎
8. 知識表現と概念
9. 知識の獲得について
10. 手続き的知識とその学習
11. 問題解決の過程と学習
12. 文章の理解
13. 言語の発達
14. 子どもの認知発達
15. イメージと空間の情報処理
16. 性格の形成
17. 知能とは何か
18. 個人差のとらえかた
19. 個に応じた指導方法
20. 授業の検討方法
21. 授業をどのように構成するか
22. 授業における教授・学習過程
23. 測定と評価・学習者をどう評価するのか
24. 評価の心理的影響
25. 教室内の人間関係
26. 社会性と社会的スキルの形成
27. 注意とメタ認知
28. 学習方略とは
29. 自己学習力の育成
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:45% (2)小テスト:35% (3)期末レポート:20%

教育心理学特論

担当者：鎌原 雅彦

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

2.学びの意義と目標

教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目標とする。

準備学習(予習)

予め配布資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.学習の理論
- 3.記憶のメカニズム
- 4.学習法
- 5.動機づけ
- 6.教授学習
- 7.発達の原理
- 8.発達段階
- 9.初期学習
- 10.人格と性格
- 11.適応
- 12.精神衛生
- 13.知能
- 14.教育評価
- 15.総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:70% (2)出席と発表:30%

教育相談(カウンセリングを含む。)

担当者：山田 麻有美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

児童がもつ教育上の諸問題や悩みや困難を解決し、よく適応させ、人格の成長を援助するために教師が行なう教育相談活動のための基本的な態度（カウンセリング・マインド）を実践的に習得できるよう計画されている。具体的には、教育相談の意義や現状を踏まえた上で、受講生が、サイコドラマの手法を用いて生徒や保護者に対する態度やコミュニケーションスキルを実践的且つ段階的に身につけられるようにする。

2.学びの意義と目標

教師が児童に助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとするカウンセリングマインドを、この講義を通して習得し、児童にとってよりよい指導のできる教師、また保護者や地域社会からは信頼される教師となることが期待される。

準備学習(予習)

予習は、授業終了時に指示する課題に沿って行ってください。

準備学習(復習)

復習は、授業開始時に前回の授業内容の確認を行いますので準備してください。

授業計画

1. 講義の概略と進め方
2. 教育相談の意義とカウンセリングマインド
3. 教育相談の進め方と関係諸機関との連携
4. 教育相談を行うための自己理解
5. 児童との信頼関係形成のための態度
6. 児童との信頼関係形成のためのコミュニケーション
7. 児童との信頼関係維持のためのコミュニケーション
8. 児童への適切な指導助言を行うためのコミュニケーション
9. 保護者との信頼関係形成のための態度
10. 保護者との信頼関係形成のためのコミュニケーション
11. 保護者との信頼関係維持のためのコミュニケーション
12. 保護者への適切な指導助言を行うためのコミュニケーション
13. 学級場面における児童理解
14. 学級場面における課題解決
15. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業への参加度:40% (2)出席状況:10% (3)理解度:50%

教育方法論

担当者：篠原 文陽児

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、教育の方法に関する基礎的かつ基本的な理論や学説と、教授技術、教育機器、教材、学校・学級の経営、教育における評価と改善など教育等実践に直結する内容を、指定教科書を中心に行いつつも、受講者自身の既習事項や体験及び経験と具体例を関連させながら学ぶ。

したがって、指定教科書以外に、毎時の当該授業内容に関連する参考資料や文献なども適宜紹介し、受講者一人ひとりに根拠ある総合的な意見や判断を求めるなど、インタラクティブ性を高めた広がりや深まりのある内容となる。

なお、特に「木下是雄、1981、理科系の作文技術、中央公論社」「A・トフラー著、徳岡孝夫監訳、1982、第三の波、中央公論社」「西垣通、1994、マルチメディア、岩波書店」「天城勲監訳、1996、学習:秘められた宝 - ユネスコ21世紀教育国際委員会報告書 -、ぎょうせい」「岡本薫、2006、日本を滅ぼす教育論議、講談社」は、本講義の中で頻繁に参考及び引用などされる総括的で基本的な文献である。

2.学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等と深く関連している。同時に、各教育と学習領域及び各教科等の指導方法に関する基礎的、基本的かつ横断的な位置づけの科目の一つである。したがって、本講義では、進展著しい情報通信機器の教育利用を含めた教育の方法及び技術について、基礎的及び基本的な知識と技能を身に付けるとともに、国と社会及び子どもの変化に依存する教育改善に興味をもち、これらに積極的かつ主体的に関わる意欲と態度を養う。

準備学習(予習)

前時での予告を含め授業計画を参照し、本時で扱われるトピックについて、教科書や配布資料等の要点及び疑問点をそれぞれまとめ、ノートに記述しておくこと。

準備学習(復習)

教科書や配布資料等及びノートを再読し、授業内容の各トピックについて次時まで説明できるようにすること。また、特に、疑問点はノートに明瞭に記述し、次授業開始時に質問ができるようにしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション 授業の目標と期待される成果
2. 教育とは、授業とは、何か 本質と改革に向けて
3. 教育課程の意味と編成の原理及び編成の実際(1)
4. 教育課程の意味と編成の原理及び編成の実際(2)
5. 現代の教授理論とその意味及び意義(1)
6. 現代の教授理論とその意味及び意義(2)
7. 教育における授業の設計と評価及び授業分析(1)
8. 教育における授業の設計と評価及び授業分析(2)
9. 教育メディアの開発と利用及び評価(1)
10. 教育メディアの開発と利用及び評価(2)
11. 教育メディアの開発と利用及び評価(3)
12. 教育における教育方法と学校及び学級の経営
13. 教育における評価と改善
14. 教育方法の基本問題と実践課題
15. まとめ

教科書

多田俊文(編者) 『教育の方法と技術 四訂版』(学芸図書株式会社)

評価方法

- (1)最終試験:70% (2)授業中に課し回答を求めるレポート:10%
(3)レポート:20%

出席点については毎回の出席が大前提になる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教職演習 A

担当者：川瀬 敏行

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

教職の基本的な知識を研究する専門科目である。教職における専門教養社会を取り上げ、その基礎的研究及び傾向対策研究をする。

2.学びの意義と目標

小学校教員としての専門教養社会の基礎及び採用試験の傾向と対策を研究し、合格を目指していく。

準備学習(予習)

専門教養社会の過去問を十分研究しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、教科書、参考書等で学習内容について確認しておくこと。

授業計画

1. 小学校専門教養社会の基礎的研究(1)
2. 小学校専門教養社会の基礎的研究(2)
3. 小学校専門教養社会の基礎的研究(3)
4. 小学校専門教養社会の基礎的研究(4)
5. 小学校専門教養社会の基礎的研究(5)
6. 小学校専門教養社会の基礎的研究(6)
7. 小学校専門教養社会の基礎的研究(7)
8. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(1)
9. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(2)
10. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(3)
11. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(4)
12. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(5)
13. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(6)
14. 小学校専門教養社会の傾向対策研究(7)
15. まとめ

教科書

東京アカデミー『教員採用試験参考書 6 小学校全科 2014年度 (オープンセサミシリーズ)』(ティーエーネットワーク)
東京アカデミー『小学校全科【2014年度】(オープンセサミ・シリーズ)』(ティーエーネットワーク)

評価方法

(1)出席状況:20% (2)参加態度:50% (3)理解度の確認 :30%
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点対象。

教職演習 B

担当者：加々美 健一

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

教職の基本的な知識を研究する専門科目である。教職における専門教養算数を取り上げ、その基礎的研究及び傾向対策研究をする。

2.学びの意義と目標

小学校教員としての専門教養算数の基礎及び採用試験の対策を研究し、合格を目指していく。

準備学習(予習)

専門教養算数の過去問を十分研究しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

授業計画

1. 小学校専門教養算数の基礎的研究(1)
2. 小学校専門教養算数の基礎的研究(2)
3. 小学校専門教養算数の基礎的研究(3)
4. 小学校専門教養算数の基礎的研究(4)
5. 小学校専門教養算数の基礎的研究(5)
6. 小学校専門教養算数の基礎的研究(6)
7. 小学校専門教養算数の基礎的研究(7)
8. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(1)
9. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(2)
10. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(3)
11. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(4)
12. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(5)
13. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(6)
14. 小学校専門教養算数の傾向対策研究(7)
15. まとめ

教科書

東京アカデミー 『教員採用試験参考書(6)小学校全科』(ティーエーネットワーク)

評価方法

(1)出席状況:20% (2)参加態度:50% (3)理解度の確認:30%
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点対象。

教職演習 C

担当者：市村 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした教職演習である。特に一般教養「国語」と教職教養「教育原理」を中心に取り組む。

2.学びの意義と目標

採用試験の傾向と現状を把握し、小学校教員を目指すうえで必要な一般教養や教職教養の基本的な知識を学ぶ。と同時に、教員として必要な資質や適性を高めることを目指す。

準備学習(予習)

小テスト(その都度指示)に向けての学習

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理

授業計画

- 1.教員採用試験に向けて
- 2.一般教養(国語)の傾向と対策(1)
- 3.一般教養(国語)の傾向と対策(2)
- 4.一般教養(国語)の傾向と対策(3)
- 5.一般教養(国語)の傾向と対策(4)
- 6.一般教養(国語)の傾向と対策(5)
- 7.教職教養(教育原理)の傾向と対策(1)
- 8.教職教養(教育原理)の傾向と対策(2)
- 9.教職教養(教育原理)の傾向と対策(3)
- 10.教職教養(教育原理)の傾向と対策(4)
- 11.教職教養(教育原理)の傾向と対策(5)
- 12.教職教養(教育原理)の傾向と対策(6)
- 13.教職教養(教育原理)の傾向と対策(7)
- 14.教職教養(教育原理)の傾向と対策(8)
- 15.まとめ

教科書

東京アカデミー『教員採用試験参考書 1 教職教養1教育原理教育史 2014年度 (オープンゼミシリーズ)』(ティーエネットワーク)

評価方法

(1)出席状況:20% (2)参加態度:30%
(3)理解度の確認:50%:随時小テストを実施する。
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教職演習 E

担当者：船田 信昭

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小学校教員採用試験を受験する学生を対象にした教職演習である。教員採用試験に向けて、面接や論作文の基礎と技能及び最近重視されてきた模擬授業への準備、実際について演習を中心に学ぶ。

2.学びの意義と目標

教員採用試験では、筆記試験では見極められない教員としての適性を見るために、面接、論作文及び模擬授業の形で表現力を発揮できるようにするところに学ぶ意義がある。ここでは面接、論作文及び模擬授業についての基礎的な知識や技能を表現できることを目標とする。

準備学習(予習)

配布プリントを熟読し、不明な点は質問できるようにする。また、授業で使う資料等は準備してくる。

準備学習(復習)

演習で指摘された点、自ら気付いた点を次回までに修正してくる。また、授業中に不十分のまま終わったときには、完成して次回に備えるようにする。

授業計画

- 1.面接 : 面接試験の基礎知識(1)
- 2.面接 : 面接試験の基礎知識(2)
- 3.模擬授業 : 授業前の準備(1)
- 4.模擬授業 : 授業前の準備(2)
- 5.論作文 : 論作文の基礎知識(1)
- 6.論作文 : 論作文の基礎知識(2)
- 7.面接 : 面接の基礎演習(1)
- 8.面接 : 面接の基礎演習(2)
- 9.模擬授業 : 模擬授業の基礎演習(1)
- 10.模擬授業 : 模擬授業の基礎演習(2)
- 11.論作文 : 論作文の基礎演習(1)
- 12.論作文 : 論作文の基礎演習(2)
- 13.面接 : 面接の基礎演習(3)
- 14.模擬授業 : 模擬授業の基礎演習(3)
- 15.模擬授業 : 模擬授業の基礎演習(4)

教科書

プリントを配布する
本演習専用のファイルを用意し、配布されたプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。

評価方法

出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。
欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。

教職演習 F

担当者：船田 信昭

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

小学校教員採用試験を受験する学生を対象にした教職演習である。教員採用試験に向けて、教育法規と教育時事の基本的な内容についての解説と演習を中心に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

教育法規と教育時事は教職教養の一部をなし、多くの学生が苦手意識をもつ分野といわれている。内容を焦点化して基礎的な演習問題を行い、実際の学校現場とのかかわりについても理解が進むようにするところに学ぶ意義がある。また、教育法規の全体像や注目する法規に対する理解を深める。教育時事は、国レベルの答申や報告書、通知などから重要なものを選び、その内容を理解する。そして、演習問題に取り組むところまで力を高め、抵抗感を減らすことが目標である。

準備学習(予習)

次の時間に必要な内容を教科書や配布プリントを繰り返し読んで予習し、用語や概念の理解が進む努力をする。本演習専用のファイルを用意し、配布されたプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。

準備学習(復習)

過去問に挑戦し、正解について納得のいくまで復習する。

授業計画

1. 教育法規：主な教育法規の概要
2. 教育法規：主な法規と基礎演習(1)
3. 教育法規：主な法規と基礎演習(2)
4. 教育時事：重要な答申・報告書等と基礎演習(1)
5. 教育時事：重要な答申・報告書等と基礎演習(2)
6. 教育時事：重要な答申・報告書等と基礎演習(3)
7. 教育法規：主な法規と基礎演習(4)
8. 教育法規：主な法規と基礎演習(5)
9. 教育法規：主な法規と基礎演習(6)
10. 教育時事：重要な答申・報告書等と基礎演習(4)
11. 教育時事：重要な答申・報告書等と基礎演習(5)
12. 教育時事：重要な答申・報告書等と基礎演習(6)
13. 教育法規・教育時事：過去問への挑戦(1)
14. 教育時事・教育時事：過去問への挑戦(2)
15. 教育法規・教育時事：過去問への挑戦(3)

教科書

東京アカデミー『教員採用試験参考書 2 教職教養2教育心理教育法規 2014年度 (オープンゼミナリーズ)』(ティーエーネットワーク)

評価方法

(1)主な法規の理解:35% (2)重要答申の理解:35% (3)過去問の成果:30%
出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。

教職演習 G

担当者：川瀬 敏行, 市村 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「埼玉県小学校教員採用試験」または「さいたま市小学校教員採用試験」を受験する4年生を対象とした教職演習である。特に面接・論文・課題作文、模擬授業を中心に取り組む。

2.学びの意義と目標

採用試験の傾向と現状を把握し、面接試験や論文試験に必要な知識を学ぶ。また、社会人として必要な所作やマナーも同時に身に付ける。

準備学習(予習)

前時に与えられた課題に対する自分なりの解答・意見等

準備学習(復習)

指摘された内容事項についての修正

授業計画

1. 教員採用試験に向けて（埼玉県・さいたま市）
2. 教員採用試験の基礎的研究・演習（1）
3. 教員採用試験の基礎的研究・演習（2）
4. 教員採用試験の基礎的研究・演習（3）
5. 教員採用試験の基礎的研究・演習（4）
6. 教員採用試験の基礎的研究・演習（5）
7. 教員採用試験の基礎的研究・演習（6）
8. 教員採用試験の傾向と対策研究（1）
9. 教員採用試験の傾向と対策研究（2）
10. 教員採用試験の傾向と対策研究（3）
11. 教員採用試験の傾向と対策研究（4）
12. 教員採用試験の傾向と対策研究（5）
13. 教員採用試験の傾向と対策研究（6）
14. 教員採用試験の傾向と対策研究（7）
15. 教員採用試験対策のまとめ

教科書

プリントを配布する
本演習専用のファイルを用意し、配布されたプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。

評価方法

(1)出席状況:20% (2)参加態度:50% (3)理解度の確認:30%
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教職演習 G

担当者：船田 信昭

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

東京都等(埼玉県・さいたま市を除く)の小学校採用試験を受験する4年生を対象にした教職演習である。特に、論作文、面接、場面指導、模擬授業を中心に取り組む。

2.学びの意義と目標

採用試験の傾向と現状を把握し、論作文試験や面接試験等に必要な知識を学ぶ。また、社会人としての必要な所作やマナーも同時に身に付ける。

準備学習(予習)

前時に与えられた課題に対する自分なりの解答・意見等。

準備学習(復習)

指摘された内容事項についての修正。

授業計画

1. 教員採用試験に向けて(東京都等)
2. 教員採用試験の基礎的研究・演習(1)
3. 教員採用試験の基礎的研究・演習(2)
4. 教員採用試験の基礎的研究・演習(3)
5. 教員採用試験の基礎的研究・演習(4)
6. 教員採用試験の基礎的研究・演習(5)
7. 教員採用試験の基礎的研究・演習(6)
8. 教員採用試験の傾向と対策研究(1)
9. 教員採用試験の傾向と対策研究(2)
10. 教員採用試験の傾向と対策研究(3)
11. 教員採用試験の傾向と対策研究(4)
12. 教員採用試験の傾向と対策研究(5)
13. 教員採用試験の傾向と対策研究(6)
14. 教員採用試験の傾向と対策研究(7)
15. 教員採用試験対策のまとめ

教科書

プリントを配布する
本演習専用のファイルを用意し、配布されたプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。

評価方法

(1)出席カード:20%:記述内容 (2)参加態度:50% (3)理解度の確認:30%
毎回の出席が大前提である。出席が成績に加算されることはないが、欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教職基礎

担当者：加藤 実三

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

聞くこと・話すこと・読むこと・書くことを統合して「書く力」の向上を目指します。学習の材料は、毎日の生活のあちこちに存在します。身近にあるさまざまな言葉を拾い上げ取り出し、「正しい日本語の基準って何だろう?」「言葉って案外面白い」ということなどを追究していく予定です。

可能なら、受講生が自ら話材を提供したりグループワークをしたりすることも考えています。できるだけ児童学科の学生に必要な事項、あるいは児童学科の学生として関心のある内容を選びます。

2.学びの意義と目標

言葉は他とのコミュニケーションの道具であると共に、自己の思考を整理したり深めたりする役割を持っています。この機能は、家庭・保育園・幼稚園・学校などを通じていっそう高められ、社会人としての重要な素養の一部となり、あらゆる社会の基盤をなしていきます。

他の授業や就職などの際に役立つための、言語活動の基礎を養うことを目標とします。

準備学習(予習)

小論課題のキーワードは2週間前に伝えるので、しっかり調べ考えておくこと。

次週の課題を提示するので、予め調べておくこと。

準備学習(復習)

返却されたプリントはどこがどう間違えたのか、確認しておくこと。文章の添削事項やコメントをよく読み、次回に活かすこと。

授業計画

1. 授業ガイダンス（実践問題を含む）
2. 自己紹介文を書く。
3. 話し言葉と書き言葉の違いを知る。
4. 中学生の作文を添削する。
5. 略語の効用（元の形や利便性を考える）
6. 小論文を書く（1回目）
7. 漢字パズルに挑戦。
8. 敬語の難しさ（仕組みの一端を知る）
9. ことわざ・慣用句の使い方。
10. 小論文を書く（2回目）
11. ことわざをいろは歌留多から学ぶ。
12. 日本の文化（物の数え方など）
13. 感想文を書く。お礼状の書き方の基礎。
14. ビジネス会話を考える。
15. 就職試験問題への挑戦。難読漢字に挑戦。

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小論文:50% (2)出席状況:20% (3)参加意欲:20% (4)提出物:10%

教師論

担当者：小川 隆夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「教育は人にある」といわれる。施設・設備が整備され、すぐれた教材・教具が開発された今日においても、教師の重要性にかわりわない。最近、特に学校での事故や生徒の自殺問題で、世間の教師に対する関心は強いものになっている。本講義では、教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと人権を尊重した望ましい教師の姿を考える。

2.学びの意義と目標

子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追究することに学びの価値がある。本講義を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。

準備学習(予習)

テキストの指定ページを読んで授業に臨むこと。毎回、新聞から教育関連の記事を1つ選んで、メモをとり意見が言えるようにして授業に臨むこと。

準備学習(復習)

配布プリント及びテキストの学習箇所の復習をする。平日頃から新聞に目を通し、社会情勢や教育関連の記事に関心を持つ。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教師とは何か
- 3.教師の役割
- 4.教師の類型と教職員の職務
- 5.教師の身分
- 6.教師の社会的地位
- 7.教師の養成
- 8.職場としての学校
- 9.教師観
- 10.教師の資質能力
- 11.望ましい教師 人権を尊重する教師
- 12.親と教師の人間関係
- 13.教師の姿勢
- 14.自分の目指す教師像
- 15.授業の確認とまとめ

教科書

谷田貝 公昭, 成田 国英, 林 邦雄 『教師論(教職課程シリーズ)』(一藝社)

評価方法

- (1)出席・授業貢献:20%
- (2)プレゼン:20%
- (3)レポート2回:30%
- (4)期末試験:30%

教師論

担当者：佐藤 千瀬

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、保育者の役割と倫理、保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、保育士・幼稚園教諭の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について概説する。

カリキュラム上の位置づけ：

児童学科の専門科目であり、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状取得のための1年次の資格必修科目である。

2.学びの意義と目標

- (1) 保育者の役割と倫理について理解する。
- (2) 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解する。
- (3) 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。
- (4) 保育者の協働について理解する。
- (5) 保育者の専門職的成長について理解する。

準備学習(予習)

- ・課題に取り組むこと

準備学習(復習)

- ・授業で視聴した事例の分析をすること
- ・小テストの準備をすること

授業計画

1. オリエンテーション 保育者の役割1
2. 保育者の役割2ー保育士
3. 保育者の役割3ー幼稚園教諭
4. 保育者の役割4
5. 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ
6. 保育者の倫理
7. 保育士・幼稚園教諭の専門性1ー養護と教育 資質・能力
8. 保育士・幼稚園教諭の専門性2ー知識・技術及び判断
9. 保育士・幼稚園教諭の専門性3ー保育の省察と自己評価
10. 保育者の協働1ー保育と保護者支援にかかわる協働
11. 保育者の協働2ー保護者及び地域社会との協働
12. 保育者の協働3ー専門職間、専門機関及び家庭的保育者等との連携
13. 保育・教育の実践例
14. 保育者の専門職的成長
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30%:出席点ではない。(2)出席票:20% (3)小テスト:20% (4)冬休み課題:10% (5)最終試験:20%
毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。

キリスト教教育論 A

担当者：森田 美千代

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

今年度は、ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』を読み、そのなかに出てくるキリスト教教育に関するいろいろな基本的考え方を学ぶことにする。

2.学びの意義と目標

このコースでブッシュネルの『キリスト教養育』をしっかりと学ぶことは、キリスト教教育の一つの重要な理論をマスターすることであり、そして、そのことは、現在実際におこなわれているキリスト教教育を観察したり評価する時の一つの有効な視点を提供してくれることになる。

準備学習(予習)

配布されたプリントを読んで、授業に出席する。

準備学習(復習)

授業のポイントを書き留めておく。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.『キリスト教養育』のエッセンスの解説(1)
- 3.同上(2)
- 4.同上(3)
- 5.キリスト教養育とは何か(1)
- 6.同上(2)
- 7.同上(3)
- 8.家庭 - その有機的一体性(1)
- 9.同上(2)
- 10.同上(3)
- 11.教会 - 幼児洗礼(1)
- 12.同上(2)
- 13.『キリスト教養育』論争(1)
- 14.同上(2)
- 15.おわりに

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)レスポンス・ペーパー:30% (3)期末レポート:40%

キリスト教人間学 A

担当者：佐野 正子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

人間とはなにか、自分とは誰かという問題を、「人格」という人間のあるべき姿、なるべき姿を求めつつ、探求していく。子どもに対するまなざしも意識したい。

2.学びの意義と目標

キリスト教人間学は3年生必修科目として、聖学院大学のキリスト教教育の中心科目である。キリスト教の視点から、人間の尊厳や、人格・人権といった価値の尊さについて学び、自己理解を深め、人間としての成熟をめざす。

準備学習(予習)

予習としては、提示した資料をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で取り扱われた聖書の箇所を繰り返し読み、授業の内容の理解を深めること。

授業計画

- 1.人間とはなにか
- 2.かけがえのない個の自覚
- 3.オンリーワン志向
- 4.自分らしく生きる
- 5.主体性をもって生きる
- 6.可能性を信頼する
- 7.意味を見出して生きる
- 8.人格化のプロセスとしての成長
- 9.人格形成
- 10.人権について
- 11.自己を知る
- 12.自分を受け入れる
- 13.自己概念の形成
- 14.他者を理解する努力
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席レポート:60% (2)学期末レポート:20% (3)礼拝レポート:20%

キリスト教人間学 B

担当者：佐野 正子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教的「愛」をキーワードに、他者との関わりの中でいかに生きるべきかという問題を考え、人間についての理解を深めていく。

2.学びの意義と目標

キリスト教人間学は、3年生必修科目として、聖学院大学のキリスト教教育の中心科目である。人間理解を深めることによって、人格の完成をめざすことを目標とする。

準備学習(予習)

予習としては、提示された資料をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で取り扱われた聖書の箇所を繰り返し読み、授業の理解を深めること。

授業計画

- 1.キリスト教の愛について
- 2.愛と勇気
- 3.愛によるつながり
- 4.他者を愛すること
- 5.赦しについて
- 6.人間の尊厳性
- 7.人格の独自性
- 8.人格の一回性
- 9.人格の連続性
- 10.人格の有限性
- 11.人間の罪と弱さ
- 12.自由と責任について
- 13.平等について
- 14.人間の成熟
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席レポート:60% (2)学期末レポート:20% (3)礼拝レポート:20%

キリスト教保育論

担当者：田中 かおる

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、キリスト教保育の基盤となることを確認し、考察することを目的とする。

手順としては、以下のように進める。まず、キリスト教が日本の幼児教育にもたらした影響を確認する。次に、キリスト教保育の基盤である聖書における人間観を確認し、更にイエス・キリストの生涯とその意味を確認し、キリスト教への理解を深める。その上で、保育の現場と聖書のメッセージとが、どのようにかわるのかを、実際の保育事例と照らし合わせながら考察し、キリスト教保育とは何かを考える。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択必修科目

2.学びの意義と目標

保育内容と聖書のメッセージとの関連を確認しながら、キリスト教保育の視点を学ぶ。

準備学習(予習)

該当する聖書箇所をあらかじめ読んでくること。

準備学習(復習)

講義内容の確認
小レポートによる振り返り
ノートによる振り返り

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.日本のキリスト教幼児教育・保育の歴史
- 3.キリスト教の行事(三大祭り他)
- 4.聖書の人間観(1)天地創造物語(絵本)
- 5.聖書の人間観(2)アダムとエバ
- 6.聖書人間観(3)カインとアベル
- 7.聖書の人間観(4)箱舟物語(絵本)
- 8.聖書の人間観(5)十戒
- 9.聖書の人間観(6)神を仰ぎ人に仕える
- 10.イエス・キリスト(1)生涯(ビデオ)
- 11.イエス・キリスト(2)教え(ビデオ)
- 12.イエス・キリスト(3)業
- 13.イエス・キリスト(4)子ども理解
- 14.『キリスト教幼児教育指針』から学ぶ
- 15.まとめ

教科書

キリスト教保育連盟『改訂 キリスト教保育指針』(キリスト教保育連盟)

評価方法

(1)毎回の小レポート:20% (2)礼拝:30% (3)課題レポート:50%

現代社会と社会教育 B

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。

2.カリキュラム上の位置づけ

社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。）

2.学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

準備学習(予習)

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

準備学習(復習)

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

授業計画

- 1.オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
- 2.青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
- 3.青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
- 4.教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
- 5.学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
- 6.イギリスにおけるシティズンシップ教育
- 7.サービスマーケティングとは何か
- 8.「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」とは何か
- 9.子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（1）
- 10.子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（2）
- 11.学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
- 12.学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
- 13.中等教育学校段階における「死の準備教育 - 実践事例の紹介 - 」
- 14.社会教育における「死の準備教育 - 実践事例の紹介 - 」
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する
講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

評価方法

(1)出席点:20% (2)平常点:40% (3)レポート点:40%

子どもの食と栄養 A

担当者：菅原 歩美

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身につけ、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための必修科目

2.学びの意義と目標

基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでくること。

準備学習(復習)

保育士として、授業で取り上げた内容について保護者に説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. 子どもの健康と食生活の意義
2. 身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活
3. 食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
4. 生涯発達と食生活
5. 食育の基本と内容 1
6. 食育の基本と内容 2
7. 摂食機能と食育のまとめと中間試験
8. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 1
9. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 2
10. 小児に多い疾病の特徴と食生活
11. 疾病を有する子どもの食生活
12. 食物アレルギーを有する子ども、障がいをもつ子どもの食生活
13. 調理実習（アレルギー食）
14. 疾病に関する食生活のまとめ
15. 総括と試験

教科書

堤 ちはる, 土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』(萌文書林)

評価方法

- (1)出席:45%: 1 回3点 (2)中間試験:20%:100点満点
(3)期末試験:35%:100点満点

子どもの食と栄養 B

担当者：菅原 歩美

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための必修科目

2.学びの意義と目標

ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、事前に教科書を読むこと。箇所は授業で指定する。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を、保護者に相談された際に正しく説明できるよう、自分の言葉で話せるようにしておくこと。

授業計画

1. 栄養に関する基礎知識 1
2. 栄養に関する基礎知識 2
3. 妊娠期・授乳期の食生活
4. 母乳分泌と食生活
5. 乳児期の心身の発達と食生活 1
6. 乳児期の心身の発達と食生活 2、調乳実習
7. 離乳食 1
8. 離乳食 2
9. 乳汁栄養に関するまとめと中間試験
10. 幼児期の心身の発達と食生活 1
11. 幼児期の心身の発達と食生活 2
12. 学童期・思春期の栄養と食生活
13. 調理実習（離乳食）
14. 各ライフステージにおける食生活のまとめ
15. 総括と試験

教科書

堤 ちはる, 土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』(萌文書林)

評価方法

- (1)出席:45%: 1 回3点 (2)中間試験:20%:100点満点
(3)期末試験:35%:100点満点

子どもの保健 A

担当者：小林 京子

開講期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を知り、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。

2.カリキュラム上の位置づけ:
保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの保健に関する基礎的な科目である。

2.学びの意義と目標

保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようになる基礎を習得する。また、子どもの病気や事故の特徴についての基礎を理解する。

準備学習(予習)

これまでの学習を想起しながら授業に臨んでください。

準備学習(復習)

これまでの学びを振り返っておきましょう。

授業計画

- 1.小児保健の意義
- 2.小児保健とは
- 3.子どもの生活と健康
- 4.子どもの生活と健康
- 5.子どもの栄養
- 6.子どもの栄養
- 7.子どもの事故と安全
- 8.子どもの事故と安全
- 9.母子保健
- 10.母子保健
- 11.保健活動
- 12.保健活動
- 13.グループワーク
- 14.グループワーク
- 15.試験と総括

教科書

竹内義博,大矢紀昭編『よくわかる小児保健(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ)』(ミネルヴァ書房)
加藤忠明,岩田力著『図表で学ぶ子どもの保健<1>』(健帛社)

評価方法

(1)筆記試験:60% (2)グループワーク参加度:10% (3)講義参加度:30%

子どもの保健演習

担当者：藤城 富美子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

・テキストと演習で基本的理論と援助の手順や方法を学び、理論や実技が保育現場に活用できるようにする。また、子ども自身が自らの健康を意識し実践するためにどのような援助が考えられるか、グループワーク演習で考え発表する。

2.学びの意義と目標

<目標> 保育者として、子ども自身の健康の保持・増進を勧めるための援助方法について学び、実践可能な技術を身につける。

準備学習(予習)

- ・テキスト、参考資料などで自己学習をして臨むこと。
- ・演習に際しては、各演習毎の目標を設定すること。

準備学習(復習)

各演習後は、目標達成度を評価するためにレポート提出すること。

授業計画

1. 子どもの健康と保健活動の意義（保健計画、他職種との連携）
2. 子どもの発育（身体機能の発育と評価）
3. 子どもの発育（運動機能の発達と評価）
4. 子どもの発育（生理機能の発育と評価）
5. 子どもの養護の方法（抱き方、おんぶの仕方、おむつ交換、手洗い）
6. 子どもの養護の方法（沐浴の手順と着脱の仕方）
7. 子どもの養護の方法（哺乳の仕方、離乳食、冷凍母乳の扱い）
8. 子どもに多い病気と対応・予防（健康観察）
9. 保育環境の整備と衛生管理（感染症への対応）
10. 職員の健康及び年齢別健康教育のポイント（教材づくり）
11. 子どもの事故と安全対策（SIDS）
12. 救急救命法（蘇生法、AED）
13. 障がいや医療的ケアを必要としている子どもと家族へのかかわり方
14. 健康教育の発表
15. 試験とまとめ

教科書

大西文子 『子どもの保健演習』（中山書店）

評価方法

- (1)学期末試験:40% (2)平常点:30%:演習などの積極性とレポート提出
(3)出席:30%:学ぶ姿勢
身だしなみ

グループワーク演習を重視する

算数

担当者：佐藤 逸子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校算数科指導要領に準拠した内容を、数学的な意味を考えさせながら項目別に指導する。発展的な内容も随時取り入れ、意欲や関心を高めるために実験や体験学習も実施する。

カリキュラム上の位置付け：

小免の必修科目、幼免においては選択必修、保育士資格は選択科目となる科目である。

2.学びの意義と目標

算数は、その後の数学教育への重要な導入となる。従って数や量の概念に特に留意し、正確かつわかりやすさを指導目標とする。図形概念については、具体物を通して早期に身につける必要から、効果的な教材を用いて体験を通して習熟させることを目標とする

準備学習(予習)

前日に15分程度
予定表（第一講時に配布）に記載されている内容について学習指導要領を用いて調べる。

準備学習(復習)

授業当日の課題を解き、復習を15分間とる。

授業計画

- 1.オリエンテーション・教育課程の変遷
- 2.数・量認識の発達の変化（ピアジェ他）
- 3.数と計算（整数の加減）
- 4.数と計算（整数の乗除および小数・分数の導入）
- 5.数と計算（分数計算）
- 6.量と測定 1
- 7.量と測定 2
- 8.平面図形（三角形・四角形）
- 9.平面図形（多角形と円）
- 10.立体図形（基本概念）
- 11.立体図形（実験演習）
- 12.数量関係（割合と比）
- 13.問題演習 1
- 14.問題演習 2
- 15.テスト

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説算数編』（東洋館）

評価方法

- (1)期末試験:60% (2)中間レポート:20% (3)小テスト:10%
(4)出席状況:5%:全回出席が前提である (5)授業への意欲関心:5%

算数科教育法

担当者：加々美 健一

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

数学をつくる立場から算数科の教材を見直し、算数的活動を生かした学習指導案の作成、模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。

2.学びの意義と目標

算数科の授業の基礎・基本を理解し、その実践に結びつく力を身につける。

準備学習(予習)

授業前に教科書を読み、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

授業計画

1. 学習指導要領と算数科
2. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算）(1)
3. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算）(2)
4. 算数科授業の展開と教材研究（量と測定）
5. 算数科授業の展開と教材研究 [図形]
6. 算数科授業の展開と教材研究 [数量関係]
7. 算数科授業の展開と問題解決学習
8. 算数科学習指導案の作成(1)
9. 算数科学習指導案の作成(2)
10. 算数科学習指導案の作成（模擬授業）
11. 算数科模擬授業の実施と研究(1)
12. 算数科模擬授業の実施と研究(2)
13. 算数科模擬授業の実施と研究(3)
14. 算数科模擬授業の実施と研究(4)
15. まとめ

教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説算数科』(東洋館出版)

評価方法

(1)出席・参加態度:40% (2)レポート:20%
(3)指導案作成 ・ 模擬授業:40%
出席・参加態度や指導案の作成、模擬授業の態度等を重視する。

児童英語教材研究 A

担当者：東 仁美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学習指導要領の改訂に伴い、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されることになった。この授業では、学級担任として英語活動を指導するために必要な小学校英語の基礎知識を身に付ける。また、教材研究を通して、1時間の指導案を組み立てる力をつけていく。学期末課題として、単元計画・指導案を作成し、模擬授業を行う。

2.学びの意義と目標

公立小学校で行われている英語活動の目標、内容を十分に理解し、学級担任として英語活動の指導ができるようにする。

準備学習(予習)

授業では小学校英語の基礎知識と教材研究を扱う。この授業を通して担任として英語活動の授業を行う自信をつけてほしい。小学校教師になるという強い意識を持って、授業に参加することを希望する。

準備学習(復習)

返却されたレポート課題は添削箇所を確認し、小学校外国語活動の必要な知識を理解しておくこと。

授業計画

1. 英語活動の現状と課題
2. カリキュラム開発・年間指導計画
3. 総合的な学習の時間
4. 学習目標・学習内容
5. 指導法・教材
6. 単元計画・指導案の作成
7. 外国語活動の教材
8. 指導者の形態
9. 歌・チャンツ
10. 絵本
11. 自作教材
12. クラスルーム・イングリッシュ
13. 私立小学校での英語教育、イメージ教育
14. 模擬授業(1)
15. 模擬授業(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席、参加:20% (2)レポート:30% (3)プレゼンテーション:30% (4)期末課題:20%

児童英語教材研究B

担当者：小川 隆夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校外国語活動（英語）及び児童英語の概要や理論と実践を学び、コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と英語活動の関係などを明らかにしていく。また、数多くの実践例を参考にしながら、次世代を担う児童のための英語活動のありかたを考え、LESSONプランを作成しマイクロティーチングをする。ここではフィードバック手法などについても学び、教師同士が高めあえる授業についても考える。また、オリジナルのアクティビティーを考え、プレゼンテーションを行う。

2.学びの意義と目標

英語活動の意義、目標を十分に理解し、知識、情報、指導技術を生かし、現場で率先して実践できるようにする。

準備学習(予習)

テキストの指定ページの予習をする。

準備学習(復習)

指導案作成やアクティビティー作成など授業の課題を着実にこなして提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション及び小学校外国語活動の目標及び教員としての資質
2. 国際理解教育と外国語活動
3. 英語のリズムとマザーグース
4. 児童の心をつかむ教材と実践的指導法
5. 言語習得理論と実践
6. 児童英語教材の分析と応用
7. 小学校英語活動の評価と教材の選択
8. 単元計画と指導案作成
9. フィードバックとその手法
10. マイクロティーチング
11. マイクロティーチング
12. マイクロティーチング
13. アクティビティー・プレゼンテーション
14. アクティビティー・プレゼンテーション
15. 授業の確認とまとめ

教科書

小川隆夫, 松香 洋子 『高学年のための小学校英語「先生、英語やろうよ!2」CD付』(mpi) 文部科学省 『Hi, friends! 2』(東京書籍)

評価方法

- (1)授業への貢献度:20% (2)レポート:20% (3)アクティビティー:20% (4)プレゼンテーション:20% (5)マイクロティーチング:20%

児童学海外研修

担当者：佐藤 千瀬

開講期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされているが、この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることが出来る。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。

本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンドース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際センターの協力を得て、同センターとの連携のもとに行われる。

なお授業計画については、右記内容を15回で実施する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2. 学びの意義と目標

オーストラリアの保育・教育等について、英語による講義と実践を通して学ぶこと。

準備学習(予習)

- ・ 英語の学習
- ・ 発表、部分実習の準備

準備学習(復習)

- ・ 課題に取り組むこと

授業計画

1. 事前指導

2. 最初に、教育用玩具を運動能力と知的発達の見方からとらえ、子ども達がおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見ていく。(1)
3. 最初に、教育用玩具を運動能力と知的発達の見方からとらえ、子ども達がおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見ていく。(2)
4. 最初に、教育用玩具を運動能力と知的発達の見方からとらえ、子ども達がおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見ていく。(3)
5. 最初に、教育用玩具を運動能力と知的発達の見方からとらえ、子ども達がおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見ていく。(4)
6. 次に、子ども達に人気が高い集団ゲームや活動を、社会性のためのレッスンの例として見ていく。(1)
7. 次に、子ども達に人気が高い集団ゲームや活動を、社会性のためのレッスンの例として見ていく。(2)
8. 次に、子ども達に人気が高い集団ゲームや活動を、社会性のためのレッスンの例として見ていく。(3)
9. ホームステイ先には若い子どもを持つ家庭を選ぶようにし、子どもと家族の関わり方をすぐ近くで見ることが出来る。(1)
10. ホームステイ先には若い子どもを持つ家庭を選ぶようにし、子どもと家族の関わり方をすぐ近くで見ることが出来る。(2)
11. ホームステイ先には若い子どもを持つ家庭を選ぶようにし、子どもと家族の関わり方をすぐ近くで見ることが出来る。(3)
12. 最後のトピックは、幼稚園からレセプションの間までの初期の学校教育を考える。(1)
13. 最後のトピックは、幼稚園からレセプションの間までの初期の学校教育を考える。(2)
14. 最後のトピックは、幼稚園からレセプションの間までの初期の学校教育を考える。(3)
15. 事後指導

16.

17.

18.

19.

20.

21.

22.

23.

24.

25.

26.

27.

28.

29.

30.

教科書

プリントを配布する

評価方法

事前・事後指導とフリンドース大学からの評価をもとに総合的に評価する。

児童学概論

担当者：田澤 薫

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面で子どもと大人の関わりを考える。

カリキュラム上の位置づけ：

児童学科に入り、子どもという存在や保育・教育のことを学び始める入り口に立って、子どもに学問的な視点を向けるきっかけとなる授業である。

2.学びの意義と目標

子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。

準備学習(予習)

授業回のテキストに目を通してから授業に臨みましょう。
レスポンスシートにコメントを書いて返却します。毎回の授業前に読み活かしましょう。

準備学習(復習)

授業ノートを整理しましょう。
テキストに含まれる資料は、授業で扱った箇所以外の部分も必ず読み込みましょう。
参考文献を数多く紹介します。積極的に読みましょう。

授業計画

1. 子どものイメージと理解
2. 制度にたちあられた子ども
3. 子ども学のはじまり
4. 子ども観と社会制度
5. 子どもの目、大人の目
6. 子どもの理解、大人の理解
7. 保育という視点
8. 学校と子ども
9. 赤ちゃん絵本にみる子どもの認知
10. 不適切な養育と子ども
11. 絵本の力
12. 子どもの自尊
13. 児童学における記録の意味
14. 省察すること
15. 試験と総括

教科書

プリントを配布する
初回授業に全回分のテキストプリントを配布します。
予備はありません。記名の上、毎回の授業で活用して下さい。

評価方法

- (1)出席と参加:50%:レスポンスシートの記入内容で確認します
- (2)試験:50%

児童家庭福祉

担当者：田澤 薫

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目であり、児童家庭福祉の関連科目を学ぶうえで必要な知識を取得する基礎科目である。
「保育実習」を履修するための前提となる科目である。

2.学びの意義と目標

児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。

準備学習(予習)

次の授業回の該当章の教科書を一読しておく。

準備学習(復習)

授業でこまめに取ったノートをまとめる。
ノートに照らしながら該当部分の教科書を使って復習を行う。(特に、遅刻・欠席・居眠り等、集中して聴けない時間があった場合には、補う必要があります)

授業計画

1. 児童家庭福祉の理念と概念
2. 児童家庭福祉と子どもの人権の歴史の変遷
3. 現代社会と児童家庭福祉
4. 児童家庭福祉の一分野としての保育
5. 児童家庭福祉の制度と法体系
6. 児童家庭福祉行財政と実施機関
7. 児童福祉施設と児童福祉の事業(1)
8. 児童福祉施設と児童福祉の事業(2)
9. 少子化と多様な保育ニーズ・子育て支援
10. 児童虐待防止
11. 母子保健と児童の健全育成
12. 社会的養護・非行への対応と支援
13. 障害のある児童への支援
14. 児童家庭福祉の専門職
15. 総括と試験

教科書

松本 園子 『児童福祉を学ぶ 子どもと家庭に対する支援』(ななみ書房)

評価方法

- (1)出席・参加:30%:レスポンスシートへの記入内容で判断する
- (2)試験:70%

児童教育学

担当者：永井 理恵子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

主として教育学の基礎的な事項を学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：

児童学科の卒業必修科目であると同時に、保育士資格必修科目でもある。

2.学びの意義と目標

教育の意義、目標について理解する。

教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的な理論について理解する。

幼稚園・保育所・小学校における教育の実践についての基礎を理解する。

幅広く教育の展開について理解する。

準備学習(予習)

本講義においては、学習内容が全て新しい内容であるので、おそらく予習は難しい。復習に重点を置く。

準備学習(復習)

その日に学んだ箇所を、帰宅してから必ず読みなおす。定期的実施される小テストやレポート提出があるので、その準備も復習の一環である。

授業計画

- 1.教育学の全体像
- 2.教育・保育とは何か
- 3.教育の3つの場1
- 4.教育の3つの場2
- 5.西洋教育史1
- 6.西洋教育史2
- 7.西洋教育史3
- 8.西洋教育史4
- 9.日本教育史1
- 10.日本教育史2
- 11.子どもの心身の成長発達1
- 12.子どもの心身の成長発達2
- 13.子どもの心身の成長発達3
- 14.小学校教育と幼稚園教育（保育所保育）
- 15.総括 現代社会における教育・保育

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席率:60% (2)受講の態度:10% (3)提出物の成果:30%

児童文学

担当者：松本 祐子, 小室 陽子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

この授業では、国語の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせ、テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、基本的な国語力を身につける。

カリキュラム上の位置づけ：

この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に、必ずこの科目を取っておくこと。

2. 学びの意義と目標

児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

授業時に指示する作文課題は必ず提出すること。ブックトーク発表のための作品選び、構想作り、シナリオ作り、グループ練習など、じゅうぶん準備をしておくこと。

準備学習(復習)

授業で扱った作品を読んでおくこと。

授業計画

1. 授業説明。大人とは？ 子どもとは？
2. 子どものままでいたい?: 『ピーター・パン』 『くまのプーさん』 『星の王子さま』
3. ブックトークとは何か？
4. 大人の時間、子どもの時間: 『モモ』
5. 悪い子たち: 『長くつしたのピッピ』 『窓ぎわのトットちゃん』
6. 死ぬってどういうこと?: 『夏の庭』 『ずっとずっとだいすきだよ』
7. チョコレートの魅力: 『チャーリーとチョコレート工場』 『チョコレート・アンダーグラウンド』
8. 日本の神話(1)
9. 日本の神話(2)
10. 日本の昔話
11. ブックトーク発表(1)
12. ブックトーク発表(2)
13. ブックトーク発表(3)
14. 書写(1)
15. 書写(2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末試験:50% (2) ブックトーク発表:20%
(3) ブックトークのレポート:10% (4) 提出物:10% (5) 出席:10%

児童文化論 A

担当者：田澤 薫

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

カリキュラム上の位置づけ：

- ・児童学科の1年生を対象とする基礎的な科目であり、児童学科の卒業必修科目である。
- ・保育士資格取得のための選択科目である。

2.学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。

授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化することに授業を手がかりに取り組んでください。

準備学習(復習)

教科書の該当部分を必ず一読すること。
授業ノートをまとめること。

授業計画

1. 子どもの世界をのぞく視点
2. 子どもと遊び(1) 遊びの意味
3. 子どもと遊び(2) 子どもの遊び
4. 子どもとモノ(1) おもちゃ
5. 子どもとモノ(2) 子ども服
6. 子どもとモノ(3) 人形
7. 子どもとモノ(4) たからもの
8. 子どもとモノ(5) 食べ物
9. 伝承文化と子ども(1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども(2) 行事
11. 子どもとことば(1) わらべうた
12. 子どもとことば(2) 紙芝居
13. 子どもとことば(3) 絵本
14. 子どもとことば(4) 幼年童話
15. 試験と総括

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子 『児童文化 子どもへのあわせを考える学びの森』(ななみ書房)

評価方法

(1)出席・参加:30% (2)試験:70%

児童文化論 B

担当者：寺崎 恵子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

私たちは、子どものしあわせな生を育む。それが、育てる者として引き受けている役割であり責任である。では、私たちにとって、子どもの生活・文化に関わることの真意とはなんだろうか。そこで、私たちは遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。

遊びは、文化が生まれるところである。フレーベルは、遊びは人生の鏡である、と述べている。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。

カリキュラム上の位置づけ：

児童学科で学ぶことを強く望んでいる人のための入門として位置づける。

幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。

2.学びの意義と目標

「(大人が)子どもの目線に立つ」と言われる。このとき、子ども期を過ごした人に 子ども はどのように現れてくるだろうか。この子どもを確認して、今を生きる子どもを理解するときの観点を多く持つことを、学びの意義とする。

協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよるこびを感じ、その過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

準備学習(予習)

次回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習(復習)

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

授業計画

1. 子どもと大人...伝承をめぐって
2. 伝承遊びの特質
3. 遊びの分類
4. 遊び研究(1) ジャンケン
5. 遊び研究(2) 呼びかける・つながる
6. 遊び研究(3) とばす
7. 遊び研究(4) まわる
8. 遊び研究(5) はじく
9. 遊び研究(6) ころがす
10. 遊び研究(7) 囲む
11. 遊び研究(8) 追いかける
12. 遊び研究(9) 触れる
13. 遊び研究(10) 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ...遊びの伝承性について

教科書

小川清実 『子どもに伝えたい伝承あそび』(萌文書林)

評価方法

(1)レポート:80%:6点×11回
7点×2回(第8,10回)(2)研究成果発表:10%(3)期末レポート:10%
各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

社会

担当者：川瀬 敏行

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校社会科の目標や各学年の学習内容を中心に取り上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、課題等についても研究する。

2.学びの意義と目標

小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。

準備学習(予習)

教育全般、社会科教育に関する情報を集め、「新聞を読んで」のレポート提出及び発表の準備をしておくこと。

準備学習(復習)

「新聞を読んで」の発表から、教育全般及び社会科授業に参考になる事柄について、「社会」授業内容との関連を確認しておくこと。

授業計画

1. 授業計画及び「社会科」について
2. 社会科教育の歩み(1)
3. 社会科教育の歩み(2)
4. 学習指導要領と社会科
5. 社会科の目標について
6. 社会科の学習内容と研究<3・4年(1)>について
7. 社会科の学習内容と研究<3・4年(2)>について
8. 社会科の学習内容と研究<3・4年(3)>について
9. 社会科の学習内容と研究<3・4年(4)>について
10. 社会科の学習内容と研究<5年(1)>について
11. 社会科の学習内容と研究<5年(2)>について
12. 社会科の学習内容と研究<6年(1)>について
13. 社会科の学習内容と研究<6年(2)>について
14. 社会科のまとめと課題研究
15. 試験とその解説

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』(東洋館出版)

評価方法

(1)出席・参加態度:35% (2)レポート:15% (3)試験:50%
出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象。上記を基準に総合的に判断します。

社会的養護

担当者：坂本 佳代子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外の場で育てられてきている歴史があるのです。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。

この講義では、

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。
4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

以上を主たる目標として、学ぶものとします。

この中で、東日本大震災によって社会的養護分野ではどのような課題が生じ、何が変わってきたかについても学んでいきたいと考えています。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目

2. 学びの意義と目標

児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを学んでほしい。すなわち、現在の大きな課題である虐待についても、被虐待児童と虐待をしてしまう親の双方が支援対象であることを認識してほしい。

準備学習(予習)

常に、自治問題に関心を持ち続け「社会的養護」関係の話題がピックアップできるようにしてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに前回の内容について質問をし、確認する。

授業計画

1. 社会的養護の理念と概念
2. 児童家庭福祉
3. 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
4. 社会的養護の歴史の変遷
5. 児童の権利擁護と社会的養護
6. 社会的養護の制度と法体系
7. 社会的養護の専門職・実施者
8. 里親制度
9. 里親・里子の現状と方向性
10. 施設養護の基本原則
11. 施設養護の実際
12. 施設養護の実際
13. 被措置児童の虐待防止
14. 被措置児童の自立支援
15. 倫理の確立

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:50% (2)学習確認票:30% (3)授業態度:20%

社会的養護内容

担当者：笹淵 悟

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回

単位数：1単位

講義概要

1.内容

1 内容

本講義では、先ず社会的養護における児童の権利養護やその仕組み、児童の生存発達保障、保育士の倫理と責務、児童養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設の暮らし、保育士の専門性に関わる知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について、さらに社会的養護内容の課題と展望についても学ぶ。(詳細は、開講時に説明する)

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目である。

社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。

2.学びの意義と目標

この講義では、「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくので、受講生は、社会的用語の専門的な知識だけでなく、具体的な援助技術や多様な考え方を身につけることができると思う。子どもを育むことは、第一義的には両親の責務であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっている。児童施設に入所している子どもやその家族に表面化していることが、普通の家族の中にも潜んでいる事が見てとれるのである。それは、児童施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代にあることを物語っている。従って、社会的養護内容を学ぶことは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について理解を深めることにつながる。

本講義を通して、社会的養護内容を学んだ学生諸君が、保育所だけでなく、各種児童施設において、また、地域住民の一人として児童福祉を支え、子どもの最善の利益を守る主体となり、その実現に向けて働きかけてくれることを、心から願っている。

準備学習(予習)

必ず授業計画を事前に見て、各テーマに関連した語句やトピックについて、出来るだけ情報を集めて下さい。出来るだけ講義終了直前に、次の講義テーマについて触れるので、確認しておくこと。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読して、理解を深めておくこと。毎講義後に「課題演習」が出されるので、自宅でやって、翌週までに提出できるように準備しておくこと。

授業計画

1. 社会的養護における児童の権利養護
2. 生存と発達の保障(児童自立支援計画書、ICF他)
3. 子どもの権利を守る仕組みについて(子どもの権利ノート他)
4. 保育士の倫理及び責務(支援者の子ども観、命の始まり他)
5. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要(児童養護施設他)
6. (その2) 乳児院と母子生活支援施設での暮らし
7. (その3) 重症心身障害児施設での暮らし
8. (その4) 肢体不自由児施設と児童自立支援施設での暮らし
9. (その5) 発達障害児と情緒障害児短期治療施設での暮らし
10. (その6) 知的障害児施設と自閉症児施設での暮らし
11. 里親制度について(里親の種類と里親養護の特徴)
12. 保育士の専門性に関わる知識と援助技術
13. 児童福祉施設のこれから(課題演習3事例と講義)
14. 社会的養護の課題と展望(課題演習4事例)
15. まとめ、定期試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業内定期試験:80%:第15講時に実施
- (2)出席点A:10%:15-14回出席 10%
13-12回出席 8%
11-10回出席 6%
- (3)出席点B:10%:講義後、自分の意見、感想、疑問等記入した

社会福祉

担当者：本多 勇

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

社会福祉は、現代社会において私たちの生活を支える社会制度の一つです。この講義では、その社会福祉に関する基礎的知識および技術について学びます。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格に連動する科目である。将来保育所等の児童福祉施設従事する保育者として必要な基礎的知識と専門的技術の習得の重要性について理解させる。

2.学びの意義と目標

学びの意義は、子どもの育ちと暮らしを支える保育士として現代社会における社会福祉の知識と技術についての基礎的理解を深める、ということです。

学びの目標は、(1)現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、(2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、(3)社会福祉の制度や実施体系等、(4)社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかる仕組み、(5)社会福祉の動向と課題について、の5つの“柱”について理解します。その上で、保育士/児童福祉専門職として、社会福祉のクライアント(要保護児童、障害者、要介護高齢者、貧困者、疾病を抱える患者等)を「社会的弱者」として捉えるのではなく、そこにある生活課題を社会における問題として認識できるようにします。

準備学習(予習)

テキストの該当箇所を事前に読んで理解をすすめておくことが望ましい。

準備学習(復習)

授業時にプリントを配布するので、各自ファイリングする等整理し理解をすすめる。あわせてテキストに目を通し、理解を深める。

授業計画

1. (社会福祉の意義と歴史の変遷 1) イントロダクション 社会福祉とは？
2. (社会福祉の意義と歴史の変遷 2) 社会福祉の理念と概念
3. (社会福祉の意義と歴史の変遷 3) 社会福祉の歴史の変遷
4. (社会福祉と児童家庭福祉 1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
5. (社会福祉と児童家庭福祉 2) 児童の人権擁護と社会福祉
6. (社会福祉と児童家庭福祉 3) 家庭支援と社会福祉
7. (社会福祉制度と実施体系 1) 社会福祉の制度と法体系
8. (社会福祉制度と実施体系 2) 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
9. (社会福祉制度と実施体系 3) 社会福祉の専門職・実施者、社会保障及び関連制度
10. (相談援助・利用者保護 1) 相談援助の意義と原則
11. (相談援助・利用者保護 2) 相談援助の方法と技術
12. (相談援助・利用者保護 3) 情報提供と第三者評価、利用者の権利擁護と苦情解決
13. (社会福祉の動向 1) 少子高齢化社会への対応、在宅福祉・地域福祉の推進
14. (社会福祉の動向 2) チームアプローチとネットワーク、諸外国の動向
15. (期末試験) あらためて、社会福祉とは？

教科書

新・保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座 第4巻 社会福祉』(全国社会福祉協議会)

評価方法

- (1)期末試験:60%
- (2)出席:40%:毎回リアクションペーパーを記入してもらう予定です。

障害児保育 A

担当者：坂本 佳代子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史的変遷や障害理解等について学んでいくものです。

現在、インクルーシブな保育が当然のものとなされ、障害のある子どもも無い子どもと共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子ども達も少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。

また、生まれた直後に障害があるかどうかはわからないことが多く、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。

上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。

カリキュラム上の位置づけ：
保育士資格取得のための必修科目

2.学びの意義と目標

- ・ 障害を負って生きることの苦しさを洞察できるようになること。
- ・ 多様な障害があることを理解すること。
- ・ 支援は子どものみならず、家族支援も重要であることを理解すること。
- ・ 支援は個別の状況によって異なることを理解する。

準備学習(予習)

身近な地域において、どのような障害児保育実践がおこなわれているかについて、関心を持ち、情報入手等をするように心がけてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに、前回の内容について質問します。

授業計画

1. 障害の概念と内容
2. 障害者自立支援法と児童福祉法
3. 障害児・者福祉サービス
4. 障害児教育・福祉の歴史的変遷
5. 障害児保育の基本
6. 相談機関
7. 保護者や家族に対する理解と支援
8. 職員間の協働
9. 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助
10. 知的障害児の理解と援助
11. 発達障害児の理解と援助(1)
12. 発達障害児の理解と援助(2)
13. アセスメントと個別支援計画
14. 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
15. 個別支援計画作成

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:50% (2)学習確認票:30% (3)授業態度:20%

障害児保育 B

担当者：田村 すゞか

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援の在り方について様々な面から考える。
障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目である。
障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

様々な障害についての基本的な知識を得て、保育上の留意点について理解する

障害がある子どもの保育にかかわる医療や福祉、教育などの現状と課題について知る

障害がある子どもたちが集団保育の場で他児と育ちあう保育実践について考える

障害がある子どもの保護者・家族支援について考える

準備学習(予習)

授業計画を参照し、該当の項目について事前に教科書に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

毎回授業の始めにプリントで前回の振り返りを行う。そのために事前に自分で復習をしておくことを推奨する。

授業計画

- 1.オリエンテーション 障害がある子どもの保育について考える
- 2.子どもが発達する道すじ
- 3.障害の発見から療育・統合保育へのシステム
- 4.障害がある子どもの理解と保育の実際
- 5.障害がある子どもの理解と保育の実際
- 6.障害がある子どもの理解と保育の実際
- 7.障害がある子どもの理解と保育の実際
- 8.障害がある子どもの理解と保育の実際
- 9.発達のアセスメント（発達検査、質問紙、観察法）
- 10.統合保育について
- 11.統合保育における事例検討（実際の保育現場での様子から）
- 12.保護者への支援・きょうだいへの支援
- 13.保育計画（クラス指導計画と個別支援計画）
- 14.就学への道すじ
- 15.総括と試験

教科書

阿部 五月, 小泉 左江子, 田中 規子, 村田 カズ, 大熊 光穂, 藤永 保 『障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して』(南文書林)

評価方法

(1)受講状況:25% (2)レポート:25%:最初の授業で指示する (3)試験:50%

小学校教育実習

担当者：船田 信昭, 川瀬 敏行, 市村 和子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：5単位

講義概要

1. 内容

小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。

2. 学びの意義と目標

小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を基礎として、小学校において教師に求められる職務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際に小学校に出向き、児童の発達段階に応じたコミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務などの学級経営等の力をつけることを目標としている。

準備学習(予習)

あいさつ・服装などへの配慮等をはじめ実習への心構え、授業の、児童の名前や児童理解などに真剣に取り組むこと。

準備学習(復習)

事前指導の内容を反復して理解、毎日の実習日誌の整理、終了後の報告書の作成、今後の学習の課題の整理などができるようにすること

授業計画

1. 事前指導 1
2. 事前指導 2
3. 事前指導 3
4. 事前指導 4
5. 事前指導 5
6. 事前指導 6
7. 事前指導 7
8. 教育実習 1 (実習校で4週間)
9. 教育実習 2
10. 教育実習 3
11. 教育実習 4
12. 事後指導 1
13. 事後指導 2
14. 事後指導 3
15. 事後指導 4

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席・参加態度:30%
 - (2)実習校からの報告:50%:実習校の評価、巡回訪問での情報
 - (3)実習日誌・報告書:20%:実習日誌、報告書、成果と改善策
- 出席・参加態度については、毎回の出席の前提となる。欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。

情報メディアの活用

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学校図書館で取り扱う印刷資料と電子資料について、情報資源の利活用について学ぶ

2.学びの意義と目標

本講義の意義は、司書教諭が情報メディアの専門家つまりメディアスペシャリストであるために必要な知識を体系的に学ぶことであり、学校図書館で取り扱う情報メディアをめぐる環境や具体的な情報メディアについて基礎知識を獲得することを目標とする。

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 情報という視点からみた人類社会の過去・現在・未来
2. 高度情報通信社会の構造と特質
3. 高度情報通信社会の倫理と法
4. 情報通信技術と学校教育
5. 学校教育と情報メディア
6. 学校図書館と情報リテラシー教育
7. 学校図書館と情報検索
8. 学校図書館とコンテンツ
9. 教科教育と情報メディア
10. 情報コンテンツの制作とそのツール
11. 情報発信とコンテンツの制作
12. 適切妥当な情報利用
13. 著作権制度の基本的仕組み
14. 学校図書館をめぐるネットワーク
15. 学校図書館と情報メディア教育の将来

教科書

山本 順一 『情報メディアの活用 (放送大学教材)』 (放送大学教育振興会)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

初等国語科教育法

担当者：市村 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等をおして授業の進め方を学ぶ。

2.学びの意義と目標

小学校国語科の目標及び内容を理解するとともに、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を学び、「国語科の授業づくり」ができる力を身に付ける。また、自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることができるようにする。

準備学習(予習)

次時に扱う教材は必ず読んでおくこと。
小テストを受けるにあたっては必ず学習すること。

準備学習(復習)

学習指導要領を繰り返し読むこと。
文字(平仮名、片仮名、漢字)が正しい書き順、字体で書けるように練習すること。

授業計画

1. オリエンテーション、小学校国語科について
2. 学習指導要領について
3. 言語活動について
4. 教材研究、教材分析の仕方
5. 事例研究(文学教材の指導)
6. 事例研究(説明文教材の指導)
7. 事例研究(作文指導)
8. 指導計画の立て方について
9. 学習指導案の作成(1)
10. 学習指導案の作成(2)
11. 模擬授業(1)
12. 模擬授業(2)
13. 模擬授業(3)
14. 評価について
15. 小学校国語科教育法のまとめ

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』(東洋館出版)

評価方法

(1)出席状況・参加態度:30% (2)指導案作成・模擬授業:40%
(3)理解度の確認:30%:随時小テストを実施する。
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

初等社会科教育法

担当者：川瀬 敏行

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

専門科目「社会」で学んだことを基に、小学校社会科授業の事例研究及び各自が学習指導案の作成、模擬授業の実践をし、小学校の社会科指導について研究する。

2.学びの意義と目標

学校において、授業はもっとも重要な教育活動である。教科の一つである社会科授業の実践に結び付く力を身に付けていくことを目標とする。

準備学習(予習)

「新聞記事から」のレポート提出及び模擬授業の実施に向けた準備をしておく。

準備学習(復習)

教育、教育時事、社会科指導内容に結び付く新聞記事を集めておく。

授業計画

1. 学習指導要領と小学校社会科
2. 小学校社会科授業の実際と授業研究(1)
3. 小学校社会科授業の実際と授業研究(2)
4. 社会科学習指導案作成の基本と事例研究
5. 社会科学習指導案作成の実際と研究(1)
6. 社会科学習指導案作成の実際と研究(2)
7. 社会科学習指導案作成の実際と研究(3)
8. 社会科模擬授業計画と学指導案の作成
9. 社会科模擬授業の実施と研究(1)
10. 社会科模擬授業の実施と研究(2)
11. 社会科模擬授業の実施と研究(3)
12. 社会科模擬授業の実施と研究(4)
13. 社会科模擬授業の実施と研究(5)
14. 社会科模擬授業の実施と研究(6)
15. まとめ

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』(東洋館出版)

評価方法

(1)出席・参加態度:40% (2)レポート:20% (3)指導案作成・模擬授業:40%

出席・授業態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象。上記を基準に総合的に判断します。

図画工作 A

担当者：喜田 敬

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

造形教育の歴史は、各時代の思潮とともに変化を遂げてきた。本講義では、現場で必要とされる造形技法を学ぶとともに、造形教育の望ましい在り方について考える。

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許、保育士資格のための必修科目である。1年生を対象としている。

2.学びの意義と目標

喜びを持って子どもたちと、造形活動を通じ接する事のできる指導者の養成を目標とする。

準備学習(予習)

予習のため配布するプリントを読むこと。

準備学習(復習)

授業で感じた質問、疑問、意見など書き出し、次回発言できるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション。
2. 造形教育の歴史。
3. 世界の造形教育とその理念。
4. 幼児の発達と幼児画の特徴。
5. 材料体験について。
6. フロッタージュ制作。
7. フロッタージュ制作。
8. スパッタリング制作。
9. スパッタリング制作。
10. コラージュ制作。
11. フォトコラージュ制作。
12. 絵遊び(実習に向けて)
13. 絵遊び(実習に向けて)
14. 絵画鑑賞
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・制作:80% (2)テスト:20%

図画工作 B

担当者：山領 直人

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

色彩と造形を、必要な基本的知識と制作の具体的説明に沿って行う3ないし4つの課題制作を軸とした、自らの造形活動への関心と意欲を高めることによって、幼児/児童に対する積極的な教育活動への起点となる実技科目である

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許、保育士資格のための必修科目である。1年生を対象としている。

2.学びの意義と目標

色彩と造形を、学生自らの経験として実践的に学び、基本的な造形教育に関わる知識を獲得すると同時に自身の感性と想像力を再認識することで、幼児、児童への共感しながら学習指導のできる力を養成する

準備学習(予習)

課題への構想を練る等の事前準備を求める場合があります。

準備学習(復習)

課題はそれぞれが何らかの関連性を持って配置されています。経験を積み重ねる意識を持って参加して下さい。

授業計画

1. 授業概要説明 / アンケート / 第1課題説明
2. 課題1：色を遊ぶ-1 (透明水彩実習 - 1)
3. 課題1：色を遊ぶ-2 (透明水彩実習 - 2)
4. 課題1：色を遊ぶ-3 (発見とレイアウト / 台紙枠の作成)
5. 課題1：色を遊ぶ-4 (透明水彩実習仕上げと講評)
6. 課題2：色とイメージ-1 (色彩の基礎知識 / 説明)
7. 課題2：色とイメージ-2 (トレースと転写作業)
8. 課題2：色とイメージ-3 (アクリル絵具彩色 & 仕上げ)
9. 課題2：色とイメージ-4 (イメージの採取 / 互評会)
10. 課題3：石の制作-1 (紙粘土による造形)
11. 課題3：石の制作-2 (透明水彩による着色)
12. 課題3：石の制作-3 (仕上げ / 木製ケースへの固定)
13. 課題4：木をつくろう-1 (構造の発見と展開：針金工作)
14. 課題4：木をつくろう-2 (コラージュ)
15. 課題4：木をつくろう-3 (仕上げ) / 授業全体総括

教科書

プリントを配布する
講義内容と課題に沿ってプリントを配布します。また出来上がった受講者全員の制作物を撮影もしくはスキャンの上、プリントを制作し配布します。A4サイズのクリアファイル(20ポケット)を各自用意し持参して下さい。

評価方法

(1)第1課題:25% (2)第2課題:25% (3)第3課題:20% (4)第4課題:20% (5)授業参加度:10%
進行の度合いによって、第4課題を行わない場合があります。その場合、第1～3課題の評価割合は30%です。課題は全て完成し、提出することが評価の際の要件です。

図画工作科教育法

担当者：柴田 和豊

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どもたちにとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考えるとともに、図画工作科の授業例を具体的に考える。そのために、図画工作科の歴史、目標、内容、指導法および評価について考察した上で、学習指導要領が定める内容領域に対応した造形活動と授業づくりに実際に取り組む。

2.学びの意義と目標

小学校教育の中で図画工作科が有する意義と、実際の授業の構想と進め方について理解を深めること、また、授業者自身が造形表現に親しむことの大切さに気づいていくことを目標とする。

準備学習(予習)

最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、単元ごとに、よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。

授業計画

1. 図画工作科の現代の方向性について
2. 図画工作科・美術教育の歩み
3. 学習指導要領について 1 A 表現
4. 学習指導要領について 2 B 鑑賞
5. 造形活動の多様性について ー視覚的タイプと触覚的タイプー
6. 触覚性を重視した造形の実例 ー紙粘土作りと作品製作ー
7. 自然と触れ合う造形 ー自然素材を用いた造形遊びー
8. 子どもたちの内面と造形活動の関わり ー視覚性を中心にー
9. 描画による感情表現の実例 ーなぐり描きー
10. 社会的な課題と造形活動の関わり
11. 鑑賞について
12. 評価について
13. 模擬授業 1
14. 模擬授業 2
15. まとめ・教育の意味の再考

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:25%:欠席が4回以上の方は評価の対象外
- (2)提出物:50%
- (3)試験:25%

担当者：船田 信昭

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

生活科創設の経緯や背景となる教育思想についてみていく。また、学習指導要領に示されている9の内容及び生活科独特の概念である「気付き」をはじめ、生活科の特質についてとらえる。また、おもちゃづくりの体験をする。

カリキュラム上の位置付け：

生活科の基本的な考え方や指導内容の習得を目指すことから入門期としての位置付けになる。

小学校教諭一種免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目であり、保育士資格取得のための選択科目である。

2.学びの意義と目標

平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の理念や原理を正しく理解するところに学ぶ意義がある。「小学校学習指導要領解説 生活編」の教科書を活用し、教科目標、9つの内容及び生活科の特質の概要について説明することが出来ることを目標とする。

準備学習(予習)

教科書を繰り返し読み込んでおくこと

準備学習(復習)

配布プリントを再読して内容理解に努め、テーマについて次回に説明できるように復習すること

授業計画

- 1.生活科の教育課程上の位置付け
- 2.生活科の目標及び内容構成
- 3.生活科の誕生までの経緯
- 4.生活科の背景としての教育思想(レポート課題1)
- 5.生活科の内容(1)～(9)：その1
- 6.生活科の内容(1)～(9)：その2
- 7.生活科の内容(1)～(9)：その3
- 8.生活科の内容(1)～(9)：その4
- 9.生活科と幼児教育(レポート課題2)
- 10.生活科と気付き
- 11.生活科の指導計画
- 12.生活科の特質と学習指導1
- 13.生活科の特質と学習指導2
- 14.生活科の特質と学習指導3
- 15.生活科のおもちゃづくり

教科書

文部科学省,文科省=『小学校学習指導要領解説 生活編』(日本文教出版)

評価方法

- (1)出席カード:30%:出席重視・小テスト実施
- (2)レポート:30%:レポート2回・授業への積極的態度
- (3)定期試験:40%:論述式・持ち込み不可

生活科教育法

担当者：船田 信昭

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

既習の「生活」で学んだ生活科の内容理解を基に、指導案の作成並びに模擬授業の実施を通して、主として子どもの学びと教師のかかわり方等の指導方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

生活科における子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるように学ぶ意義がある。また、生活科の目標や内容を踏まえて本時案を自力で作成できる。そして、本時のねらい、学習活動、評価を一体的にとらえるとともに、発問、板書、子どものみとり方等の指導技術が身に付くことを目標にする。

準備学習(予習)

教科書や配布プリントを再読して内容理解に努め、例えば、模擬授業に必要な教材作成等の準備を怠らないこと。

準備学習(復習)

例えば、自分の作成した本時案の記述内容と模擬授業とのギャップ等の原因を自分でよくおさらいしておくこと。

授業計画

- 1.生活科の理念・原理
- 2.生活科の内容 1
- 3.生活科の内容 2
- 4.生活科の本時案から学ぶ
- 5.生活科の授業のV T Rから学ぶ
6. V T Rから生活科の本時案作成(1)
- 7.生活科の単元指導計画から本時案作成(2)(レポート課題)
- 8.生活科の模擬授業
- 9.生活科の評価と子どものみとり
- 10.生活科の評価を含めた本時案作成(3)
- 11.生活科の模擬授業
- 12.生活科の模擬授業
- 13.生活科の授業と教師の役割 1
- 14.生活科の授業と教師の役割 2
- 15.生活科の指導計画の考え方

教科書

文部科学省,文科省『小学校学習指導要領解説 生活編』(日本文教出版)

評価方法

- (1)出席カード:30%:出席重視、小テスト
- (2)本時案:40%:模擬授業、積極的態度、レポート
- (3)定期試験:30%:持込み不可

生徒指導論(進路指導を含む。)

担当者：小川 隆夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

生徒指導は、児童が自分自身を見つめ、よりよく成長していくことを援助する指導のことである。また、生徒指導は授業、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事、給食、掃除、休み時間などのすべての活動を通して行われることから、実際の学校生活の様々な場面を想定し、援助や指導方法、教師の立場や適切な行動などについて話し合う。

2.学びの意義と目標

児童は集団生活の中で人と関わりながら歩んでいる。その中では適度な人間関係を保ちながら、困った時も切り抜けていく力を要求される。生徒指導を学ぶ意義は、日常生活の中で児童を援助、指導するうえでの具体的な指針が得られることである。

生徒指導の基本的な考え方を身につけることにより、一人ひとりの良さを伸ばし、様々な場面での説得力ある対応ができ、解決していく力がつくことを目標とする。

準備学習(予習)

テキストの指定ページを読んで授業に臨む。新聞から、教育関係の記事を選び、自分の意見を加えたプレゼンができるようにしておく。

準備学習(復習)

テキストの指定ページの復習をする。日常的に新聞に目を通すこと。

授業計画

1. 生徒指導の意義と役割
2. 適応と発達
3. 生徒理解の方法
4. 学校の生徒指導
5. 懲戒と体罰
6. 問題行動
7. いじめ・不登校
8. 校内暴力と家庭内暴力
9. 家庭の生徒指導
10. 教育相談と進路指導・カウンセリング
11. 生徒指導と特別支援教育
12. 教職科目としての生徒指導論
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. 授業の確認とまとめ

教科書

楠本恭久、篠田輝子、佐々木史之、久我隆一、高島翠、藤田主一、齋藤雅英『新生徒指導論12講』(福村出版)

評価方法

- (1)出席と貢献:20%:小プレゼンを含む
- (2)レポート:20%
- (3)プレゼンテーション:30%
- (4)期末テスト:30%

専門演習(異文化間教育)

担当者：佐藤 千瀬

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。具体例として、日本に住む外国人の子ども、海外に住む日本人の子ども、国際結婚の子どもを対象とした研究が挙げられる。本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行う。また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。

2.学びの意義と目標

・基礎文献の講読方法及び文献の収集方法、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。
・日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、多角的に考える。

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに、調べ直し最終レポートをまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 資料の収集方法とテーマの決定 文献の講読方法とまとめ方
3. 異文化間教育とは 異文化間教育の実践例
4. 発表とディスカッション
5. 発表とディスカッション
6. 発表とディスカッション
7. 発表とディスカッション
8. 発表とディスカッション
9. 発表とディスカッション
10. 海外の保育/教育の実践例
11. 発表とディスカッション
12. レポート作成方法
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. 海外の遊び/絵本 まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40% (2)発表:45% (3)レポート:15%

専門演習(異文化間教育)

担当者：佐藤 千瀬

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のあるテーマを見つけ、文献を講読し、発表とディスカッションを行う。

2.学びの意義と目標

「専門演習(異文化間教育I)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが最大のねらいである。
・文献リストの作成方法、文献の講読方法及びまとめ方、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。
・各自の関心のあるテーマとともに、日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みを広げ、多角的に考える。

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション テーマの決定
2. 文献の講読方法とまとめ方 発表方法
3. 発表とディスカッション
4. 発表とディスカッション
5. 発表とディスカッション
6. 発表とディスカッション
7. 発表とディスカッション
8. 発表とディスカッション
9. 世界の保育・教育
10. 世界の文化
11. 文献収集と文献リストの作成 レポート作成方法
12. 発表とディスカッション
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40% (2)発表:45% (3)レポート:15%

専門演習(教育心理学)

担当者：鎌原 雅彦

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

子どもの発達や学習についての心理学的研究の基礎的な資料をグループで講読、討論する。
これをもとに、調べたいテーマを決定し、実際に調査を行い、結果をまとめる。

2.学びの意義と目標

子どもの発達や学習に関する問題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための教育心理学的な研究方法の基礎をみにつけることを目的とする。

準備学習(予習)

配布資料について、内容をまとめる。

準備学習(復習)

討論をもとに、自らの考えを整理する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
2. 幼児の発達に関する資料の発表と討議(1)
3. 幼児の発達に関する資料の発表と討議(2)
4. 児童の学習に関する資料の発表と討議(1)
5. 児童の学習に関する資料の発表と討議(2)
6. 親の養育態度に関する資料の発表と討議(1)
7. 親の養育態度に関する資料の発表と討議(2)
8. グループによるテーマの決定
9. 調査の方法について(1)
10. 調査の方法について(2)
11. 調査の実際(1)
12. 調査の実際(2)
13. 結果のまとめ(1)
14. 結果のまとめ(2)
15. 報告

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60% (2)出席と発表:40%

専門演習(教育文化論)

担当者：寺崎 恵子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

ルソー『エミール』を読む。彼は「誕生とともに私たちは学びはじめる。私たちの教育は私たちとともに始まる」と述べている。18世紀に書かれたこの作品を読むことによって著者と対話し、私たちが教育を通じて人間として生きていることを確認する。

2.学びの意義と目標

教育学の基本文献を皆と一緒に読み通すことを通じて、ゼミの仲間がそれぞれもっている教育観や子ども観を確認しあう。それが学びの意義である。

なんとなく文字の列をたどるのではなく、多量の文字情報から要点をとらえて読むことを繰り返しおこなって、一冊の本を読み通すことが、学びの目的である。

準備学習(予習)

指定の箇所を読んで課題に取り組む。そのやり方を初回に説明する。

準備学習(復習)

演習の内容をふまえて必要な調査や考察をおこなう。

授業計画

1. 専門演習の進め方
2. ルソーの言説から考える(1)
3. ルソーの言説から考える(2)
4. ルソーの言説から考える(3)
5. ルソーの言説から考える(4)
6. ルソーの言説から考える(5)
7. ルソーの言説から考える(6)
8. 中間まとめ
9. ルソーの言説から考える(7)
10. ルソーの言説から考える(8)
11. ルソーの言説から考える(9)
12. ルソーの言説から考える(10)
13. ルソーの言説から考える(11)
14. ルソーの言説から考える(12)
15. まとめ

教科書

ルソー、今野 一雄 『エミール 上 (岩波文庫)』(岩波書店)

評価方法

(1)報告:65%:5点×13回 (2)中間まとめ:15% (3)まとめ(発表):20%

担当者：寺崎 恵子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

前演習において読み合った『エミール』のなかで、私たちは、早い時期から子どもに書物を読ませることをルソーが勧めていないことを確認した。けれども、現代では、赤ちゃん絵本をはじめとして、早い時期から子どもは「本」に親しんでいる。

私たちは、この演習で、絵本の玩具性について研究する。絵本を「見て遊ぶもの」としてみたとき、そこに「触って遊ぶ」が関わることが考えられる。絵本に触って遊ぶことを、絵本の玩具性として、絵本の可能性について考察する。

2.学びの意義と目標

専門演習Iの発展的演習として開講されるゼミナールである。したがって、前演習で学んだこと（文献を読み通すこと、読み解くこと）を、実際の事物において確認することが、この学びの意義である。

基本的な研究の手法を学んで、それを次の卒業研究に応用することができるようにしたい。また、報告の工夫についても学ぶ。それが、この学びの目標である。

準備学習(予習)

指定された文献を読む。読むべき文献について、初回に説明する。

準備学習(復習)

演習の内容に関して必要な調査や考察をする。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 絵本との出会い
3. 絵本の構造...赤ちゃん絵本(1)
4. 絵本の構造...赤ちゃん絵本(2)
5. 絵本の構造...赤ちゃん絵本(3)
6. 絵本の構造...赤ちゃん絵本(4)
7. 絵本の構造...赤ちゃん絵本(5)
8. 中間まとめ
9. 絵本としかけ(1)
10. 絵本としかけ(2)
11. 絵本としかけ(3)
12. 絵本から玩具へ(1)
13. 絵本から玩具へ(2)
14. 絵本から玩具へ(3)
15. 研究のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)報告:65%:5点×13回 (2)中間まとめ:15% (3)研究のまとめ:20%

専門演習(算数)

担当者：佐藤 逸子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習（算数）の内容を発展させて、論理的思考を深めるために、ソーマキューブ・ホリトロン・ジオハートなどの教材を用いて、立体感覚を養う。数学の基礎知識を増やし、発表を通して論理的な展開の習熟を図る。

2.学びの意義と目標

算数における論理性を強調し、立体感覚を体験を通して学び、身につけることが重要である。理解したことを発表することでその技能を高めることを目標とする。

準備学習(予習)

講義内容に関して基礎知識をまとめておく

準備学習(復習)

講義で学んだことをよく理解し、復習課題を解く

授業計画

1. 立体感覚を養う 1
2. 立体感覚を養う 2
3. 平面図形（作図とユークリッド幾何学）
4. 正五角形や九点円の幾何学的性質を学ぶ
5. 折り紙の幾何学を学ぶ
6. 多様な児童の実態を学ぶ（教員の予備知識として） 1
7. 多様な児童の実態を学ぶ（教員の予備知識として） 2
8. 多様な児童の実態を学ぶ（教員の予備知識として） 3
9. 立体図形を用いた授業の展開（発表と討議） 1
10. 立体図形を用いた授業の展開（発表と討議） 2
11. 立体図形を用いた授業の展開（発表と討議） 3
12. 立体図形を用いた授業の展開（発表と討議） 4
13. 発表の総括
14. 算数科指導要領の変遷と今後の課題
15. まとめ

教科書

石橋康徳 『算数学』（日本評論社）

評価方法

(1)研究発表:50% (2)課題レポート:30% (3)討論の参加度:20%

専門演習(児童学)

担当者：田澤 薫

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。
カリキュラム上の位置づけ：
児童学科の卒業必修科目である。

2.学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

準備学習(予習)

子どもに関する自分の関心に向き合しましょう。課題報告のための自主的な調査・研究と発表準備が必要です。事前に配布した資料はしっかり読みましょう。

準備学習(復習)

配布資料や参考文献を積極的に読みましょう。

授業計画

1. 子どもへのまなざし
2. 子ども研究のはじまり
3. 子どもの育ちと生活(1) 生活時間
4. 子どもの育ちと生活(2) 睡眠
5. 子どもの育ちと生活(3) 食事
6. 子どもの育ちと生活(4) 遊び
7. おもちゃ
8. 絵本
9. 障害をもつ子どもと絵本・おもちゃ
10. 子どもと制度
11. 病気の子ども
12. 子どもと親
13. 子どもと保育者
14. 子どもと地域
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

専門演習(児童学)

担当者：田澤 薫

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習(児童学I)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもと絵本をめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。
カリキュラム上の位置づけ：
児童学科の卒業必修科目である。

2.学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

準備学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取組み、報告するための準備をすることが必要です。

準備学習(復習)

研究発表ごとに、次に研究を進めていく方向性を確認しましょう。

授業計画

1. 子どもと絵本について考える視点
2. 子どもと絵本について考える方法(1)
3. 子どもと絵本について考える方法(2)
4. 研究報告(1)
5. 研究報告(2)
6. 研究報告(3)
7. 研究報告(4)
8. 研究報告(5)
9. 研究報告(6)
10. 研究報告(7)
11. 研究報告(8)
12. 研究報告(9)
13. 研究報告(10)
14. 研究報告(11)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・参加:30%:積極的な発言を求めます(2)研究発表:40%:自分の発表当番の回に向けて、よく準備して報告してください(3)レポート:30%

専門演習(児童教育学)

担当者：永井 理恵子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1年次の「児童教育学」で習得した内容の、さらに深いレベルの学習をおこなう。3年次以降のゼミ研究の基礎力を育成する。

2.学びの意義と目標

教育学の基礎の学び直し。

準備学習(予習)

毎週、与えられた読書課題に目を通してくる。
発表を担当するときには、レジユメを作成する。

準備学習(復習)

授業で勉強したことを見直してくる。
発表を担当したときには、レジユメの訂正版を作成する。

授業計画

- 1.はじめに 今後の計画を話す
- 2.『子どもへのまなざし』を読む1
- 3.『子どもへのまなざし』を読む2
- 4.『子どもへのまなざし』を読む3
- 5.『子どもへのまなざし』を読む4
- 6.『子どもへのまなざし』を読む5
- 7.『子どもへのまなざし』を読む6
- 8.『教育学をつかむ』を読む1
- 9.『教育学をつかむ』を読む2
- 10.『教育学をつかむ』を読む3
- 11.『教育学をつかむ』を読む4
- 12.『教育学をつかむ』を読む5
- 13.『教育学をつかむ』を読む6
- 14.『教育学をつかむ』を読む7
- 15.総括

教科書

佐々木 正美,山脇 百合子『子どもへのまなざし』(福音館書店)
木村元,小玉重夫,船橋一男『教育学をつかむ(テキストボックス「つかむ」)』(有斐閣)

評価方法

(1)出席率:60% (2)報告の水準:40%

専門演習(児童教育学)

担当者：永井 理恵子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

個人または班による「調べ学習」を基本とする。
適宜、学生の希望または状況に応じ、教師が適当な図書を指定し、共に読んだりもする。

2.学びの意義と目標

各自が取り組む、児童教育学関係の主題を決定し、それについての基礎的な学習をおこなう。

準備学習(予習)

教師から指示された課題を、次回までにやってくる。

準備学習(復習)

教師から指示されたことを反復し、新しい課題に取り組む。

授業計画

- 1.はじめに 今後の計画を話す
- 2.課題選択 1
- 3.課題選択 2
- 4.調べ学習 1
- 5.調べ学習 2
- 6.図書検索について学ぶ1
- 7.調べ学習 3
- 8.調べ学習 4
- 9.調べ学習 5
- 10.中間発表
- 11.図書検索について学ぶ2
- 12.調べ学習 6
- 13.調べ学習 7
- 14.調べ学習 8
- 15.期末発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席率:60% (2)調べの態度:30% (3)期末レポート:10%

専門演習(児童福祉実践論)

担当者：坂本 佳代子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、保育を必要とする乳幼児、養護に欠ける児童、心身に障害をもつ児童等様々な対象への支援を実践していくにはどのようにしていったらよいのでしょうか。ボランティア等の実践を通して方法論をさぐっていきます。

テーマは各自設定し、調べた結果や実践の体験報告を行い、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていきます。

2.学びの意義と目標

- ・ 児童福祉の体系を理解すること
- ・ 児童福祉施設のそれぞれの役割を理解する
- ・ 児童福祉を実践的に学ぶこと

準備学習(予習)

身近な地域での児童福祉実践、ボランティア活動情報等の入手方法を探ってください。

準備学習(復習)

授業の最後に、振り返りを行う。

授業計画

1. 児童福祉の分野と対象
2. 実践活動の方法論
3. 実践体験
4. 事例研究の進め方
5. レポート発表
6. レポート発表
7. 児童福祉施設見学
8. レポート発表
9. レポート発表
10. レポート発表
11. 児童福祉施設見学
12. レポート発表
13. レポート発表
14. レポート発表
15. 児童福祉実践についてのまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題実践:50% (2)提出物:30% (3)授業態度:20%

専門演習(児童福祉実践論)

担当者：坂本 佳代子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、ボランティア等の実践を通して、実践的に児童福祉の現状を学んでいきます。

一つの実践から、普遍的な要素と個別的要素を見極めていく力量を培います。

テーマは各自設定し、調べた結果や実践の体験報告を行い、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていきます。

2.学びの意義と目標

- ・児童福祉の体系を理解すること
- ・児童福祉施設のそれぞれの役割を理解する
- ・児童福祉の実践者としての力量を高める
- ・現状と今後の課題を見出していく

準備学習(予習)

身近な地域での児童福祉実践、ボランティア活動を積極的に実践してください。

準備学習(復習)

授業の最後に、振り返りを行う。

授業計画

1. 児童福祉施設の体系
2. 児童福祉施設での実践留意事項
3. 実践体験
4. 事例研究の進め方
5. レポート討議
6. レポート討議
7. 事例研究の進め方
8. レポート討議
9. レポート討議
10. 事例研究の進め方
11. レポート討議
12. レポート討議
13. 事例研究の進め方
14. レポート討議
15. 児童福祉実践のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題実践:50% (2)提出物:30% (3)授業態度:20%

専門演習(児童文学)

担当者：松本 祐子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んでくること。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う。

2.学びの意義と目標

このゼミは、保育者、小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。

準備学習(予習)

初回授業で、各自、読書リストを提出。読書会の課題図書を毎回、必ず読んでくること。自分の発表時にはレジュメを作成し、当日の午前中に提出すること。

準備学習(復習)

読書会発表後は、レポートを作成して提出すること。

授業計画

1. 授業説明、及び、各自の今学期の課題作品発表
2. 日本語表現、レポートの書き方について(1)
3. 日本語表現、レポートの書き方について(2)
4. 日本語表現、レポートの書き方について(3)
5. 読書会
6. 読書会
7. 読書会
8. 読書会
9. 読書会
10. 読書会
11. 読書会
12. 読書会
13. 読書会
14. 読書会
15. レポート発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)読書会発表:40% (2)学期末レポート:30% (3)平常点:30%

専門演習(児童文学)

担当者：松本 祐子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。

2.学びの意義と目標

社会人としての教養と日本語力を身につけること、また、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。

準備学習(予習)

ゼミの前半は、毎回、様々な課題を出すので、初回授業で配布する予定表に従って予習してくる。後半は、国語の模擬授業とブックトークを行ってもらうので、発表者はじゅうぶん用意してくる。

準備学習(復習)

国語力向上のために各自に必要な読書・新聞購読などを行うこと。

授業計画

1. 授業説明
2. ブックトークについて
3. 俳句を作る
4. 難しい言葉クイズ
5. 作文課題を考える
6. 物語のキャラクター作り
7. おまえ は悪い言葉か？
8. 金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」(1)
9. 金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」(2):替え歌を作ろう
10. 国語模擬授業
11. 国語模擬授業
12. 国語模擬授業
13. ブックトーク発表
14. ブックトーク発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)模擬授業・ブックトークの発表:30% (2)毎回の課題&出席:70%

専門演習(社会科)

担当者：川瀬 敏行

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

社会科指導に必要と思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、

- 1 社会科の本質
- 2 社会科の内容
- 3 社会科学学習指導論
- 4 社会科の授業実践

などから適宜課題を取り上げ、演習と研究をする。
なお、現地見学・学習を行う予定である。

2.学びの意義と目標

社会科教育、社会科指導における基礎的基本的な内容について学び、教師を目指す資質を向上させる。

準備学習(予習)

授業の中で指示された点については、次回までに予習し、準備をしておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習した内容については確認し、確実に習得していけるようにしていくこと。

授業計画

1. ガイダンス、授業計画等について
2. 社会科教育、社会科指導における基礎基本
3. 選択課題に基づく演習・協議 1
4. 選択課題に基づく演習・協議 2
5. 選択課題に基づく演習・協議 3
6. 選択課題に基づく演習・協議 4
7. 選択課題に基づく演習・協議 5
8. 現地見学・学習計画
9. 現地見学・学習
10. 現地見学・学習のまとめ
11. 選択課題に基づく演習・協議 6
12. 選択課題に基づく演習・協議 7
13. 選択課題に基づく演習・協議 8
14. 選択課題に基づく演習・協議 9
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)レポート:20% (3)学期末課題:50%
上記を基準に総合的に判断します。

専門演習(社会科)

担当者：川瀬 敏行

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習（社会科 ）の継続で行う。社会科授業の基盤となる学習内容の研究、学習指導案の作成、授業研究等から選択課題に基づく演習・協議をし、研究を深める。現地見学・現地学習も取り入れ、研究協議する。

2.学びの意義と目標

社会科教育・社会科指導において、教師に求められる資質・能力の基礎を養成する。教師の専門性の向上に結び付けていくことを目指す。

準備学習(予習)

課題を選定、研究し発表の準備をする。

準備学習(復習)

発表について全体で協議し、指摘・指導された点については、再度確認、修正する。

授業計画

1. ガイダンス、授業計画について
2. 選択課題に基づく演習・協議・研究 1
3. 選択課題に基づく演習・協議・研究 2
4. 選択課題に基づく演習・協議・研究 3
5. 選択課題に基づく演習・協議・研究 4
6. 選択課題に基づく演習・協議・研究 5
7. 現地見学・学習計画
8. 現地見学・学習
9. 現地見学・学習のまとめ
10. 選択課題に基づく演習・協議・研究 6
11. 選択課題に基づく演習・協議・研究 7
12. 選択課題に基づく演習・協議・研究 8
13. 選択課題に基づく演習・協議・研究 9
14. 選択課題に基づく演習・協議・研究 1 0
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)レポート:20% (3)課題研究:50%
上記を基準に総合的に判断します。

専門演習(生涯学習)

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

人間を育てる場は、家庭教育や学校教育だけではない。近代公教育制度が整備される前にも、人間は学校に行かなくても一人前の人間としての、人格を形成や知識・技能あるいは社会性を身につけてきた。それは、社会が人間を人間として育て、成長させる担い手として大きな教育的機能を果たしてきたからである。本演習では、「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会や、成長後も人間に感化を与え続ける社会、そのような社会の持つ教育的機能について、まずは考えていく。また、今日の日本社会における教育をめぐる問題を『『学ぶこと・学ばないこと』のテキスト購読と討論を通じて考えていく。さらに、春休みに入った2月には、生涯学習センターや国際子ども図書館などを見学し、学校教育の外で子どもや親が参与できる学びの機会について学ぶ。

2.学びの意義と目標

本演習では、「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会やそこでの営みが子どもの成長・発達にいかなる意味を有するのかについて理解する。また、改正教育基本法第10条において、子育てをしている親への支援策を国や地方公共団体が行うことが求められているが、学校や家庭の外で、子どもたちと親たちのためにどのような学びや遊びの機会（また、そのための施設）が用意されているのかについて理解する。

準備学習(予習)

毎回指定された、テキスト、資料を熟読し、わからない概念や用語については事前に調べ学習を持って、演習に参加すること。

準備学習(復習)

毎回の演習で取り上げた課題について、もう一度再考を行い、自分の中で咀嚼し、理解が不明確な点あるいは疑問を抱いた事柄については、次の演習時に、改めて質問できるようにすること。

授業計画

1. 図書館ツアー（資料の場所と、探し方の習得）
2. 子どもと社会教育（1）：子どもが生きられる場～遊びの創造とアジュール～
3. 子どもと社会教育（2）：社会が持つ教育力とは何か
4. 子どもと社会教育（3）：社会が持つ教育力とは何か
5. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（1）
6. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（2）
7. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（3）
8. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（4）
9. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（5）
10. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（6）
11. 関心事について調べた事の発表と質疑応答（1）
12. 関心事について調べた事の発表と質疑応答（2）
13. 関心事について調べた事の発表と質疑応答（3）
14. 台東区立生涯学習センター、国際子ども図書館（上野）の見学ツアー
15. まとめ

教科書

鈴木真理 『学ぶこと・学ばないこと』(学文社)

評価方法

(1)出席点:40% (2)平常点:60%

専門演習(生涯学習)

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1 内容

各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。

2 カリキュラム上の位置づけ

卒業研究のプロセスとして考えている。

2.学びの意義と目標

各自、研究テーマを追究する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認し、科学的かつ普遍性をもつ研究の在り方とは何かについて学ぶことを目指したい。

準備学習(予習)

指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項については可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。

準備学習(復習)

授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げ、次回の授業に臨むこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. レポート作成の基礎(1)
3. レポート作成の基礎(2)
4. レポート作成の基礎(3)
5. レポート作成の基礎(4)
6. レポート作成の基礎(5)
7. 資料の探し方
8. 各人の関心に基づく発表テーマの設定
9. 発表の準備(1)
10. 発表の準備(2)
11. 各自の関心に基づく発表と検討(1)
12. 各自の関心に基づく発表と検討(2)
13. 各自の関心に基づく発表と検討(3)
14. 各自の関心に基づく発表と検討(4)
15. まとめ

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)

評価方法

(1)出席点:40% (2)平常点:60%

専門演習(造形教育論)

担当者：喜田 敬

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。

2.学びの意義と目標

作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.江戸市民文化と欧州絵画
- 3.印象派の画家たち
- 4.近代美術教育の成立
- 5.チゼックと児童絵画
- 6.日本の造形教育
- 7.臨画
- 8.自由画
- 9.幼児の発達と描画
- 10.幼児画の特徴
- 11.幼児の描画活動と保育者
- 12.アメリカ
- 13.イギリス
- 14.フランス
- 15.まとめ

準備学習(予習)

予習用に配布するプリントは必ず読むこと。

教科書

プリントを配布する
プリントを配布する。

準備学習(復習)

授業ノートを再読し、配布されたプリントとファイルすること。

評価方法

(1)出席・レポート:80% (2)ディスカッション:20%

専門演習(造形教育論)

担当者：喜田 敬

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行為とか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。

専門演習IIでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。

2.学びの意義と目標

造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣を身につける。

準備学習(予習)

予習のために配布するプリントを読んでおくこと。

準備学習(復習)

ノートをまとめ、配布資料をファイルする。

授業計画

1. オリエンテーション。
2. 子どもの絵、大人の絵。
3. 透視画法。
4. 色相、明度、彩度。
5. 光。
6. DBAE。
7. DBAEの実技体験
8. ディスカッション「DBAEの可能性と問題点」
9. 造形教育と性差
10. マンガと保育者
11. 日本アニメの歴史。アニメーション黎明期。
12. アニメーション現代。
13. サブカルチャーとファインアートと子どもたち。
14. ディスカッション「造形教育の望ましい在り方」。
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
プリントを配布する。

評価方法

(1)制作:40% (2)レポート:40% (3)発表:20%

専門演習(保育実践論)

担当者：相川 徳孝

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この演習ではさまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められている役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。

2.学びの意義と目標

子ども理解の上に、実際に子どもたちが興味や関心をもつ教材にはどのようなものがあるのかを考え、作製していく。

準備学習(予習)

幼稚園や保育所でよく使われる教材や発達に即した絵本等について調べておくこと。

準備学習(復習)

他の授業ですでに学んだ幼稚園、保育所の役割や子どもの発達のプロセスについて正しく理解しておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.いろいろな保育教材について
- 3.子どもの発達と保育教材
- 4.保育教材製作のための計画書作成
- 5.保育教材製作(1)
- 6.保育教材製作(2)
- 7.保育教材製作(3)
- 8.保育教材製作(4)
- 9.保育教材製作(5)
- 10.指導案作成
- 11.模擬保育(1)
- 12.模擬保育(2)
- 13.模擬保育(3)
- 14.模擬保育からの今後の自己課題について
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)教材作製:50% (2)模擬保育:25% (3)討論の参加度:25%
ただ楽しいも教材を作るということではなく、それを通して何を育てたいか、明確にし、取り組むこと。

専門演習(保育実践論)

担当者：相川 徳孝

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習は、「専門演習(保育実践論)」の延長線上にあり、前演習で取り組んだ教材研究を具体的な保育の内容にどのように取り入れていけばよいのか、そのためにはどのような保育者の働きが必要となるのか等について実践していく。

2.学びの意義と目標

ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えると、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら討論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。

準備学習(予習)

各自の実践から保育についての実践記録をまとめ、討論ができるように準備すること。

準備学習(復習)

授業時に取り上げた事例研究において、問題点と子ども同士、子どもと保育者のかかわりをまとめておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.保育研究の方法について
- 3.事例研究の意義
- 4.事例研究の方法(1)
- 5.事例研究の方法(2)
- 6.事例研究の方法(3)
- 7.事例研究発表(1)
- 8.グループ討論(1)
- 9.事例研究発表(2)
- 10.グループ討論(2)
- 11.事例研究発表(3)
- 12.グループ討論(3)
- 13.事例研究発表(4)
- 14.グループ討論(4)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)事例レポート:50% (2)子ども理解:25% (3)文章表現:25%
各自のレポートにおいて他者につたわる内容であるか、考察ができて
いるかがポイントとなる。

相談援助

担当者：笹淵 悟

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1 内容

相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。先ず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。

2 カリキュラム上の位置づけ

保育士資格取得のための必修科目である。

相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。

3 学びの意義と目標

希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考えたつ、相談援助者の存在理由を一緒に求めていきたい。

2.学びの意義と目標

子どものこと、障碍児者のこと、高齢者のことをよく知らないし、現場体験も乏しい受講生が少なくないと思うので、演習科目である本講義では、相談援助の基礎的な理論や方法だけでなく、将来、福祉の現場でも応用できる援助技術の習得を目指したい。そのために、様々な対人援助の理論と具体的な援助技術を身につけること 社会資源の活用に関心、地域の福祉力を高める力をつけること 現場から学べる人であって欲しい 以上の3点を目標に授業を進めていくので、全力でぶつかって欲しい。

準備学習(予習)

授業計画を必ず読んで、必要な語句やトピックについて情報を集めておく。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので、ぜひ予習はやって欲しいですね。

準備学習(復習)

講義で使ったプリント・資料を再読して、専用のファイルに収納すること。出題された「課題演習」をやって、次週までに発表出来るようにしておくこと。

授業計画

1. 相談援助の意義と機能（オリエンテーション）
2. 相談援助理論
3. 相談援助とソーシャルワーク
4. 相談援助の方法と理解
5. 相談援助の環境と技術
6. 相談援助の具体的展開（ケースワークの諸原則）
7. ケースワークの具体的展開
8. グループワークを活用した相談援助（その1）
9. グループワークを活用した相談援助（その2）
10. グループワークの具体的展開（グループワークの諸原則）
11. 相談援助における記録と評価
12. 多様な専門職との連携
13. 社会資源の活用・調整・開発
14. 相談援助の課題と展望（事例分析）
15. まとめ（授業内試験）

教科書

プリントを配布する
配布するプリント・資料を収納する専用ファイルを2冊用意しておくこと。

評価方法

- (1)授業内試験:80%:第15講時に実施 (2)出席点:10%:15～14回 10%
13～12回 8%
11～10回 6%
(3)授業への参加度:10%:意見、感想、疑問等記入&課題提出

卒業研究(異文化間教育)

担当者：佐藤 千瀬

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

卒業研究は、「専門演習(異文化間教育I・II)」の延長線上にあり、これまでの学習成果をさらに発展させ、ディスカッションを重ねながら、各自の関心のあるテーマを深めていくことを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。
・卒業論文(レポート)の書き方を学ぶ。

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.研究のタイプとデータ収集法
- 3.研究方法1:参与観察
- 4.研究方法2:観察演習
- 5.研究方法3:フィールドノーツの作成法
- 6.研究方法4:インタビュー
- 7.研究方法5:研究者倫理
- 8.世界の遊び
- 9.研究発表とディスカッション
- 10.研究発表とディスカッション
- 11.研究発表とディスカッション
- 12.研究発表とディスカッション
- 13.研究発表とディスカッション
- 14.研究発表とディスカッション
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40% (2)発表:45% (3)レポート:15%

卒業研究(異文化間教育)

担当者：佐藤 千瀬

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する。授業は、それぞれの経過報告とディスカッションで進められる。

2.学びの意義と目標

- ・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。
- ・卒業論文(レポート)の書き方を学ぶ。

準備学習(予習)

発表(経過報告)4回分の準備及び卒業論文(レポート)の執筆を計画的に進めること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに修正し、卒業論文(レポート)にまとめること。

授業計画

1. 先行研究の発表
2. 先行研究の発表
3. 先行研究の発表
4. 経過報告とディスカッション
5. 経過報告とディスカッション
6. 経過報告とディスカッション
7. 経過報告とディスカッション
8. 経過報告とディスカッション
9. 経過報告とディスカッション
10. 経過報告とディスカッション
11. 経過報告とディスカッション
12. 研究成果の発表
13. 研究成果の発表
14. 研究成果の発表
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30% (2)発表:60% (3)レポート:10%

卒業研究(音楽創造論)

担当者：村山 順吉

開講期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「卒業研究(音楽創造論)」で設定したテーマに則して行ってきた研究をまとめ、それを小論文・卒業演奏・卒業作品のいずれかで発表する。卒業演奏・卒業作品を選択した場合でも、それに至った過程をレポートにまとめ、提出すること。

2.学びの意義と目標

どのような研究方法を選択したとしても、音楽が独自の在り方で、ヒトとヒトを繋ぐものであることを、客観的に捉えられるように、そしてそれを今後の生き方に反映できるようになることを、目標とする。

準備学習(予習)

個別指導が中心となるので、テーマを深めるために必要なことを自分で見つけて準備をしていくこと。卒業演奏を選択した場合は、しっかりした練習を重ねていくこと。

準備学習(復習)

個別指導で学んだことを、ペーパーにまとめること。卒業演奏を選択した場合は、反復練習をきちんとすること。

授業計画

1. 発表のための準備(1)
2. 発表のための準備(2)
3. 発表のための準備(3)
4. 発表のための準備(4)
5. 発表のための準備(5)
6. 発表のための準備(6)
7. 発表のための準備(7)
8. 発表のための準備(8)
9. 発表のための準備(9)
10. 発表のための準備(10)
11. 発表のための準備(11)
12. 発表のための準備(12)
13. 発表のための準備(13)
14. 発表のための準備(14)
15. 発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)研究態度:50% (2)レポート:50%
しっかり取り組んだもののみ認める。

卒業研究(教育文化論)

担当者：寺崎 恵子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習(教育文化論II)で学んだことを発展させる。各自で研究テーマの設定方法、研究方法、そして研究成果発表の方法を身につけたい。

2.学びの意義と目標

ゼミ全体で進めてきた専門演習から、各自で研究を進める卒業研究への移行として、この学びを位置づけている。したがって、仲間との話し合いのなかから、各自が自分の学びのテーマを見出して、根気よく、自主的な研究を進めるための基本を身につけることが、学びの意義であり、目標である。

準備学習(予習)

次回までの課題としたことについて調査をする。

準備学習(復習)

進捗状況報告へのコメントをふまえて、研究を進める。

授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマの設定(1)
3. 研究テーマの設定(2)
4. 研究の方法(1)
5. 研究の方法(2)
6. 研究の方法(3)
7. 中間発表
8. 考察(1)
9. 考察(2)
10. 考察(3)
11. 考察(4)
12. 研究をまとめる(1)
13. 研究をまとめる(2)
14. 研究をまとめる(3)
15. まとめの発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)研究進展状況報告:65%:5点×13回 (2)中間発表:15%
(3)まとめの発表:20%

卒業研究(教育文化論)

担当者：寺崎 恵子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

卒業研究 で学んだことを発展させて、自主的に研究を深める。共通のテーマは、「幼児向けテレビ番組『ピラゴラスイッチ』を解く」とする。子どもの考える力を養うことをコンセプトとしているその番組の構成とその工夫を把握して、各自、研究を深めたい。

2.学びの意義と目標

排他的な学びは不可能である。仲間と共に学ぶなかで、他者の意見を大切にしながら自分の世界を構築する力を養う。それが学びの意義である。

わかりやすく発表をすること、建設的なディスカッションをすることなど、社会人に必要な力を身につけることを、学びの目標とする。

授業計画

1. 研究の進め方について
2. 研究テーマの確認(1)
3. 研究テーマの確認(2)
4. 研究の方法(1)
5. 研究の方法(2)
6. 研究の方法(3)
7. 中間発表
8. 研究をまとめる(1)
9. 研究をまとめる(2)
10. 研究をまとめる(3)
11. 研究をまとめる(4)
12. 研究をまとめる(5)
13. 研究をふりかえって(1)
14. 研究をふりかえって(2)
15. まとめの発表

準備学習(予習)

次回のための調査研究

教科書

授業の中で指示する

準備学習(復習)

進展状況報告へのコメントに応じた調査研究

評価方法

(1)研究進展状況報告:65%:各回5点×13回(2)中間発表:15%
(3)まとめの発表:20%

卒業研究(算数)

担当者：佐藤 逸子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

空間把握トレーニング・作図のまとめ・算数指導に関する重要項目の研究と討議を行う。また卒業研究テーマを決定させる。

2.学びの意義と目標

算数における数学的な背景を理解することは児童に分かりやすく説明するために必須である。専門演習で培ってきた算数力をさらに深めていくことを目標とする。

準備学習(予習)

課題の検索や調査を忠実にを行う

準備学習(復習)

学んだことを定着させる

授業計画

- 1.空間把握スキルトレーニング 1
- 2.空間把握スキルトレーニング 2
- 3.折り紙の科学 1
- 4.折り紙の科学 2
- 5.教育実習報告会 1
- 6.教育実習報告会 2
- 7.算数指導に関する研究(児童理解)
- 8.算数指導に関する研究(習熟度別)
- 9.算数指導に関する研究(少人数制)
- 10.算数指導に関する研究(現在の課題)
- 11.算数指導に関する研究(まとめ)
- 12.卒業研究テーマの発表と質疑 1
- 13.卒業研究テーマの発表と質疑 2
- 14.卒業研究テーマの発表と質疑 3
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート研究:50% (2)毎回の課題:30% (3)授業への関心・意欲:20%

卒業研究(算数)

担当者：佐藤 逸子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

各自のテーマに沿った研究を深めていき、発表しあって不足を補い、より精査されたものにして提出する

2.学びの意義と目標

卒業研究 で計画した内容を基に研究を継続し、深めて、最終的にレポートにまとめて完成することを目標とする

準備学習(予習)

各自のテーマに沿って十分な準備をすること

準備学習(復習)

レポート発表時に指摘されたことや不十分だったところを補う

授業計画

1. オリエンテーション（卒業研究に関する注意事項など）
2. 場面指導の実際と検討 1
3. 場面指導の実際と検討 2
4. 場面指導の実際と検討 3
5. 場面指導のまとめ
6. 算数・数学基礎知識の復習
7. 数学 ・A重要定理の確認と実習
8. 卒業研究に向けてテーマの最終決定
9. 卒業研究に向けて調査と文献検索 1
10. 卒業研究に向けて調査と文献検索 2
11. 各自の卒業研究の進捗状況の報告と討論 1
12. 各自の卒業研究の進捗状況の報告と討論 2
13. 卒業研究作成（目次の作成）
14. 卒業研究作成（内容の完成）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:70% (2)発表と討議への参加:30%

卒業研究（児童学）

担当者：田澤 薫

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習（児童学II）の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。
カリキュラム上の位置づけ：
児童学科の卒業必修科目である。

2.学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

準備学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取組み、報告するための準備をすることが必要です。

準備学習(復習)

研究発表ごとに、研究してきたことを振り返り、研究を進めるために次に行うことを考えましょう。

授業計画

1. 研究方法の学習（1）
2. 研究方法の学習（2）
3. 研究報告と討議（1）
4. 研究報告と討議（2）
5. 研究報告と討議（3）
6. 研究報告と討議（4）
7. 研究報告と討議（5）
8. 研究報告と討議（6）
9. 研究報告と討議（7）
10. 研究報告と討議（8）
11. 研究報告と討議（9）
12. 研究をまとめる方法（1）
13. 研究をまとめる方法（2）
14. 研究をまとめる方法（3）
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・参加:30%:積極的な発言を求めます。(2)研究発表:40%:発表の当番回に向けて、よく準備をして報告してください。(3)レポート:30%

卒業研究（児童学）

担当者：田澤 薫

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

卒業研究（児童学I）で取り組んだ受講生各々の卒業研究を発展させ、子どもを研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表する。
カリキュラム上の位置づけ：
児童学科の卒業必修科目である。

2.学びの意義と目標

子どもを軸とした自らの関心に沿って、調べたり実践したりすることを通して考えることの具体的な方法を実践的に習得する。子ども研究の面白さ、奥深さ、難しさを体験的に学ぶ。自ら取り組んだ成果を大切に扱い、まとめ、人に伝える手法を実践しながら身につける。受講生同士の成果に関心をもって尊重しあい、学びあう経験をする。

準備学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取組み、報告するための準備をすることが必要です。

準備学習(復習)

卒業研究レポートにまとめるために、協議した内容を文章にまとめておくことが必要です。

授業計画

1. 卒業研究の方向性
2. 研究報告と討議（1）
3. 研究報告と討議（2）
4. 研究報告と討議（3）
5. 研究報告と討議（4）
6. 研究報告と討議（5）
7. 研究報告と討議（6）
8. 研究報告と討議（7）
9. 研究を発表する方法（1）
10. 研究を発表する方法（2）
11. 研究発表を聞いて自分の研究を豊かにする方法
12. 卒業研究の発表と討議（1）
13. 卒業研究の発表と討議（2）
14. 卒業研究の発表と討議（3）
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

卒業研究(児童教育学)

担当者：永井 理恵子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

個人または班による「調べ学習」を基本とする。
適宜、学生の希望または状況に応じ、教師が適当な図書を指定し、共に読んだりもする。

2.学びの意義と目標

各自が取り組む、児童教育学関係の主題を決定し、それについての発展的な学習と研究をおこなう。

準備学習(予習)

前回に教師から指示されたことをやる。

準備学習(復習)

講義で教師から指示されたことを振り返る。

授業計画

- 1.はじめに 今後の計画を話す
- 2.図書検索について学ぶ
- 3.調べ学習 1
- 4.調べ学習 2
- 5.調べ学習 3
- 6.中間報告 1
- 7.調べ学習 4
- 8.調べ学習 5
- 9.調べ学習 6
- 10.調べ学習 7
- 11.中間報告 2
- 12.調べ学習 8
- 13.調べ学習 9
- 14.調べ学習 10
- 15.期末発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席率:50% (2)学習の態度:30% (3)期末レポートの成果:20%

卒業研究(児童教育学)

担当者：永井 理恵子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

3年次までに各自がおこなってきた調べ学習から発展させ、主体的に新たな課題を発見し、それについて考究する。
各自で研究を進めるのと同時並行的に、各自の必要に応じて教師が個別に指導をおこなう。

2.学びの意義と目標

各自の課題研究の総仕上げ。

準備学習(予習)

研究手法を自ら考案して教師に示す。

準備学習(復習)

教師の指示に従い、調査研究を進める。

授業計画

- 1.はじめに 今後の計画を話す
- 2.調査研究の方向について討議する 1
- 3.調査研究の方向について討議する 2
- 4.各自で調査研究を進める 1
- 5.各自で調査研究を進める 2
- 6.各自で調査研究を進める 3
- 7.各自で調査研究を進める 4
- 8.中間報告
- 9.各自で調査研究を進める 4
- 10.各自で調査研究を進める 5
- 11.各自で調査研究を進める 6
- 12.各自で調査研究を進める 7
- 13.各自で調査研究を進める 8
- 14.各自で調査研究を進める 9
- 15.最終発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席率:40% (2)参加の態度:30% (3)研究成果:30%

卒業研究(児童福祉実践論)

担当者：金谷 京子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習で収集した自己の研究テーマに関する資料を整理し、体系化して現代社会においてなぜ児童福祉の実践が必要かその論拠を探索していく。

自己の研究内容を発表し、他者から質問や意見を受けながら更に研究を深めていく。

2.学びの意義と目標

児童福祉実践の基礎を踏まえた上で、自ら情報収集してきたデータをもとに研究計画を立て、研究のまとめの方法を検討していく。研究をまとめることで、実践の理論的根拠を確立していく。

準備学習(予習)

先行文献の検索
発表の準備

準備学習(復習)

発表原稿の修正

授業計画

1. ガイダンス
2. 先行研究について
3. 研究計画の立て方
4. 論文の書き方
5. 演習報告書中間発表
6. 演習報告書中間発表
7. 演習報告書中間発表
8. 演習報告書中間発表
9. 演習報告書中間発表
10. 演習報告書中間発表
11. 演習報告書中間発表
12. プレゼンテーションの方法
13. プレゼンテーションの方法
14. プレゼンテーションの方法
15. 演習報告書作成に向けて

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)研究報告書作成:50% (2)研究発表:50%

卒業研究(児童福祉実践論)

担当者：坂本 佳代子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習(児童福祉実践論)で学んだことを発展させる。研究テーマの設定方法、研究方法、そして研究成果発表の方法を身につけたい。

2.学びの意義と目標

児童福祉実践 で培ってきた現場との触れ合いから、自身が課題意識を持っていることは何かを明確化させる。その課題に取り組む方法を学び、自主的な研究を進めるための基本を身につけることを目的とする。

準備学習(予習)

次回までの課題について資料収集・調査をする。

準備学習(復習)

進捗状況報告へのコメントをふまえて、考察を深める。

授業計画

1. 卒業研究のテーマ設定 (1)
2. 卒業研究のテーマ設定 (2)
3. 卒業研究の方法 (1)
4. 卒業研究の方法 (2)
5. 卒業研究の方法 (3)
6. 卒業研究レジメの作成 (1)
7. 卒業研究レジメの作成 (2)
8. レポートにそって討議 (1)
9. レポートにそって討論 (2)
10. レポートにそって討論 (3)
11. レポートにそって討論 (4)
12. レポート発表 (1)
13. レポート発表 (2)
14. レポート発表 (3)
15. レポート発表 (4)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)卒業研究レポート:50% (2)討論:25%:高めあう討論実践
(3)発表:25%:工夫と態度

卒業研究(児童福祉実践論)

担当者：金谷 京子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要	授業計画
<p>1.内容 卒業研究でまとめた演習報告書を整理し、研究報告書としてまとめていく。 自己の研究内容を発表し、他者から質問や意見を受けながら更に研究を深めていく。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. ガイダンス2. 論文の書き方3. 論文の書き方4. 演習報告書中間発表5. 演習報告書中間発表6. 演習報告書中間発表7. 演習報告書中間発表8. 演習報告書中間発表9. 演習報告書中間発表10. 演習報告書中間発表11. 演習報告書まとめ12. 演習報告書まとめ13. プレゼンテーションについて14. プレゼンテーション資料作成15. 研究発表会
<p>2.学びの意義と目標 研究報告書として体系化して研究をまとめていくことで、自己の研究の意義を学習し、児童福祉実践の今後の課題を探索していく。</p>	
<p>準備学習(予習) 報告書のまとめ プレゼンテーションの準備</p>	
<p>準備学習(復習) 報告書の修正</p>	<p>教科書 プリントを配布する</p>
	<p>評価方法 (1)報告書作成:60% (2)研究発表:40%</p>

卒業研究(児童文学)

担当者：松本 祐子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。

2.学びの意義と目標

様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

毎回のディスカッションテーマに合わせて、各自が作品を選び、レジюмеを用意してくる。学期末に卒業研究レポートのレジюмеを提出してもらうので、各自、準備を進めておくこと。

準備学習(復習)

毎回のディスカッションで扱った作品についてレポートを作成してもらう。

授業計画

1. 授業説明
2. 論文のレジюме作成方法について
3. ディスカッション(1)家族
4. ディスカッション(2)友情
5. ディスカッション(3)動物
6. ディスカッション(4)恋
7. ディスカッション(5)冒険
8. ディスカッション(6)魔法
9. ディスカッション(7)不老不死
10. ディスカッション(8)クリスマス
11. 百人一首
12. 句会
13. 卒業研究レジюме発表
14. 卒業研究レジюме発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)毎回の課題&出席:60%
- (2)学期末レポート:30%
- (3)卒業研究レジюме:10%

卒業研究(児童文学)

担当者：松本 祐子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。

2.学びの意義と目標

保育者・教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

卒業研究レポート作成を進めるのと並行して、ゼミメンバーの研究テーマについて、全員がディスカッションに参加できるように、扱われる作品等を読んでくること。

準備学習(復習)

ディスカッションを通して学んだことを踏まえて、卒業研究レポートを修正しながら完成させること。

授業計画

1. 受講者各自の論文テーマ発表
2. 経過報告とディスカッション
3. 経過報告とディスカッション
4. 経過報告とディスカッション
5. 経過報告とディスカッション
6. 経過報告とディスカッション
7. 経過報告とディスカッション
8. 経過報告とディスカッション
9. 経過報告とディスカッション
10. 経過報告とディスカッション
11. 経過報告とディスカッション
12. 経過報告とディスカッション
13. 卒業研究レポート発表
14. 卒業研究レポート発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)毎回のディスカッションと出席:40% (2)卒業研究レポート:60%

卒業研究(児童臨床心理学)

担当者：山田 麻有美

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

受講生は、専門演習（児童臨床心理学）及び卒業研究（児童臨床心理学）において学習してきたことを集大成し、卒業論文作成の準備を行う。これまでに収集した文献や情報をもとに卒業研究で立てた研究計画を再検討し、研究計画を実施していく。また受講生は、各自の研究の進捗状況を報告し、相互に意見を交換しあうことにより、各自の研究を更に深め、卒業論文の基礎となる自らの考え方や資料を整理し、まとめる。

2.学びの意義と目標

大学4年間の学びの集大成としての卒業論文作成のための準備を行うことが目標である。この過程で、受講生相互の知見がより深まり、卒業後、社会人として要請される課題解決の手順や方法を身につけることが期待される。

準備学習(予習)

発表者は、あらかじめ発表内容をまとめ、発表の前週に資料として配布してください。表資料は、当日までに全員が読み、各自の疑問や意見を整理してください。

準備学習(復習)

発表における検討事項を確認してください。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 研究テーマの検討（1）
3. 研究テーマの検討（2）
4. 研究テーマに関する文献収集（1）
5. 研究テーマに関する文献収集（2）
6. 研究計画の作成（1）
7. 研究計画の作成（2）
8. 研究計画の検討（1）
9. 研究計画の検討（2）
10. 研究計画の実施（1）
11. 研究計画の実施（2）
12. 研究計画の実施（3）
13. 研究のまとめと発表（1）
14. 研究のまとめと発表（2）
15. 演習のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)研究計画:30% (2)研究の進捗状況:30% (3)討論への参加状況:30% (4)出席状況:10%

卒業研究(社会科)

担当者：川瀬 敏行

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

地理的分野、歴史的分野、公民的分野など、広く社会科教育に関する内容の中から、各自が研究題材項目を選択する。選択した項目について調査研究を進め、その報告を全体で協議し、研究を深める。

2.学びの意義と目標

社会科教育について、これまで学んできたことを基盤に、各自が研究テーマをもち、十分な調査と研究から、大学での集大成としての卒業研究に結び付けていくことを目指す。

準備学習(予習)

報告者は、前回、指摘・指導を受けた箇所の修正をした新たなレジュメ等を準備すること。報告しない者も進行状況について簡単に伝える。

準備学習(復習)

ゼミで検討し、指摘された点については、再度、調査研究しておく。

授業計画

1. 卒業研究の進め方
2. 取り上げたい調査研究について
3. 調査研究計画の発表・協議(1)
4. 調査研究計画の発表・協議(2)
5. 調査研究計画の発表・協議(3)
6. 調査研究テーマについて報告・協議(1)
7. 現地調査(1)
8. 調査研究テーマについて報告・協議(2)
9. 現地調査(2)
10. 調査研究中間発表・協議(1)
11. 調査研究中間発表・協議(2)
12. 調査研究中間発表・協議(3)
13. 調査研究中間発表・協議(4)
14. 調査研究中間発表・協議(5)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)研究協議参加度:20% (3)調査活動・研究報告:50%
上記を基準に総合的に判断します。

卒業研究(生涯学習)

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。
秋学期開講科目であるので、最初、テーマ設定と研究の進め方(方法論)について共通の指導を行うが、後半は個人指導を中心に進める。

2.カリキュラム上の位置づけ

児童学科専門科目で、「卒業研究(生涯学習I)」に続く、選択必修科目である。

2.学びの意義と目標

研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学び、かつ、卒論を執筆する学生のために、個人指導も併せて行う。

準備学習(予習)

発表(経過報告)の準備及び卒業論文(レポート)の執筆を授業時間以外にも計画的に進めること。

準備学習(復習)

各回に指導された事項を踏まえて、新たな学びを自主的に積み上げて、発表の内容を進化させること。

授業計画

1. 卒業研究テーマの設定の仕方
2. 卒業研究テーマの確認と決定
3. 研究方法についての指導(個別指導)
4. 各自のテーマに基づく研究の経過報告とディスカッション(1)
5. 各自のテーマに基づく研究の経過報告とディスカッション(2)
6. 各自のテーマに基づく研究の経過報告とディスカッション(3)
7. 各自のテーマに基づく研究の経過報告とディスカッション(4)
8. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
9. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
10. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
11. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
12. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
13. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
14. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
15. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)

評価方法

(1)出席点:40% (2)平常点:60%

卒業研究(障害児心理)

担当者：石川 由美子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

専門演習II（障害児心理II）を終了した方の受講となります。
専門演習IIで関心のあるテーマを見つけ出した方たちが、実際に研究デザインについて学び、自らのデザインに基づいて、研究報告書をまとめていく過程を学びます。それぞれの進捗と内容をゼミメンバーで共有しながら、障害児心理についての研究方法を学んでいきます。また、テーマに基づいた個別指導を行いません。

2.学びの意義と目標

障害児心理の領域での研究法、および研究論文の作成の枠組みを理解する。

準備学習(予習)

研究テーマに基づいた文献購読

準備学習(復習)

講義で行なわれた購読文献の発表、質疑、討論、個別指導などの内容をまとめる。

授業計画

1. 各自の研究デザインの作成
2. 各自の研究デザインの作成
3. 各自の研究デザインの発表
4. 各自の研究デザインの発表
5. 先行研究のレビュー
6. 先行研究のレビュー
7. 先行研究のレビュー
8. 各自これまでの進捗の発表
9. 各自これまでの進捗の発表
10. 研究の目的・方法の決定と記述
11. 研究の目的・方法の決定と記述
12. 研究報告書の作成
13. 研究報告書の作成
14. 研究報告書に基づいた発表
15. 研究報告書に基づいた発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への取り組み:50% (2)発表の内容:20% (3)報告書:30%

卒業研究(声楽)

担当者：藤田 明

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

卒業研究(声楽I)で行った内容を更に進め、学生一人一人がさらに高度な表現が出来るように進めていきたい。

2.学びの意義と目標

今まで学んできた音楽表現を更に深め、学生自身が自信を持って小学校や幼稚園、保育所に行けるようになって欲しい。

準備学習(予習)

学生自ら決めた発表内容は必ず練習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で指摘された箇所を中心に繰り返し復習することによってより良い表現となるので、必ず復習をすること。

授業計画

1. 授業の進め方についての説明
2. 映画「サウンドオブミュージック」を参考にして、せりふの表現について研究する(1)
3. 映画「サウンドオブミュージック」を参考にして、せりふの表現について研究する(2)
4. 映画「サウンドオブミュージック」を参考にして、せりふの表現について研究する(3)
5. 映画「のぼら」を参考にして、せりふの表現を研究する(1)
6. 映画「のぼら」を参考にして、せりふの表現を研究する(2)
7. 映画「メリーポピンズ」を参考にして、せりふの表現を研究する(1)
8. 映画「メリーポピンズ」を参考にして、せりふの表現を研究する(2)
9. 映画「メリーポピンズ」を参考にして、せりふの表現を研究する(3)
10. DVD『声のしくみ』前編を見る
11. DVD『声の仕組み』後編を見る
12. DVD『声のトラブル』を見て、発声機能やこどもの声について研究する
13. 授業で学んだ表現法の成果を発表する(1)
14. 授業で学んだ成果を発表する(2)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験・発表:50% (2)積極性:30% (3)出席:20%

卒業研究(造形教育論)

担当者：喜田 敬

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本授業では、卒業論文、卒業研究、卒業制作のうち一つを選び研究する。定期的に研究、制作の経過報告を行う。

2.学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究、卒業制作に向けた資料収集、調査、試作を進め、「卒業研究II」のじゅんびを行う。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、授業に備える。

準備学習(復習)

配布資料の再読と、与えられた課題を必ず行うかと。

授業計画

1. 卒業論文・卒業研究・卒業制作の進め方について。
2. レジメの書き方、発表の仕方。
3. 参考文献について。
4. テーマ設定(1)。
5. テーマ設定(2)。
6. 資料収集。
7. 資料収集。
8. 研究計画、制作計画レポート作成。
9. 研究計画、制作計画レポート制作。
10. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
11. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
12. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
13. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
14. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・発表:80% (2)レポート:20%

卒業研究(造形教育論)

担当者：喜田 敬

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

卒業論文、卒業研究レポート、卒業制作の指導を行う。卒業制作を選択した受講者は、制作意図、教育効果等に関する説明文書を作品に添付する。

2.学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究ないし卒業制作を通し、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、授業に備える。

準備学習(復習)

指導された内容の整理をする。

授業計画

1. 「卒業研究II」の進め方について
2. 卒業制作説明
3. 卒業研究レポート作成説明
4. 卒業制作・卒業研究レポート
5. 卒業制作・卒業研究レポート
6. 卒業制作・卒業研究レポート
7. 経過報告
8. 経過報告
9. 卒業制作・卒業研究レポート
10. 卒業制作・卒業研究レポート
11. 卒業制作・卒業研究レポート
12. 研究発表
13. 制作発表
14. 研究発表
15. 制作発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)研究・制作発表:80% (2)出席:20%

卒業研究(保育実践論)

担当者：相川 徳孝

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「卒業研究」は「専門演習（保育実践論Ⅰ・Ⅱ）」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。

2.学びの意義と目標

各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。

準備学習(予習)

基礎実習と保育所実習、施設実習の日報をまとめておくこと。

準備学習(復習)

討論を通して明確となった課題をまとめていくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.いろいろな保育方法
- 3.幼稚園教育要領について
- 4.保育所保育指針について
- 5.事例研究(1)
- 6.事例研究(2)
- 7.事例研究(3)
- 8.事例研究(4)
- 9.事例研究(5)
- 10.事例研究(6)
- 11.事例研究(7)
- 12.保育者の援助について
- 13.遊びを通じた学びの意義
- 14.子どもの生活と環境構成
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)事例レポート:80% (2)討論の参加度:20%
各自の実践をまとめ、それを第三者に説明し、柔軟な視点で自分の保育をみつめられるかがポイント。

卒業研究(保育実践論)

担当者：相川 徳孝

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別的に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく

2.学びの意義と目標

演いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、卒業研究として集大成することを目指すものであり、多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。

準備学習(予習)

各自の興味や関心にしたがってレポートをまとめ、それを土台に討論できるように準備すること。

準備学習(復習)

討論を通して見えてきた他者の保育者の視点、保育の課題についてまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 各自のテーマ設定について
3. テーマ設定発表
4. レポート作成(1)
5. レポート作成(2)
6. レポート作成(3)
7. レポート発表中間発表
8. レポート作成(1)
9. レポート作成(2)
10. レポート作成(3)
11. レポート発表と討論(1)
12. レポート発表と討論(2)
13. レポート発表と討論(3)
14. 保育の今日的課題
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)実践レポート:80% (2)保育実践:20%

体育 A

担当者：鈴木 明

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、その組み合わせ方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目である。

幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子ども達の健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

2.学びの意義と目標

幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子ども達はその過程を楽しみ、さらにそこからの気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるというようなポジティブな方向性に運べる活動に発見や喜びを見出すにはどうするかを発見できることを目標とする。

準備学習(予習)

からだを動かすことの大切さ、楽しさを学ぶためにまず自分自身の体を健康に保つこと。授業内容のルール等はあらかじめ調べておくこと。

準備学習(復習)

自身の日常生活に反映させてください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 体ほぐしの特性と実践
3. 体ほぐしの実践と指導のあり方
4. 体ほぐしの実践と指導のあり方 ロールプレイ
5. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
6. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
7. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
8. ゲームあそびの特性と指導のあり方 ボールゲームの特性
9. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
10. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム）
14. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム）
15. 前期まとめ

教科書

プリントを配布する
授業時にプリントを配布。

評価方法

- (1)授業への意欲:50%:与えられた課題を持っていかに授業に取り組んで
- (2)レポート:40%:課題に対する理解度
- (3)出席点:10%:実技種目はまず出席
運動の得意、不得意は問いません。いかにその授業に対して真剣に取り組んでいるかを評価します。

体育 A

担当者：高橋 進

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目である。幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

授業計画

1. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
2. 体ほぐしの特性と実践
3. 体ほぐしの実践と指導のあり方
4. 劇遊びの実践と指導のあり方
5. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
6. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
7. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
8. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
9. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 前期のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題レポート:50% (2)試験:50%
* 15回全出席することを前提に評価を考える。

体育 B

担当者：鈴木 明

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、その取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目である。

幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子ども達の健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子ども達はその過程を楽しみ、さらにそこからの気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるというようなポジティブな方向性に運べる活動に発見や喜びを見出すにはどうするかを発見できることを目標とする。

準備学習(予習)

からだを動かすことの大切さ、楽しさを学ぶためにまず自分自身の体を健康に保つこと。授業内容のルール等はあらかじめ調べておくこと。

準備学習(復習)

自身の日常生活に反映させてください。

授業計画

1. ゲーム遊びの実践（鬼あそび）
2. ゲーム遊びの実践（用具を使った鬼あそび）
3. ゲーム遊びの実践と指導 ロールプレイ
4. ゲーム遊びの実践と指導 ロールプレイ
5. ゲーム遊びの実践と指導 ロールプレイ
6. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（鉄棒など）
7. 器械や器具を使つての運動遊びの実践（マット運動等）
8. 器械や器具を使つての運動遊びの実践（跳び箱、平均台など）
9. 用具を操作する運動遊びの特性と実践（縄跳びなど）
10. 用具を操作する運動遊びの特性と実践（フープなど）
11. 力試しの運動
12. 表現リズム遊びの特性
13. 表現リズム遊びの実践（リズム遊びなど）
14. 表現リズム遊びの実践（模倣遊びなど）
15. 1年間のまとめ

教科書

プリントを配布する
授業時にプリントを配布。

評価方法

- (1)授業への意欲:50%:いかに授業に取り組んでいるか
- (2)レポート:40%:課題に対する理解度
- (3)出席点:10%:実技種目はまず出席
運動の得意、不得意は問いません。いかにその授業に対して真剣に取り組んでいるかを評価します。

体育 B

担当者：高橋 進

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。

カリキュラム上の位置づけ：

小学校教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための選択必修科目である。幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになることを目的とする。

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

授業計画

1. ゲーム遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
2. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
3. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
4. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
5. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業(1)
6. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業(2)
7. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業(1)
8. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業(2)
9. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業(1)
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業(2)
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題レポート:40% (2)試験:40% (3)模擬授業・指導実践:20%
* 15回全出席することを前提に評価を考える。

体育科教育法

担当者：鈴木 直樹

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで、実技を通して、各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を明らかにしていく。その上で、実際に指導案を作成し、討議を行い、体育の指導についての理解を深めていく。また、近年、反省的实践家としての教師が強く求められているように、常に授業改善しながら、よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが、いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に、模擬授業を通して、授業分析を演習する。

2.学びの意義と目標

本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。また、本講義では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為、次の各項目を学習の目標とする。

- 1) 体育の学習観を捉えなおし、授業づくりの基盤を確立することができる。
- 2) 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通し、カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。
- 3) 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。

準備学習(予習)

教科書を読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書とノートを活用して振り返りを行う。

授業計画

1. 小学校体育の方向性について体育の歴史の変遷を踏まえながら理解する。
2. 小学校の運動領域編成と学びの系統性について理解する。
3. 運動のおもしろさや魅力について実技を通して理解する。
4. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。(1)
5. 体育における様々な学習形態について方法的側面と組織側面から知り、その長所と短所を理解する。
6. 体育における子どもの視点に立った学習過程について理解する。
7. 体育の授業づくりの手順を理解し、教材研究の進め方を理解する。
8. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。(2) & 現在、求められる体育の学習評価の在り方について理解する。
9. 「体づくり運動」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
10. 「器械運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
11. 「陸上運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
12. 模擬授業の振り返りを行い、指導の改善点について明確にする。
13. 「ボール運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
14. 「表現運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
15. 「保健」の模擬授業及び、授業のまとめのワークショップを行う。

教科書

評価方法

- (1)ミニレポート:25%:授業時に作成 (2)授業観察・分析:20% (3)学習指導案:20% (4)授業実践:15% (5)期末レポート:20%
出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。

地域福祉論

担当者：牛津 信忠

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

・地域福祉の基本的考え方を次の内容に沿って講義していく。
1 人権尊重、2 権利擁護、3 自立支援、4 地域生活支援、5 地域移行、6 社会的包摂等を含む（順番は理解度に即して変更されることがある）

・地域福祉の主体と対象について理解する。

・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

地域福祉は現今社会福祉〔広義〕の主要分野となっている。我々の地域生活の課題に住民として主体的に取組み、解決のために行動することが今求められる故である。現時点においてこうした意味を持つ地域福祉を、その具体的課題に応じて深く理解し、我々が地域住民ないし市民として果たすべき事柄を身に着けていくことを、さらに地域生活を通して実践できるようになることを目標にする。

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、地域に対する認識を深めておくことが望ましい、さらに授業時に配布するレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項の考察をすること。

準備学習(復習)

毎回配布するプリントを、前もって読み理解を深めておくこと。この予習で感じた問題意識を基礎にして授業を受け、その問題意識への応答を文面として次の授業の前に提出する（授業終了時に上記応答用のコメント用紙を配布する）。

授業計画

1. 地域福祉の基本的考え方；人権尊重
2. 地域福祉の基本的考え方；権利擁護
3. 地域福祉の基本的考え方；自立支援
4. 地域福祉の基本的考え方；地域生活支援
5. 地域福祉の基本的考え方；地域移行
6. 地域福祉の基本的考え方；社会的包摂等
7. 地域福祉の主体と対象（1）
8. 地域福祉の主体と対象（2）
9. 地域福祉の主体と対象（3）
10. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（1）
11. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（2）
12. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（1）
13. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（2）
14. 地域福祉の技術（1）
15. 地域福祉の技術（2）

教科書

プリントを配布する
主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。

評価方法

- (1)授業出席回数:20% (2)授業態度・積極性:10%
(3)復習・予習小テスト:20% (4)学期末試験:50%

道徳教育の研究

担当者：市村 和子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校における「道徳の時間」の指導過程や指導方法について、事例研究を行う。また、いくつかの資料を基に資料分析の仕方や学習指導の展開の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等とおして授業の進め方を学ぶ。

2.学びの意義と目標

小学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。

準備学習(予習)

道徳の資料について事前に読んだり、資料となりうる事例について探したりすること。

準備学習(復習)

毎回の授業のポイントを整理すること。

授業計画

1. オリエンテーション、「道徳とは何か」
2. 読み物資料紹介
3. 学習指導要領について(1)
4. 学習指導要領について(2)
5. 事例研究(1)
6. 事例研究(2)
7. 資料分析(1)
8. 資料分析(2)
9. 学習指導案の作成(1)
10. 学習指導案の作成(2)
11. 模擬授業準備(授業を効果的に進めるための資料作成)
12. 模擬授業(1)
13. 模擬授業(2)
14. 模擬授業(3)
15. 小学校における道徳教育のまとめ

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』(東洋館出版社)

評価方法

(1)出席状況・参加態度:30%(2)指導案作成・模擬授業:40%(3)理解度の確認:30%:随時小テストを実施する。
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

読書と豊かな人間性

担当者：小川 三和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

2.学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

準備学習(予習)

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

授業計画

1. 読書の意義と目的・子どもの読書環境
2. 多様な読書資料とその選択・紹介
3. 発達段階に応じた読書指導
4. 読書環境の整備と読書材の提供・紹介
5. 子どもと本を結ぶための方法・読み聞かせ等
6. 子どもと本を結ぶための方法・ブックトーク
7. 子どもと本を結ぶための方法・アニメーション
8. 子どもと本を結ぶための方法・読書会
9. 各教科等における読書指導
10. 各教科等における読書指導
11. 個に応じた読書と指導
12. 学校経営と読書教育・年間計画
13. 司書教諭の役割
14. 評価試験
15. 地域社会との連携・まとめ

教科書

『シリーズ学校図書館学』編集委員会『読書と豊かな人間性(シリーズ学校図書館学第4巻)』(全国学校図書館協議会)

評価方法

(1)学習の準備:30% (2)提出物:30% (3)評価試験:40%
出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物、実習の準備、評価試験とを併せ、総合的に評価する。

特別活動の理論と方法

担当者：阿久戸 多喜子

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校教育課程の三つの領域の一つである「特別活動」について受講者の体験を振り返り、この科目の指導の意味を捉え直す。

小学校教育課程における特別活動の位置づけを確認し、総合的な学習との違いを明確にしながら「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を理解する

2.学びの意義と目標

各自、実際の授業を想定した指導計画を立て、自ら模擬授業を行い、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる

授業計画

1. ガイダンス、「特別活動」の受講者体験の振り返り
2. 日本の教育の課題と特別活動の果たす役割
3. 特別活動の歴史
4. 学校教育課程における特別活動の位置づけ
5. 特別活動の目標
6. 特別活動の4つの内容とそれぞれの特質
7. 特別活動の評価の考え方とその扱い
8. 指導計画の立て方
9. 特別活動の授業者の資質向上のための指導技術例
10. 学級活動の指導と進め方
11. 児童会活動の指導と進め方
12. クラブ活動の指導と進め方
13. 学校行事の指導と地域交流の実践
14. 各自の指導案に基づく模擬授業
15. まとめ、仕上げのテスト、都道府県採用試験の過去問

準備学習(予習)

指導案立案の予習として実践事例検索をしておくことも効果的である

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』（東洋出版社）

準備学習(復習)

授業日ごとに、前時までの学習内容確認のために単元テストを行う。振り返りの復習をしておく

評価方法

(1)単元テスト:50% (2)指導案立案:20% (3)授業出席率:30%

乳児保育 A

担当者：岸澤 藤子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人としての土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。本講義では、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技術を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。

カリキュラムの位置づけ：

保育士資格のための必修科目。

これまでに他科目で学んだことも、「乳児保育」という分野において統合していくことが望まれる。

2.学びの意義と目標

乳児保育が必要とされる社会的背景を説明できるようになる。また、乳児保育の現状と課題を理解し考えを深める。さらに、乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について学ぶ。

加えて、それぞれの発表を通して乳児と信頼関係を築くために必要な保育技術を身につける。

準備学習(予習)

自らすすんで、実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で、手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備をしておくこと。

準備学習(復習)

乳児の月齢に応じた手遊びを、自信を持って楽しくできるように復習しておくこと

授業計画

- 1.乳児保育とは
- 2.赤ちゃんの誕生
- 3.乳児保育が求められる社会的背景
- 4.乳児保育の現状
- 5.乳児保育の歴史的変遷
- 6.乳児院における乳児保育
- 7.家庭的保育等における乳児保育
- 8.保育所における乳児保育
- 9.保育所における乳児保育の実際
- 10.乳児や家庭をとりまく環境と子育て支援の場
- 11.個々の発達を促す遊び
- 12.児童福祉法、児童福祉施設最低基準
- 13.労働基準法、育児・介護休業法
- 14.保育所保育指針～改定のポイント
- 15.まとめ

教科書

志村聡子 『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)

評価方法

(1)受講状況:20% (2)提出物:20% (3)発表:20% (4)筆記試験:40%

乳児保育 B

担当者：田村 すゝか

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発育と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携 の3点を柱として講義を行う。

カリキュラムの位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目である。

「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。

2.学びの意義と目標

人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。

準備学習(予習)

授業計画を参照して該当する項目に関して教科書に事前に目を通す。

準備学習(復習)

各回最初に前回の復習を兼ねたプリントを行うことで知識の定着を図るため、前回のノートに頼らずにプリントに記入できるよう、各回のポイントについて復習しておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.赤ちゃんの誕生(妊娠から胎児期、誕生まで)
- 3.子どもの心と体の発達(1)(人間の赤ちゃんの誕生)
- 4.子どもの心と体の発達(2)(出生～3カ月まで)
- 5.子どもの心と体の発達(3)(生後4カ月～8カ月まで)
- 6.子どもの心と体の発達(4)(生後4カ月～8カ月まで)
- 7.子どもの心と体の発達(5)(生後9カ月～15カ月まで)
- 8.子どもの心と体の発達(6)(生後15カ月～2歳まで)
- 9.子どもの心と体の発達(7)(2歳児)
- 10.子どもの心と体の発達(まとめ)
- 11.保護者との連携・保護者への支援
- 12.発達の遅れと援助 子どもの健康と安全
- 13.保護者との連携・保護者への支援 地域との連携
- 14.乳児保育の計画と評価
- 15.総括と試験

教科書

吉長 真子, 志村 聡子 『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)

評価方法

(1)受講状況:25% (2)レポート:25%:最初の授業で指示する (3)試験:50%

人間福祉の探求

担当者：古谷野 亘

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「臨床死生学・スピリチュアルケア分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。

2.学びの意義と目標

人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。

準備学習(予習)

次回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

準備学習(復習)

毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。

授業計画

1. 研究すること
2. 福祉理論のなかの地域福祉的要素
3. 高齢社会とユニバーサルデザイン
4. 高齢社会の元気高齢者
5. 精神保健福祉研究（イギリスのリカバリーリサーチ）
6. 精神保健福祉における新たな支援関係：
プロシューマーの萌芽とうねり
7. 健康と環境
8. 生きにくさを抱える子どもの現代的課題：出生前診断と障がい児
9. 子どもを研究する視座
10. 子ども虐待とネグレクト
11. 近代教育思想家の理論に学ぶ教育哲学
12. 児童文学に見る子どもと他者
13. 対人援助職のメンタルヘルス
14. 自殺予防
15. 死の臨床とスピリチュアルケア

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)レポート:40%

発達心理学

担当者：徳井 千里

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容：乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。そのうえで、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。さらに、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。

2.カリキュラム上の位置づけ：保育士資格必修科目・幼稚園教諭資格必修科目・小学校教諭資格必修科目であり、卒業必修科目である。保育士資格新カリキュラムにおける「保育の心理学」に該当する。

2.学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくことよい。

授業計画

- 1.発達を学ぶということ ~子どもを理解するために
- 2.新生児期・乳児期の子ども ~赤ちゃんって、どんなことをしているの？
- 3.幼児期の子ども ~保育園・幼稚園時代の子どもたち
- 4.身体・運動機能の成熟と発達 ~体の発育と成長、動く能力
- 5.遊びの発達 ~遊びのなかでの育ち
- 6.認知機能の発達 ~感じる、知る、考える、わかる
- 7.言語機能とコミュニケーションの発達 ~ことばの獲得と相手と通じ合うということ
- 8.児童期の子ども ~小学生が経験すること
- 9.学習機能の発達 ~読み書きや計算ができるようになるしくみ
- 10.感情・社会性の発達 ~人との関わりのなかで育つ心
- 11.思春期から成年期、老年期 ~大人になり、年をとっていく生涯
- 12.家族関係の発達 ~親になること、家族の子育てを支援する
- 13.発達の多様性 ~個性を大切にしながら、必要な支援を
- 14.現代社会における発達 ~子どもと家族をとりまく現実
- 15.理解度の確認(学期末試験)

教科書

本郷一夫(編著)『保育の心理学I・II』(建ぱく社)

評価方法

- (1)出席:20% (2)ミニテスト・レポート:40%
(3)期末テスト:40%:中間テストを実施する場合もあり。

ファンタジー論

担当者：松本 祐子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。

2.学びの意義と目標

「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本質を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。

準備学習(予習)

授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。

準備学習(復習)

毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。

授業計画

1. ファンタジーとは何か
2. 神話・伝説:ファンタジーの原型
3. 神話・伝説:予言の意味
4. 神話・伝説:ギリシャ神話(1)
5. 神話・伝説:ギリシャ神話(2)
6. 神話・伝説:北欧神話(1)
7. 神話・伝説:北欧神話(2)
8. 神話・伝説:アーサー王伝説
9. ファンタジーの生き物:ドラゴン(1)
10. ファンタジーの生き物:ドラゴン(2)
11. ファンタジーの生き物:ユニコーン、その他
12. ファンタジーの空間:現実から異世界への移動法
13. ファンタジーの空間:異世界の物語
14. ファンタジーの空間:ディズニーランド
15. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ(1)
16. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ(2)
17. ファンタジーの空間:日常の中の魔法
18. ファンタジーの空間:「私」の中の「他人」
19. ファンタジーの空間:夢
20. ファンタジーの空間:バーチャル・リアリティー
21. ファンタジーの時間:過去と未来
22. ファンタジーの時間:時間旅行の方法
23. 異形のものたち:ヴァンパイア(1)
24. 異形のものたち:ヴァンパイア(2)
25. 異形のものたち:人造人間(1)
26. 異形のものたち:人造人間(2)
27. 異形のものたち:不老不死
28. 魔法使いと魔女
29. 魔法の食べ物
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)毎回の課題&出席:20%
- (2)第一レポート:25%
- (3)第二レポート:25%
- (4)第三レポート:30%

フィールドワーク

担当者：相川 徳孝

開講期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学生の自主的なボランティア活動等の体験を実践レポートとしてまとめ、対象理解や子どもとかわる大人として求められる役割、現場環境について理解をしていく。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための選択科目

2.学びの意義と目標

この授業は子どもの生活の場に自主的に参加し、生活を共にすることを通して体験したことをレポートや討議等の方法を通して整理、理論化し、子どもに対する理解や現場環境の理解を深めていくことを目的とする。

準備学習(予習)

フィールドにおける実践体験をしておくこと。

準備学習(復習)

討論等で指摘されたことをレポートとしてまとめること。

授業計画

1. フィールドワークとは何か？
2. 実践の理論化とはどういう営みか？（1）
3. 実践の理論化とはどういう営みか？（2）
4. 実践の場における情報交換（1）
5. 実践の場における情報交換（2）
6. 実践の場における情報交換（3）
7. 記録の整理（1）
8. 記録の整理（2）
9. 記録の整理（3）
10. 記録の整理（4）
11. 体験と記録に基づくグループ討議（1）
12. 体験と記録に基づくグループ討議（2）
13. 体験と記録に基づくグループ討議（3）
14. 発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
授業の中で参考となる図書や資料を提示していく。

評価方法

(1)体験記録:50% (2)レポート発表:50%

保育・教職実践演習(初等)(小)

担当者：船田 信昭

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

教職課程における全学年を総括し自己分析を行っていくものである。これまで蓄積してきた「履修カルテ」等の記録、学外活動の経験等を基にこれまで培ってきた能力の確認(自己分析)及び不足部分(知識・技能・態度など)の補完をする。具体的には、学習指導力、生徒指導力、学級経営力、協働力などの教員としての資質・能力を確認し、自己の目指す教師像を明確にする。

演習として、グループ学習・討論、ロールプレイング、事例研究、フィールドワーク、教材研究、指導案作成、模擬授業等を取り入れていく。

2.学びの意義と目標

教職課程の集大成として4年生の秋学期に位置付け、学生が教員になる上で自己の課題を自覚し、不足する知識や技能等を補い、その定着を図る演習等を通して、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。

準備学習(予習)

前時の課題に対する自分なりの解答・意見・準備等。

準備学習(復習)

指摘された内容事項についての修正

授業計画

- 1.履修カルテから自己分析
- 2.教科等の指導力 1
- 3.教科等の指導力 2
- 4.教科等の指導力 3
- 5.教科等の指導力 4
- 6.教科等の指導力 5
- 7.生徒理解と学級経営 1
- 8.生徒理解と学級経営 2
- 9.生徒理解と学級経営 3
- 10.生徒理解と学級経営 4
- 11.社会性や対人関係 1
- 12.社会性や対人関係 2
- 13.社会性や対人関係 3
- 14.社会性や対人関係 4
- 15.教師初日の対応

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席、討論への参加度:30% (2)指導案・模擬授業:30%
(3)レポート:40%
毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

保育・教職実践演習(初等)(幼)

担当者：相川 徳孝

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

大学4年間の幼稚園教職課程の学びを総括し、これまで蓄積してきた「履修カルテ」や実習日誌を基に幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能については補完をしていく。

2.学びの意義と目標

大学4年間の学びと実習・実践を通して学んだことを総合的に学習することを目的とし、幼稚園教諭を目指す上での自己課題を明確にしていく。不足している知識・技能については補完をし、卒業後に幼稚園教諭として従事する上で必要な資質や能力を高めていく。

準備学習(予習)

履修カルテや実習記録からの自己課題を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業や模擬保育等で指摘されたことをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の説明、履修カルテから自己分析）
2. 幼稚園教諭としての職務
3. 保護者との対応について
4. 遊びを通じた学びについて
5. 安全管理について
6. 子ども理解
7. 指導案作成について
8. 模擬保育とグループ討議
9. 模擬保育とグループ討議
10. 模擬保育とグループ討議
11. 模擬保育とグループ討議
12. 模擬保育とグループ討議
13. 模擬保育とグループ討議
14. 幼稚園教諭として求められる力
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
必要に応じプリントを配布する。

評価方法

(1)自己課題レポート:10% (2)授業内試験:20% (3)模擬保育:50%
(4)課題レポート:20%
毎回の出席が大前提である。

保育原理

担当者：寺崎 恵子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

保育は、育つ者と育てる者とのあいだの、細やかで大らかな関わりあいにある。倉橋惣三は『育ての心』のなかで、「世の中にこんな楽しい心があるのか。それは明るい世界である。温かい世界である。」と保育の世界を述べた。

私たちは、保育の基礎を、子どもと大人との 目交（まなかい） に注目して理解したい。日々の生活のなかで両者が互いに見つめあうところに、保育の楽しさ、明るさ、そして温かさを感じる。そうした基本を大切にしたいからである。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格科目のうち、保育の本質と目的を把握することを目的としている科目である。保育についての基本的知識を習得して、基本的な視点を学ぶための入門として位置づけている。

2.学びの意義と目標

保育士資格科目のうち、「保育の本質・目的に関する科目」のひとつである。保育の世界に身をもってかかわるには、ゆたかな感受性としなやかな思考力をもって、学び得たことを保育実践に活かしていこうとする意欲が求められる。その意欲を確認することに、学びの意義がある。

保育の世界は、「育ち・育てる」の基本形を長く保持してきた。また、時代の変化に応じた保育の知恵とわざをもっている。こうした保育の基本・基礎を理解することに学びの目標を置く。

準備学習(予習)

配布プリントをよく読む。プリントの内容が次回の小レポートの課題になることもある。

準備学習(復習)

充実したノートをつくる。大いに用語辞典（教科書）を活用してほしい。

授業計画

1. 保育の原義
2. 「育つ・育てる」の関係のありかた
3. 産育の習俗（1）...誕生のときを迎える
4. 産育の習俗（2）...七歳になるときを迎える
5. 発達過程（1）...ものに触れて世界を知る
6. 発達過程（2）...ことばの発展と世界のひろがり
7. 保育の場...子育ての環境を考える
8. 保育の時間...子どもの生活を考える
9. 保育の内容と方法（1）...個と集団、そして共同性を考える
10. 保育の内容と方法（2）...過程と成果、そして子ども理解のあり方
11. 保育の課程...計画・実践・記録・評価、そして省察
12. 保育の思想と歴史（1）
13. 保育に思想と歴史（2）
14. 保育における課題...子育て支援と連携のあり方考える
15. 保育の可能性

教科書

森上 史朗, 柏女 霊峰 『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)小レポート:70%:各回5点×14回 (2)期末課題:20% (3)ノート:10%
小レポートの記述状況によっては、書き直しを求める。

保育実習

担当者：田澤 薫, 坂本 佳代子

開講期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：5単位

講義概要

1.内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目である。「保育実習」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。必ず「保育実習指導」と併せて履修すること。また保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

2.学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

準備学習(予習)

実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。

準備学習(復習)

一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。

授業計画

1. 保育所における実習
2. 保育所における実習
3. 保育所における実習
4. 保育所における実習
5. 保育所における実習
6. 保育所における実習
7. 保育所における実習
8. 保育所における実習
9. 保育所における実習
10. 保育所における実習
11. 保育所における実習
12. 居住型施設における実習
13. 居住型施設における実習
14. 居住型施設における実習
15. 居住型施設における実習
16. 居住型施設における実習
17. 居住型施設における実習
18. 居住型施設における実習
19. 居住型施設における実習
20. 居住型施設における実習
21. 居住型施設における実習
22. 居住型施設における実習

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」
保育所保育指針

評価方法

(1)保育所実習評価:30% (2)保育所実習日誌:20% (3)施設実習評価:30%
(4)施設実習日誌:20%

保育実習 A

担当者：佐藤 千瀬

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本科目は、「保育実習」の経験を踏まえ、さらなる目的意識と自己課題をもって、保育所において実習を行うものである。授業で学んだ保育理論と保育技術をどのくらい自分のものとしているのか、また、保育所実習において実習園から指導を受けたことが、自分の問題として認識され解決できているのかが問われることになる。

カリキュラム上の位置づけ：

「保育実習」及び保育士資格に関連する科目を、適切な評価で修得した者が履修できる。保育士資格取得のためには、「保育実習A」または「保育実習B」のいずれかを修得することが条件となっている。

2.学びの意義と目標

- (1) 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
- (2) 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
- (3) 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- (4) 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
- (5) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
- (6) 保育士としての自己の課題を明確化する。

準備学習(予習)

指導案作成、模擬保育準備及び実習準備を計画的に取り組むこと。

準備学習(復習)

模擬保育後に指導案の加筆修正をすること。また、記録を作成すること。実習後には、事後指導用のレポートを作成し、自己課題を明確にすること。

授業計画

1. オリエンテーション 指導計画・指導案について
2. 保育所保育指針について 保育所の役割や機能
3. 指導案の個別指導
4. 指導案の個別指導
5. 模擬保育（指導計画の実践）
6. 模擬保育（指導計画の実践）
7. 模擬保育（指導計画の実践）
8. 模擬保育（指導計画の実践）
9. 記録（実習日誌）と評価について
10. 実習オリエンテーションについて 観察に基づく保育理解
11. 家庭・地域との連携 保育士の業務と職業倫理
12. 実習オリエンテーション（実習園）
13. 実習を終えてのグループ討議
14. 個別指導（事後指導） 自己課題の明確化
15. 個別指導（事後指導） 自己課題の明確化

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)事前指導:10% (2)実習評価:60% (3)実習日誌:10% (4)指導計画:10% (5)事後指導:10%

保育実習 B

担当者：坂本 佳代子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本科目は、保育所以外の児童福祉施設やその他の社会福祉施設での養護を実際に実践するものです。これにより、保育士としての資質・能力・技術を習得することを目的とします。更に実習を通して、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うものです。

上記の目的を実践する機会としての実習である。

施設現場組織の中で役割責任を負っている職員の働き方と業務内容を把握し、職員の責務の一端を担う体験をしてみます。

カリキュラム上の位置づけ：

「保育実習」及び保育士資格に関連する科目を、適切な評価で修得した者が履修できる。保育士資格取得のためには、「保育実習A」または「保育実習B」のいずれかを修得することが条件となっている。

2.学びの意義と目標

児童家庭福祉の拠点でもある児童センターや、障害のある子どもが通う児童発達支援センター等が、実際に行っている活動を体験的に学ぶ。また、それら広義の社会的養護事業所が、子育て支援を中心に、地域で果たす役割を理解すること。

準備学習(予習)

社会人としての基本を確認し、実習の目的を常に意識しながら実践できるように心がけてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに、前回学習内容を質問し確認します。

授業計画

1. 保育実習を始めるにあたって
2. 実習施設の理解
3. 実習課題の設定
4. 実習記録について
5. 実習上の留意点
6. 施設養護の現場に臨む
7. 実習の反省と評価
8. 今後の学習課題について
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習施設評価:50% (2)提出物:40% (3)授業態度:10%

保育実習指導

担当者：田澤 薫, 坂本 佳代子

開講期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行うための事前学習、保育所での実習、居住型施設での実習、事後学習を行う。必ず「保育実習」と併せて履修すること。

カリキュラム上の位置づけ：

- ・保育士資格取得のための必修科目である。
- 学生要覧に記されている前提科目の単位が取得できていることが、履修の条件である。
- ・保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

2.学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

準備学習(予習)

初回の授業までに保育所保育指針を読み込んでおく。施設に関連する保育・福祉用語を調べて実習に臨むこと。

第10回授業時配布図書を、読み込んでおく。

準備学習(復習)

授業ノートをまとめる。
授業で指示した課題に誠実に取り組み提出日時を厳守する。

授業計画

1. 保育実習について
2. 実習生個人調書（1）
3. 実習先オリエンテーションについて
4. 実習日誌について
5. 保育所実習の実際（1）
6. 保育所実習の実際（2）
7. 部分実習と保育指導案
8. 責任実習と保育指導案
9. 保育所実習の振り返り・お礼状について / 事後指導面談
10. 居住型施設への準備 / 事後指導面談
11. 個別の実習課題と実習生個人調書
12. 居住型施設と保育所との相違について / 事後指導面談
13. 居住型施設の種類と特徴（1） / 事後指導面談
14. 居住型施設の種類と特徴（2） / 事後指導面談
15. 居住型施設実習の実際（健康面） / 事後指導面談
16. 居住型施設実習の実際（コミュニケーション） / 事後指導面談
17. 居住型施設実習の実際（多職種連携） / 事後指導面談
18. 実習先オリエンテーションについて / 事後指導面談
19. 実習日誌について（1） / 事後指導面談
20. 実習日誌について（2） / 事後指導面談
21. 居住型施設実習の振り返り・お礼状等 / 事後指導面談
22. 実習教材の発表（1） / 事後指導面談
23. 実習教材の発表（2） / 事後指導面談
24. 実習教材の発表（3） / 事後指導面談
25. 実習教材の発表（4） / 事後指導面談
26. 実習教材の発表（5） / 事後指導面談
27. 保育士の資質と適性
28. 個別実習課題の振り返り（1） / 事後指導（個人面談）
29. 個別実習課題の振り返り（2） / 事後指導（個人面談）
30. 実習報告会

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」を初回授業で配布する。
全国社会福祉協議会・全国児童養護施設協議会編「この子を受け止めて、育むために」を第10回授業時に配布する。

評価方法

課題はペン書きとする。提出日時に遅れた場合は減点する。

保育実践演習

担当者：谷脇 由季子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本授業は、保育士を志望する学生に対して、保育をめぐる社会的状況について、演習という形で、自ら考え、仲間と討論を重ねて、保育への自分なりのスタンスを確立するためのものである。そのテーマとしては、現在、特に現代の家族観、少子化、幼保一元化などを考えている。

カリキュラム上の位置づけ：
保育士資格取得のための必修科目

2.学びの意義と目標

上記の内容に即して、第一には、保育をめぐるさまざまな社会的状況について学ぶことが本授業の目標である。また本授業は、講義とは異なり演習であるので、テーマについてまず自ら調べ、考え、そしてそれを持ち寄って仲間と討論するという一連の作業を必要とする。そうしたことを通じて、主体的な学びを実践的に身につけ、研究の方法論を学ぶことも目標とする。

準備学習(予習)

詳しいことは、ガイダンスで指示しますが、テーマ設定やグループ内討論の準備などを予習として必ずおこなうことを求めます。

準備学習(復習)

詳しいことはガイダンスで指示しますが、講義の回で配布された資料をもう一度見直すこと、また、グループ内討論を受けて次回の準備することなどを復習として求めます。

授業計画

1. ガイダンスと日本の少子化の現状（講義）
2. 幼保一元化とは（講義）
3. 研究の方法について（講義）
4. 資料検索の仕方などについて（講義）
5. テーマ設定について（講義）
6. テーマ発表とグループング
7. 発表準備とグループ内討論
8. 発表準備とグループ内討論
9. 発表準備とグループ内討論
10. 発表準備とグループ内討論
11. グループ別発表と全体の討論
12. グループ別発表と全体の討論
13. グループ別発表と全体の討論
14. グループ別発表と全体の討論
15. 春学期のまとめ、課題レポート提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)発表:30% (3)課題レポート:40%

授業への出席は、たんにそこにいることだけでは評価されません。グループ内討論への積極的な参加を求めます。また、発表内容に関しても、それぞれがどれだけ自分たちの知見を深めることができたかを含めた評価となります。それを踏まえて、自分なりの総括としての課

保育実践演習

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では現代的課題である「少子高齢化」に焦点を当て授業を行う。各自ないしグループ毎に、提示されたトピクス（少子高齢化の実体とそれを生み出した背景、少子社会の問題、現代女性の結婚と出産に関する意識、なぜ国や自治体を挙げての子育て支援が必要なのか、父親の子育て参加は可能か等）の中から取り組むテーマを設定し、資料収集・調査・分析を行いレポートにまとめる。

更にそれをパワーポイントやビデオを用いて発表し、発表について受講者が相互に協議・検討を加える。ことで、現代的課題について専門職としての理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来るようになることを目指す。

グループごと或いはクラス全体でのディスカッションを重視し、意見交換を通じて一つの事象に対して多角的に事象を捉える能力の獲得を目指す。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目

2.学びの意義と目標

「少子高齢社会」という現代的を背景に浮上した社会的課題について、専門職としての理解を深め、子どもや親たちに保育師として専門的な見地から適切な指導が出来るようになることを目指す。

グループごと或いはクラス全体でのディスカッションを重視し、意見交換を通じて一つの事象に対して多角的に事象を捉える能力の獲得を目指す。

準備学習(予習)

自分たちの発表で扱うテーマについては、常に新聞や書籍などに注意を向け資料を収集したりすることを期待したい。

授業時に配布する資料については、事前に必ず目を通して内容を理解して授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に扱った、資料の内容、専門用語、あるいは他グループの発表内容について、事後の復習を通じて、わからない点が内容に学習を定着させること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 図書館ツアー
3. 少子高齢化社会と保育における現代的課題（講義1）
4. 少子高齢化社会と保育における現代的課題（講義2）
5. 少子高齢化社会について(研究テーマの提示・決定とグループ分け)
6. 発表準備
7. 発表準備
8. 発表準備
9. 発表準備
10. グループ別発表
11. グループ別発表
12. グループ別発表
13. グループ別発表
14. 課題レポートの書き方（講義）
15. 学期のまとめ・課題レポート提出

教科書

河野哲也 『『レポート・論文の書き方入門』』（慶応大学出版会）

評価方法

(1)出席点:20%:基礎実習、介護等体験、病欠、忌引き等による欠席も公欠扱いにならない。(2)グループ発表:40% (3)レポートの評価:40%

保育実践演習

担当者：谷脇 由季子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本授業は、保育士を志望する学生に対して、保育及び幼児教育の歴史を概観するとともに、海外の状況（特に北欧）にまで視野を広げ、今一度「保育とは何か」という原点に立ち返って主体的に学ぶことを目的としたものである。

カリキュラム上の位置づけ：
保育士資格取得のための必修科目

2.学びの意義と目標

上記の内容に即して、第一には、保育及び幼児教育について歴史的観点という縦の線と比較の観点という横の線をクロスして、立体的に見直すことが本授業の目標である。また本授業の受講生は、すでに春学期の保育実践演習において、主体的な学びを実践的に身につけ、研究の基礎について学んでいるはずであるので、本授業でより発展的な研究方法を身につけてほしい。

準備学習(予習)

詳しいことは、ガイダンスで指示しますが、テーマ設定やグループ内討論の準備などを予習として必ずおこなうことを求めます。

準備学習(復習)

詳しいことはガイダンスで指示しますが、講義の回で配布された資料をもう一度見直すこと、また、グループ内討論を受けて次回の準備することなどを復習として求めます。

授業計画

1. 保育及び幼児教育の歴史について（講義）
2. 保育及び幼児教育の歴史について（講義）
3. 北欧型子育て観とその施設について（講義）
4. テーマ設定について（講義）
5. テーマ発表とグループング
6. 発表準備とグループ内討論
7. 発表準備とグループ内討論
8. 発表準備とグループ内討論
9. 発表準備とグループ内討論
10. 発表準備とグループ内討論
11. グループ別発表と全体の討論
12. グループ別発表と全体の討論
13. グループ別発表と全体の討論
14. グループ別発表と全体の討論
15. 秋学期のまとめ、課題レポート提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)発表:30% (3)課題レポート:40%

授業への出席は、たんにそこにいることだけでは評価されません。グループ内討論への積極的な参加を求めます。また、発表内容に関しても、それぞれがどれだけ自分たちの知見を深めることができたかを含めた評価となります。それを踏まえて、自分なりの総括としての課

保育相談支援

担当者：上野 直子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回

単位数：1単位

講義概要

1.内容

保育相談支援とは、子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識や技術を背景として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指します。

そこで、保育相談支援の基本と実践力をつけるため、以下の4つの目標達成に向けて、学生相互でのグループ活動等を通して学んでいきます。

- (1)保育相談支援の意義と原則について理解する。
- (2)保護者支援の基本を理解する。
- (3)保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
- (4)保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

カリキュラム上の位置づけ：

保育士資格取得のための必修科目（演習）となります。

2.学びの意義と目標

保護者の支援には、保護者の思いに気付く経験が重要です。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、保護者の気持ちになってみると、よりよい支援の手掛かりを考えていきましょう。

準備学習(予習)

授業では毎回ディスカッションの時間を設定。事前にテーマを提示しますので、準備学習して下さい（A4用紙1枚程度）。授業終了後、感想をまとめ、提出を求めています。

準備学習(復習)

授業ノートを整理すること、提出課題に記載されたコメント、授業時に指定した教科書の該当箇所などを読み返し、学習の振り返りを行ってください。

授業計画

1. 保育者に対する保育相談支援の意義
2. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
3. 子どもの最善の利益と福祉の重視
4. 子どもの成長の喜びの共有
5. 保護者の養育力の向上に資する支援
6. 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
7. 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
8. 保育に関する保護者に対する指導
9. 保育者支援の内容
10. 保育者支援の方法と技術
11. 保育者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12. 保育所における保育相談支援の実際
13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:20%:授業態度なども含む (2)提出課題・ディスカッションへの参加:40%:毎回の課題実施状況なども含む (3)学期末評価:40%
学期末にはテストあるいは学期末レポートを実施の予定です。

保育内容総論

担当者：相川 徳孝

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。

カリキュラム上の位置づけ

本授業は幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得する際の、「教育課程及び指導法に関する科目」「保育の内容・方法の理解に関する科目」として設定されているものであり、十分な理解が求められている内容である。

2.学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針を通して幼稚園と保育所の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、

授業計画

1. 幼稚園・保育所における保育の基本
2. 幼稚園教育要領と保育所保育指針
3. 保育内容と領域の意義について
4. 0歳から2歳児の発達と保育内容
5. 3歳から5歳児の発達と保育内容
6. 保育内容の変遷
7. 保育における遊びの意義
8. 教育課程と保育課程
9. 指導計画の意義
10. 家庭・地域・小学校との連携について
11. 保育の多様な展開(1)
12. 保育の多様な展開(2)
13. 保育者の専門性と資質向上
14. 今後の保育ニーズについて
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:80% (2)レポート:20%
レポート課題等の提出は期限を守ること。

保育内容の研究・環境

担当者：永井 理恵子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

幼稚園・保育所においておこなわれる保育は、多様な「環境」をとおして実践される。
本講義では、この「環境」の基礎的理解を得るとともに、多岐に亙る「環境」の事例とその具体的な内容を学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：

保育所保育士、幼稚園教諭を目指す学生の資格取得のための必須科目である。

2.学びの意義と目標

保育の「環境」は、得てして保育者の直接的な働きかけの背後に隠れ、忘れられたり、なおざりにされたりしやすいものである。しかし、幼稚園・保育所における保育実践は、「環境」を通さずして実践されるものは一つもない。こうした、隠れた存在である「環境」に目を向けられるようにするとともに、多様な「環境」の選択・設定をおこなう視点を習得する。

準備学習(予習)

「予習」というわけではないが、毎週、様々な活動をする。教師の指示に従い、道具の準備、外出の準備など、学習内容に応じた準備をおこなうこと。

準備学習(復習)

これは非常に重要である。授業中に学んだことをレポートに書いたり、各自の課題に応じて調べ学習をしたりする。

授業計画

1. 「環境による教育」について
2. 保育内容「環境」の意味と意義
3. 保育内容「環境」の位置と構造
4. 保育内容「環境」に含まれる事柄
5. 他の4領域との関係性
6. 保育内容「環境」の実際 1 自然環境 1
7. 保育内容「環境」の実際 2 自然環境 2
8. 保育内容「環境」の実際 3 数量・図形
9. 保育内容「環境」の実際 4 文字
10. 保育内容「環境」の実際 5 園舎や保育室
11. 保育内容「環境」の実際 6 保育室にある様々なもの
12. 保育内容「環境」の実際 7 植物と食育
13. 保育内容「環境」の実際 8 社会的環境（実地見学）
14. 保育内容「環境」の実際 9 様々な遊具の体験
15. 総括

教科書

三宅 茂夫, 爾 寛明, 大森 雅人 『保育内容「環境」論 (MINERVA保育実践学講座)』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

- (1)出席率:50%:とにかく出なければならない。
- (2)出席の態度:20%:寝ていたり、話してはならない。
- (3)提出物の成果:30%:大量の提出物があるので、必ず提出する。

担当者：鈴木 明

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：

幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目である。

心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。

2.学びの意義と目標

幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつくられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。

準備学習(予習)

常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。

授業計画

1. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境）
2. 『幼児のからだの発達』（発育と発達）
3. 『心の発達と健康（1）』（知覚と認知）
4. 『心の発達と健康（2）』（生活習慣の発達）
5. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得）
6. 『幼児の保健（1）』（幼児の栄養・休養・睡眠）
7. 『幼児の保健（2）』（幼児の病気や事故）
8. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭）
9. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本）
10. 『領域「健康」の指導の仕方（1）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方）
11. 『領域「健康」の指導の仕方（2）』（生活習慣と指導の仕方）
12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例）
13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備）
14. 保育所保育指針での保育内容の構成
15. 保育の計画と評価

教科書

授業の中で指示する
初回の授業時に参考図書も含めて指示します。

評価方法

- (1)試験:50%:授業で学んだことの点検
- (2)ショートテスト:40%:毎事業時に確認のテストを行う
- (3)授業意欲:10%:授業時の質疑応答
毎回の授業終了時にショートテストを行う。結果を重視するので、出席しているだけでは成績に加算されないので注意すること。

保育内容の研究・言葉

担当者：上野 直子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回

単位数：2単位

講義概要

1.内容

保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。

そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関する理解を深めます。

並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います(わらべ歌、手遊び歌、絵描き歌、言葉遊び、折り紙、製作、絵本など)。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょう。

カリキュラム上の位置づけ：

本科目は幼稚園免許取得、保育士資格取得のための必須科目となっています。

2.学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持っていただきたいと思います。

準備学習(予習)

ことばに関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

準備学習(復習)

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思います。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について
3. ことばの発達過程について(ことばの前のことば)
4. ことばの発達過程について(一次のことば)
5. ことばの発達過程について(二次のことば)
6. 遊びと言葉 1
7. 遊びと言葉 2
8. 文字との出会い
9. ことばの問題と援助
10. 保育活動実践上の留意点について(指導案の作成)
11. ことばを促す保育教材作り・指導案作成
12. ことばを促す保育教材作り・指導案作成
13. ことばを促す保育教材作り・指導案作成
14. 発表
15. 発表・まとめ

教科書

秋田 喜代美, 野口 隆子 『保育内容 言葉 (新保育シリーズ)』 (光生館)

評価方法

- (1)出席:30%:授業態度も含まれます。
- (2)演習など:70%:小テスト、個別教材ノート、課題、発表など上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思います。

保育内容の研究・人間関係

担当者：横井 紘子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。

カリキュラム上の位置づけ：

幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための必修科目である。

2.学びの意義と目標

人とかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。

準備学習(予習)

幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい

準備学習(復習)

授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する

授業計画

1. 保育の基本と領域「人間関係」
2. 乳幼児期の人間関係の発達と特性
3. 乳幼児期の人間関係の発達と特性
4. 乳幼児期の人間関係の発達と特性
5. 領域「人間関係」の歴史の変遷
6. 入園期の心の安定と人間関係
7. 3歳児の人間関係(1)保育者との関係
8. 3歳児の人間関係(2)友だちへの思い
9. 4歳児の人間関係(1)さまざまな葛藤
10. 4歳児の人間関係(2)葛藤を超えて
11. 5歳児の人間関係(1)仲間関係の深まり
12. 5歳児の人間関係(2)協同的な遊び
13. 地域社会におけるさまざまな人とかかわり
14. 「気になる子」をめぐる人間関係
15. まとめ 人間関係を捉える視点

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30% (2)課題:20% (3)期末レポート:50%
欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する

保育内容の研究・表現 A

担当者：相川 徳孝

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

カリキュラム上の位置づけ：

この科目は幼稚園免許取得、保育士資格取得のためには必修となる科目である。

2.学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.保育の基本と領域「表現」について
- 3.幼稚園教育要領における「表現」
- 4.保育所保育指針における「表現」
- 5.子どもの発達と表現
- 6.歌の伴奏とコードについて
- 7.子どもの表現(1)歌唱
- 8.子どもの表現(2)わらべ歌遊び
- 9.子どもの表現(3)動きのリズム
- 10.子どもの表現(4)身体表現
- 11.指導計画について
- 12.総合的な表現活動としての劇活動(1)
- 13.総合的な表現活動としての劇活動(2)
- 14.総合的な表現活動としての劇活動(3)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験とレポート:80% (2)各自の表現:20%

保育内容の研究・表現 B

担当者：柴田 和豊

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、子どもたちの造形的発達の特性と造形活動についての多面的な学習を通して、幼児の造形表現についての理論的視点と実践的能力の育成を図る。また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。

カリキュラム上の位置づけ：
幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目。

2.学びの意義と目標

子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、またその前提として、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気付き、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

最初に幼稚園教育要領と保育所保育指針における表現についての記述を読んでおくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、単元ごとに、よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。

授業計画

1. オリエンテーションー造形表現の大切さと多様性
2. 保育所保育指針と造形表現
3. 幼稚園教育要領と造形表現
4. 触覚的な表現 1 - 粘土を中心に
5. 触覚的な表現 2 - 紙・布・自然物を中心に
6. 触覚的な表現 3 - 人工物を中心に
7. 視覚的な表現 1 - 児童画の登場（その歩みと意義）
8. 視覚的な表現 2 - 子どもの描画の特徴
9. 視覚的な表現 3 - なぐり描きの体験
10. 子どもたちの生活と造形表現 - 装飾
11. 子どもたちの生活と造形表現 - コミュニケーション
12. 表現の総合性
13. 模擬授業 1
14. 模擬授業 2
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:25%:欠席が4回を越えると評価外 (2)提出物:50% (3)試験:25%

幼児指導法の研究

担当者：佐藤 千瀬

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

幼児理解の理論や方法（幼稚園教育要領・保育所保育指針における「指導」の概念、幼児理解の理論、方法論等）について概説し、幼児理解に関する基本的な理論と方法論の理解を目指す。本講義では、幼児の発達の特徴、幼児理解の理論と方法論を踏まえたうえで、ビデオ視聴等を通して、観察法等の方法論の実際を学ぶ。また、具体的な幼児の事例を分析することを通して、幼児理解を深め、幼児理解の留意点等について学ぶ。

カリキュラム上の位置づけ：

幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。また、保育士資格取得のための選択必修科目である。

2.学びの意義と目標

・様々な実践例を視聴することを通して、幼児理解、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。

・講義で学んだ内容をもとに、適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表（模擬保育）を行う。

準備学習(予習)

- ・指導計画を収集し分析すること
- ・発表準備をすること

準備学習(復習)

- ・小テストの準備をすること
- ・授業で視聴した事例の分析をすること
- ・エピソード記録を作成すること
- ・発表のフィードバックをもとにレポートを作成すること

授業計画

1. オリエンテーション 幼児理解の方法 観察 事例分析と幼児理解の留意点
2. 幼稚園教育要領における指導計画
3. 保育所保育指針における指導計画
4. 長期の指導計画と短期の指導計画
5. 幼児理解の方法 記録
6. 行事
7. 事例分析 発表準備
8. 家庭・地域との連携
9. 幼保小の連携
10. 事例分析 発表準備
11. 事例発表
12. 事例発表
13. 事例発表
14. 事例発表
15. 多様な実践例

教科書

文部科学省 『幼稚園教育要領解説 平成20年10月』(文部科学省)
厚生労働省 『保育所保育指針解説書(平成20年)』(厚生労働省)
文部科学省 『幼稚園教育要領 平成20年告示』(文部科学省)
厚生労働省 『保育所保育指針 平成20年告示』(厚生労働省)

評価方法

(1)平常点:30%:出席点ではない。(2)小テスト:30%
(3)指導計画分析・記録・出席票:20% (4)行事発表:10% (5)レポート:10%

毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。

幼稚園教育実習

担当者：相川 徳孝

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

幼稚園で3週間の実習を行うことを目的とした科目であり、すでに履修している基礎実習を土台とし、外部の幼稚園に実習生として指導を受けながら実習していく。授業内容としては子どもに対する具体的な援助方法、教材研究を中心に実習に向けての事前準備を中心に進めていく。

2.学びの意義と目標

実習を通して保育者としての使命感と子どもに対する理解を深め、各自の資質の向上をはかることや、子どもの発達に適した対応ができる実践的な力を養う。また、実習後の事後指導において自己課題を見出すことも学びの目標である。

準備学習(予習)

基礎実習終了後の個別指導において確認した各自の自己課題に取り組むこと。また、実習で生かせる保育実技(手遊び、ピアノ等)を準備しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に提示された課題について、同じ間違いをしないように自分のものとしておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.幼稚園教育要領の理解
- 3.実習における自己課題
- 4.年齢別の指導について(1)
- 5.年齢別の指導について(2)
- 6.年齢別の指導について(3)
- 7.各自の実習内容と指導案作成について
- 8.実習日誌の記入について(1)
- 9.実習日誌の記入について(2)
- 10.幼稚園実習
- 11.幼稚園実習
- 12.幼稚園実習
- 13.事後指導(1)
- 14.事後指導(2)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)実習評価:80% (2)事前準備:10% (3)事後指導:10%
実習に行くためにどのような事前準備をしたか、また実習でそれを生かすことができたかが重要なポイントとなる。

理科

担当者：菊地 昌子

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

理科好きの子供は理科好きの教師から生まれる。ここでは小学校の理科の指導内容を観察実験中心に実践的に研究し、理科の目標、内容、指導方法、操作方法、安全性などを考慮した理科学習についての理解を深める。また受講者自身が理科の楽しさを味わい、知的好奇心を高め、日常生活に活用できるよう「生活の中の科学」での自作実験、人の身体と類似したブタの内臓の解剖なども取り入れ受講者自身の興味関心を高めることを目指す。

2.学びの意義と目標

本講座では受講者が将来小学校の教師として理科を学ぶ児童にさまざまな実験観察を通して小学校理科教育の基礎を身につけさせるとともに自然事象の不思議さやおもしろさにふれさせながら感動を与えられる理科教育の学習指導力を身につけることがねらいである。よって、本講座を通して理科教育に自信を持って指導できる人材育成を目標とする。

準備学習(予習)

シラバスに当日の学習課題をのせてあるので、必ずその課題を含めた内容について知識面・技能面・安全面等の確認をしておくこと。その上でどのように子供に学習を促すか考えてくること。

準備学習(復習)

実験観察などの結果や考察の仕方が理論(予習)と合ったか、合わないとすれば原因は何か考えること。
また授業を通して学ばせ方などを含め気付いたことは何かメモしておくと共に次回への心構えを持つこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション：学習指導要領解説・測定など
- 2.植物の発芽、成長、結実 (5年)：種子が芽を出すために何が必要か(予想・計画・準備・レポート準備)
- 3.動物の誕生(5年)：魚は何を食べているか【顕微鏡の扱い方】(観察・技能)小テスト
- 4.金属・水・空気と温度(4年)：湯気の正体は何か【加熱器具の扱い方】(観察・考察・技能)
- 5.振り子の運動(5年)：振り子の1往復する時間は何によって変わるか(予想・計画・測定・考察)小テスト
- 6.電流の働き(5年)：電磁石の働きはどのようにすると大きくなるか(予想・計画・測定・考察)
- 7.月と太陽(6年)：月の形が日によって変わって見えるのはなぜか(推測・モデル化・説明)小テスト
- 8.植物の発芽、成長、結実 (5年)：種子が芽を出すために何が必要か(観察・まとめ・考察・レポート提出)
- 9.植物の養分と水の通り道(6年)：根から取り入れられた水の通りみちはどこか。【顕微鏡の扱い方】(観察・考察)
- 10.水溶液の性質 (6年)：水溶液の違いを調べる【薬品の取り扱い】
- 11.水溶液の性質 (6年)：指示票を作る。確める。(技能・観察・意欲)小テスト
- 12.人の体のつくりと働き (6年)：豚の内臓(全体・パーツ)(説明・観察・意欲)
- 13.人の体のつくりと働き (6年)：豚の内臓・感想とまとめ
- 14.生活の中の科学：楽しめる実験(各自)実習(技能・意欲)
- 15.まとめとテスト

教科書

文部科学省,文科省=『小学校学習指導要領解説 理科編 平成20年8月』(大日本図書)

評価方法

- (1)出席点:15% (2)テスト:35%:小テスト5回、大テスト1回
(3)その他:50%:関心・意欲・態度・提出物・理科的思考・技能・発言等

5割未満は不可とする

理科教育法

担当者：石井 恭子

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

小学校理科の授業を実際に経験し、実験道具の扱いや安全指導について体験を通して学ぶ。小学校理科の授業を担当するために必要な技能と知識を身につけ、児童の関心意欲を高め科学的概念を形成するための課題の意味を考え、目的意識を持った実験を経験する。学習指導要領、教科書、指導案などをていねいに読み込み、小学校における理科の内容の系統性について知る。学習指導計画・授業案を作成する演習を行い、授業作りに対する意欲を持つ。実際の小学校における授業をビデオ視聴し、授業における子どもの考えや表現、教師のかかわりについて検討する。

2.学びの意義と目標

<学びの意義>

小学校の教育において、理科という教科は、命や生活に関わる内容が多く、学校を卒業して社会に出てからも必要な概念を学ぶ重要な教科である。また、理科室の経営や実験の指導など、教科に固有の知識や技能が求められる。しかし、小学校の学級担任の多くは中学校高等学校で理科に関する学習を深く経験していないため、教えることに苦手意識を持つことが多い。安全に実験を行い、子どもの興味関心を受け止め伸ばしていくために、まず教師になる皆さん自身が、自然科学に興味・関心を持ち、理科の授業を自信と意欲を持てるように本講義を行いたい。

<目標>

自らの科学への興味・関心を高め、小学校教師として基礎的な知識・技能を身につける。科学的概念を身につける理科の授業のあり方を考える。小学校の学級担任として、理科の授業を安全に適切に行うためには、まず教師自らが科学に対する興味・関心を持つことが大切である。「なぜだろう?」「不思議だな」という思いを持ち、問いを持って実験観察を行い、気づき・発見を表現し交流することを通して、科学的概念を身につけていくプロセスを経験し、理科の授業づくりへの意欲と展望を持つ。

準備学習(予習)

準備学習(復習)

授業計画

- 1.オリエンテーション・小学校の理科を思い出そう・体験しよう/マッチ、ろうそく、アルコールランプ、(ガスバーナー)
- 2.理科の授業を体験しよう 化学分野/物の溶け方、水溶液 実験道具の扱い
- 3.理科の授業を体験しよう 化学分野/状態変化、熱の伝わり方 安全指導の基礎
- 4.理科の授業を体験しよう 地学分野/方位磁針、太陽の動き、月の満ち欠け、星の観察
- 5.理科の授業を体験しよう 生物分野/虫めがね、植物の体とはたらき、観察
- 6.授業の実際 /問題解決授業 探究 仮説実験授業 ふりこ
- 7.授業の実際 /疑問から課題をつくる 物の燃え方
- 8.授業の実際 授業ビデオから学ぶ/小学生のものの考え方、教師の関わり
- 9.授業の実際 /野外観察
- 10.授業の実際 /ICTの使い方、資料の使い方
- 11.授業作りを学ぼう /指導案・教科書・学習指導要領
- 12.授業作りを学ぼう /単元の意味、指導計画の意味
- 13.授業作りを学ぼう /本時のねらい、本時案、指導と評価
- 14.授業作りを学ぼう /言語活動、ものづくり、指導と評価
- 15.まとめ、ふりかえり

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学びの履歴:40% (2)ミニテスト:30% (3)授業中課題レポート:20% (4)授業後課題レポート:10%
- 1.毎時間のリフレクションシート - 2.授業内容の理解ミニテスト
 - 3.グループワークや個人課題のレポート
 - 4.振りかえりレポート